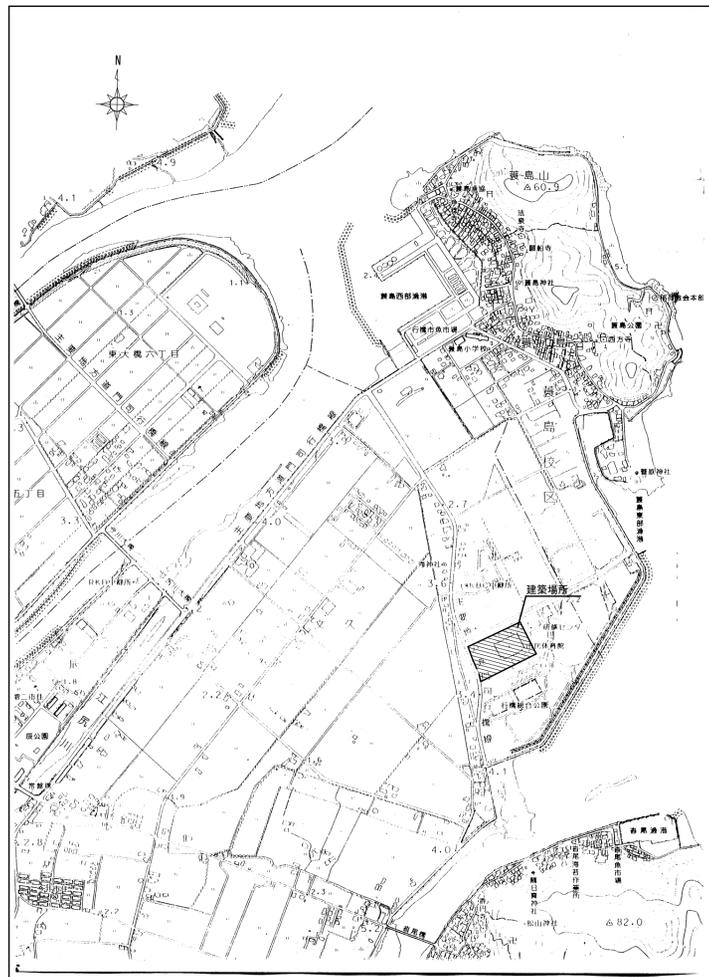








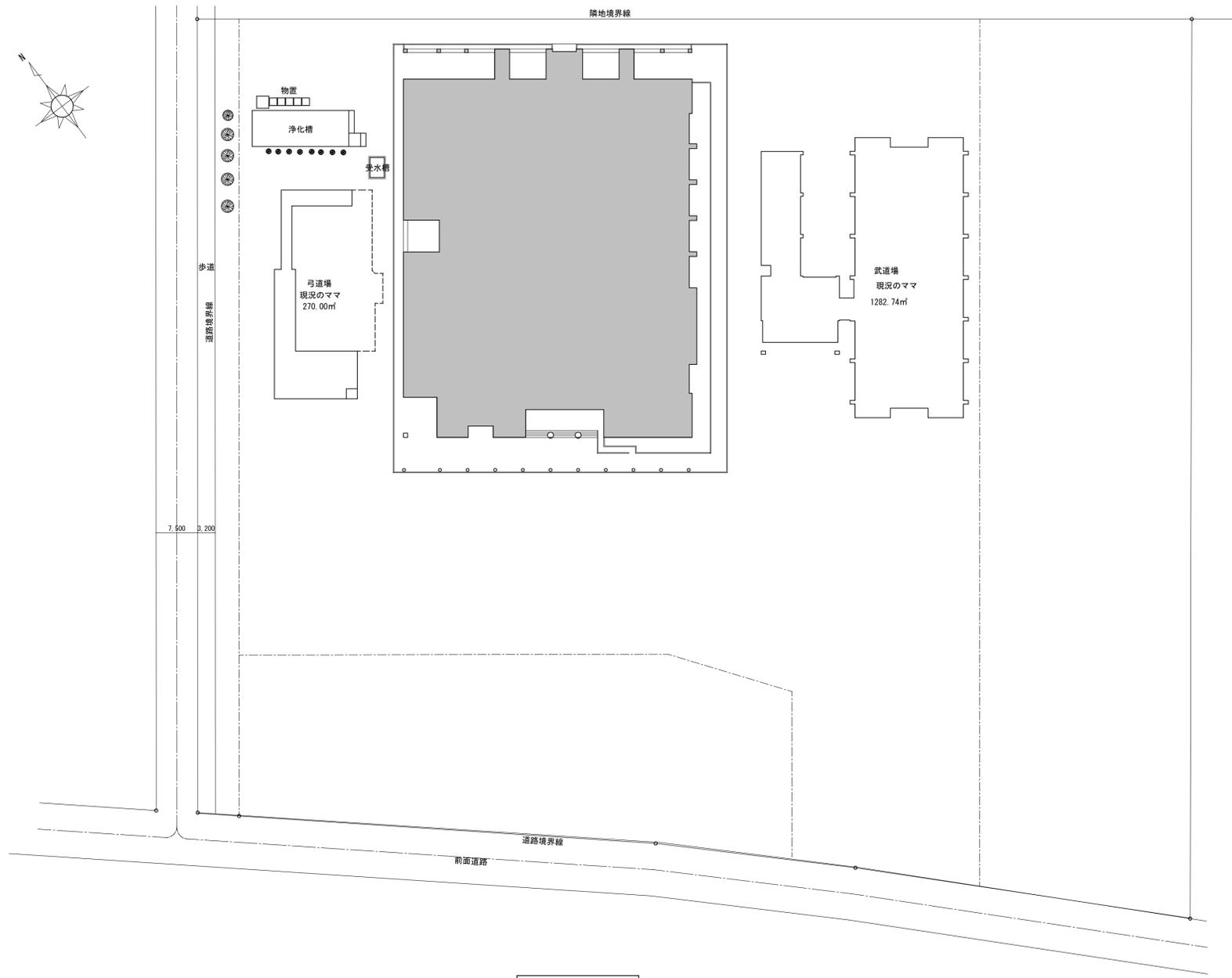
No.2 平成29年度改訂		290401																																																								
章 項 目	特 記 事 項																																																									
6	<p>6. 検査及び後片付け</p> <p>(1) 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で床などの清掃を行う。  (2) 監督職員立会いのうえ、除去が十分に行われたかを、目視により検査を行う。  (3) 養生用のプラスチックシートに付着した粉じんの再飛散を防止するために、シート全体にまんべんなく粉じん飛散抑制剤を散布する。  (4) 壁面等の養生用のプラスチックシートの撤去は、負圧・除じんを十分に吸引、ろ過した時点又は粉じん飛散抑制剤吹付後、沈降した時点で行う。  なお、シートは、取り外して粉じん付着面を内側に折りたたみ、プラスチック袋に入れる。  (5) 養生を行っている足場、仮設材を清掃した後に解体撤出する。  (6) 床養生用プラスチックシートは、粉じん付着面を内側に折りたたみ、プラスチック袋に入れる。  (7) 養生用のプラスチックシート等の廃棄物は、5(2)により処理等を行う。  (8) 後片付け終了後は、高性能真空掃除機で床等の清掃を行う。</p> <p>7. 施工記録</p> <p>(1) 施工記録報告書を作成し、監督員に提出する。  (2) 施工記録報告書は、下記事項により作成する。  (i) 施工計画書  (ii) 工事記録及び工事写真  (iii) 産業廃棄物処理記録  (iv) 施工調査等記録  (v) 作業者の作業記録、各種健康診断記録、安全衛生教育記録  作業者の作業記録、特殊健康診断記録は石綿則により40年間保存しなければならない。  (vi) その他必要事項</p>	<p>③. 安全衛生管理</p> <p>(1) 建物内部で除去作業を行う場合は閉閉部位（出入口、喚起孔、窓等）は閉とし、ガラスの破損箇所等で閉となっている部分を、養生シート等で塞ぐものとする。  (2) 建物外周で除去作業を行う場合は、当該部分を養生シート等で囲う。  (3) 施工区画出入口に、「アスベスト含有成形板除去中、関係者以外の立ち入り禁止」を、作業場所の出入口に呼吸用保護具着用を提示する。</p> <p>④. 除去処理工事</p> <p>(1) アスベスト含有成形板の除去  (i) 除去は、アスベストを含まない内装材及び外部建具等の撤去にさきかけて行う。  (ii) 除去は可能な限り破壊又は破断を伴わない方法で行うものとし、原則として、「手ばらし」とする。  (iii) 除去作業中は、原則として散水その他により、アスベスト含有成形板を常に湿潤な状態として作業を行う。  (2) アスベスト含有成形板の集積、運搬等  (i) 除去したアスベスト含有成形板の集積及び積み込み当たっては、高所より投下しない等のほか、粉じんの飛散防止に努める。  (ii) 細かく粉砕されたアスベスト含有成形板は、湿潤化の上、丈夫なビニール袋に入れる等、飛散防止の措置を講じる。  (iii) 除去したアスベスト含有成形板を運搬するまでの間、現場内に保管する場合は、一定の保管場所を定め、一般の内装材と別して保管するものとし、シートで覆う等、飛散防止の措置を講じる。また、保管場所には、アスベスト含有成形板の保管場所であることを表示を行う。  (iv) アスベスト含有成形板の運搬に当たっては、運搬車両の荷台全体をシート等で覆い飛散防止に努める。  (v) アスベスト含有成形板の撤去、集積、積み込み及び保管等の処理が完了した場合は、速やかに監督職員に報告し、確実に処理されたことの確認を受ける。  (3) 除去物の処分等  (i) アスベスト含有成形板は、関係法等に従い適切に処分する。  (ii) 撤去されたアスベスト含有成形板の処分が完了した場合は、マニフェストを監督職員に提出し、処分が確実に行われたことの確認を受ける。  なお、マニフェストは、アスベスト含有成形板であることを明示する。</p> <p>⑤. 検査及び後片付け</p> <p>(1) 除去作業が終了後、アスベスト含有成形板の破片、破断粉および作業衣等に付着した粉じんが残存しないように、真空掃除機等により、清掃および片付けを十分に行う。  (2) 監督職員の立会いのうえ、除去が十分に行われたことを、目視により検査を行う。</p> <p>⑥. 施工記録</p> <p>(1) 施工記録報告書を作成し、監督職員に提出する。  (2) 施工記録報告書は、6.7により作成する。</p>	<p>3. 吸音材</p> <table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>品 質 ・ 規 格</th> <th>厚 さ</th> </tr> <tr> <td>・ロックウール吸音材</td> <td>ロックウール吸音ボード1号 (60K)</td> <td>・25 ・ ( )</td> </tr> <tr> <td>・グラスウール吸音材</td> <td>グラスウール吸音ボード2号32K グラスウール (JIS R3414-P-17A) 類繊維</td> <td>※25</td> </tr> </table> <p>ガラスクロス張りグラスウール吸音ボード (910×1820) の取付け工法  ポロプロビレン及びプラスチックファスナー留め 4本/m程度以上</p> <p>4. のり付付け (15.7.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種</th> <th>類 色</th> <th>採 厚</th> <th>さ</th> </tr> <tr> <td>・一般用</td> <td>・ ( )</td> <td>・着色</td> <td>・原色</td> </tr> <tr> <td colspan="4">※ホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆等級のもの・ ( )</td> </tr> </table> <p>5. 木質繊維吹付け</p> <table border="1"> <tr> <th>種</th> <th>類 色</th> <th>採 厚</th> <th>さ</th> </tr> <tr> <td>・一般用</td> <td>・ ( )</td> <td>・着色</td> <td>・原色</td> </tr> <tr> <td colspan="4">※ホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆等級のもの・ ( )</td> </tr> </table> <p>6. 塗装材料</p> <p>屋内の壁及び天井の塗装仕上げ材は、建築基準法に基づき防火材料の指定又は認定を受けたものとする。 (18.1.3)</p> <p>7. 塗装業者</p> <p>・ (社) 日本塗装工業会の会員 ※監督員の承諾する塗装業者</p>	材 種	品 質 ・ 規 格	厚 さ	・ロックウール吸音材	ロックウール吸音ボード1号 (60K)	・25 ・ ( )	・グラスウール吸音材	グラスウール吸音ボード2号32K グラスウール (JIS R3414-P-17A) 類繊維	※25	種	類 色	採 厚	さ	・一般用	・ ( )	・着色	・原色	※ホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆等級のもの・ ( )				種	類 色	採 厚	さ	・一般用	・ ( )	・着色	・原色	※ホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆等級のもの・ ( )				<p>除去工事作業の手順は「改修指針」図9.1.6iによる。</p> <p>アスベスト除去写真撮影要領</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>除去着工前の清掃</li> <li>ビニール養生（床二重が分かる撮影・養生養生・機器養生等）</li> <li>クリーンルームの撮影（設置状況、完了時）</li> <li>負圧除塵装置撮影（フィルター確認状況を含む）</li> <li>各種掲示板等の撮影</li> <li>飛散抑制・防止剤噴霧施工時の写真</li> <li>アスベスト除去時の撮影</li> <li>袋詰め撮影</li> <li>アスベスト除去後の確認時の撮影</li> <li>飛散防止剤の吹付け時の撮影</li> <li>産業廃棄物の処理状況の撮影（保管状況、数量確認、積み込み、搬出、運搬、処理場搬入、荷下ろし、数量確認、退場の各状況）</li> <li>各指定段階の濃度測定時の撮影</li> <li>使用材料、配合状況及び使用機器の状況</li> <li>その他、監督員が指示する箇所</li> </ol>																					
材 種	品 質 ・ 規 格	厚 さ																																																								
・ロックウール吸音材	ロックウール吸音ボード1号 (60K)	・25 ・ ( )																																																								
・グラスウール吸音材	グラスウール吸音ボード2号32K グラスウール (JIS R3414-P-17A) 類繊維	※25																																																								
種	類 色	採 厚	さ																																																							
・一般用	・ ( )	・着色	・原色																																																							
※ホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆等級のもの・ ( )																																																										
種	類 色	採 厚	さ																																																							
・一般用	・ ( )	・着色	・原色																																																							
※ホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆等級のもの・ ( )																																																										
7	<p>1. 施工調査等</p> <p>施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。  (i) 処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。  調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出する。  ① アスベスト含有保温材等の使用部位の確認  ② アスベスト含有保温材等の厚さの確認  ③ 施工範囲と工事管理区分の確認  ④ 廃棄物などの搬出方法</p> <p>(ii) アスベスト粉じん濃度測定は6.1(ii)に準じて行う。</p> <p>2. 施工計画書</p> <p>(1) 施工計画書  着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承諾を受ける。  なお、施工計画書に記載すべき事項は、次のとおりとする。  ① 工事概要  ア. 工事名称  イ. 工事場所  ウ. 工事期間  エ. 工事内容  オ. その他  ② 管理組織  ③ 安全衛生管理及び飛散防止対策  ④ 使用用具、器具類、材料及び調合  ⑤ 工事の流れ  ⑥ 仮設計画（足場、養生）  ⑦ 作業要領（作業計画図面を含む。）  ⑧ 確認、検査方法  ⑨ 工事工程表  ⑩ その他必要事項</p> <p>(2) 官公署その他への手続き等  一般建築工事の手続きのほか、地方公共団体が定めている手続きを行う。</p>	<p>①. 危険防止</p> <p>1) 仮囲い等 ・ 設けない ※設ける  設置方法 ・ 成形鋼板 (H = m) ・ 波形カラー鉄板 (H = m)  ・ シート張り ・ ロープ張り  ※施設管理者と協議の上、バリカーによる安全区画を行うものとする。  ゲート ・ シート (W = m) ・ パネル (W = m)  ・ ハンガー (W = m)  垂直防護施設 ・ メッシュシート ・ 防炎シート ・ 枠付金網  ・ 防音シート ・ アルミ防音パネル ・ ( )  水平防護施設 ・ 防護網 (網目) ・ ダブルネット ・ ( )  防護施設等取付足場  ・ 単管一本足場 ・ 枠組本足場 (W = ) ・ ( )  設置範囲 ※図示による ・ 監督員の指示による  設置期間 ※工事期間中 ・ 監督員の指示による</p> <p>手すり先行足場について  枠組足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省平成15年4月）により、設置については同ガイドラインに基づき動きやすい安心感のある足場とし、二段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同様の機能を確保するものとする。</p> <p>養生構台 ・ 設置する（図示による） ・ 設置しない  乗入れ構台 ・ 設置する（幅員 m、長さ m） ・ 設置しない</p> <p>監督員の指示による。</p> <p>※施工区分表による  ・ 施工範囲は下記による  ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強  ※図示した壁、天井の仕上げ材、下地材の切込み及び下地材の補強  ※駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ  ・ ( )  施工図 設備機器の設置、取合いなどの検討のできる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。</p> <p>各工事の着工に先立ち、各施工図の基準となる総合図を作成し、監督員の承諾を受ける。  総合図は施工図作成に先立ち、建築・設備・その他別途発注工事業者の情報をすべて盛り込んだ図面とし、それらの接点の細部調整を行う。  総合図の調整は、建築工事の請負者が行い、設備工事・その他の請負者がそれに協力する。  (14.4.2) (表14.4.1)</p> <p>野縁等の種類  屋内 ※1.9形 ・ 2.5形 ・ ( )  屋外 ・ 1.9形 ※2.5形 ・ ( )  屋外における野縁等の間隔 ( ) (14.4.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>種 別</th> <th>張 り 方</th> <th>厚 さ</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・せっこうボード</td> <td rowspan="2">・下地張り ・上張り</td> <td>・突付け</td> <td>・9</td> <td>(石綿含有)</td> </tr> <tr> <td>・目透し</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・化粧せっこうボード</td> <td rowspan="2">・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)</td> <td>・直張り</td> <td>※9.5</td> <td>寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き</td> </tr> <tr> <td>・目透し</td> <td>※9.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・無石綿けい酸カルシウム板</td> <td rowspan="2"></td> <td>・目透し</td> <td>※6・8</td> <td>タイプII (無石綿)</td> </tr> <tr> <td>・縦目処理</td> <td>・10・12</td> <td>・ ( )</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・木質セメント板</td> <td rowspan="2">・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板</td> <td>・打込み</td> <td>・20 ※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・張付け ・敷込み</td> <td>・30</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート</td> <td rowspan="2">・フラット ・凹凸</td> <td>・下地張り</td> <td>・9.5</td> <td>(石綿含有)</td> </tr> <tr> <td>・突付け</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・しな合板 ・ラワン合板</td> <td rowspan="2"></td> <td>・下地張り</td> <td>・9.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・上張り</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> </table> <p>ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ ( )  遮音シール材 ※アクリル系シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド</p>	材 種	種 別	張 り 方	厚 さ	備 考	・せっこうボード	・下地張り ・上張り	・突付け	・9	(石綿含有)	・目透し	・12.5		・化粧せっこうボード	・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)	・直張り	※9.5	寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き	・目透し	※9.5		・無石綿けい酸カルシウム板		・目透し	※6・8	タイプII (無石綿)	・縦目処理	・10・12	・ ( )	・木質セメント板	・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板	・打込み	・20 ※25		・張付け ・敷込み	・30		・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート	・フラット ・凹凸	・下地張り	・9.5	(石綿含有)	・突付け	・12.5		・しな合板 ・ラワン合板		・下地張り	・9.5		・上張り	・12.5		<p>1. 危険防止</p> <p>2. 構 台</p> <p>3. 工事表示板等</p> <p>4. 設備工事との取合い</p> <p>5. 総合図での調整</p>	<p>1. 軽重鉄骨天井下地</p> <p>2. せっこうボード  その他ボード及び合板張り</p>	
材 種	種 別	張 り 方	厚 さ	備 考																																																						
・せっこうボード	・下地張り ・上張り	・突付け	・9	(石綿含有)																																																						
		・目透し	・12.5																																																							
・化粧せっこうボード	・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)	・直張り	※9.5	寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き																																																						
		・目透し	※9.5																																																							
・無石綿けい酸カルシウム板		・目透し	※6・8	タイプII (無石綿)																																																						
		・縦目処理	・10・12	・ ( )																																																						
・木質セメント板	・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板	・打込み	・20 ※25																																																							
		・張付け ・敷込み	・30																																																							
・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート	・フラット ・凹凸	・下地張り	・9.5	(石綿含有)																																																						
		・突付け	・12.5																																																							
・しな合板 ・ラワン合板		・下地張り	・9.5																																																							
		・上張り	・12.5																																																							
8	<p>①. 施工調査</p> <p>施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。  処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。  調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出する。  (i) アスベスト含有成形板使用部位の確認  (ii) アスベスト含有成形板の種類、厚さ等の確認  (iii) アスベスト含有成形板使用数量の確認  (iv) 施工範囲と工事管理区分の確認  (v) 廃棄物等の搬出方法について</p> <p>②. 施工計画書</p> <p>(1) 施工計画書  着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承諾を受ける。  なお、施工計画書に記載すべき事項は、次のとおりとする。  ① 工事概要  ア. 工事名称  イ. 工事場所  ウ. 工事期間  エ. 工事内容  オ. その他  ② 管理組織  ③ 安全衛生管理及び飛散防止対策  ④ 使用用具、器具類、材料及び調合  ⑤ 工事の流れ  ⑥ 仮設計画（足場、養生）  ⑦ 作業要領（作業計画図面を含む。）  ⑧ 確認、検査方法  ⑨ 工事工程表  ⑩ その他必要事項</p>	<p>①. 軽重鉄骨天井下地</p> <p>2. せっこうボード  その他ボード及び合板張り</p>	<p>1. 危険防止</p> <p>2. 構 台</p> <p>3. 工事表示板等</p> <p>4. 設備工事との取合い</p> <p>5. 総合図での調整</p>	<p>1. 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修共仕」9.1.3(b)(2)および「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。</p> <p>(ii) 施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚塵機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させないこと。  なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分については、「改修共仕」9.1.3(c)及び「改修指針」9.1.3(c)による。</p> <p>6.6に準じて行う。</p>	<p>1. 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修共仕」9.1.3(b)(2)および「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。</p> <p>(ii) 施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚塵機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させないこと。  なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分については、「改修共仕」9.1.3(c)及び「改修指針」9.1.3(c)による。</p> <p>6.6に準じて行う。</p>																																																					
ア ス ベ ス ト 含 有 成 形 板 の 除 去 工 事	<p>1. 施工調査等</p> <p>施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。  (i) 処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。  調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出する。  ① アスベスト含有保温材等の使用部位の確認  ② アスベスト含有保温材等の厚さの確認  ③ 施工範囲と工事管理区分の確認  ④ 廃棄物などの搬出方法</p> <p>(ii) アスベスト粉じん濃度測定は6.1(ii)に準じて行う。</p> <p>2. 施工計画書</p> <p>(1) 施工計画書  着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承諾を受ける。  なお、施工計画書に記載すべき事項は、次のとおりとする。  ① 工事概要  ア. 工事名称  イ. 工事場所  ウ. 工事期間  エ. 工事内容  オ. その他  ② 管理組織  ③ 安全衛生管理及び飛散防止対策  ④ 使用用具、器具類、材料及び調合  ⑤ 工事の流れ  ⑥ 仮設計画（足場、養生）  ⑦ 作業要領（作業計画図面を含む。）  ⑧ 確認、検査方法  ⑨ 工事工程表  ⑩ その他必要事項</p> <p>(2) 官公署その他への手続き等  一般建築工事の手続きのほか、地方公共団体が定めている手続きを行う。</p>	<p>①. 危険防止</p> <p>1) 仮囲い等 ・ 設けない ※設ける  設置方法 ・ 成形鋼板 (H = m) ・ 波形カラー鉄板 (H = m)  ・ シート張り ・ ロープ張り  ※施設管理者と協議の上、バリカーによる安全区画を行うものとする。  ゲート ・ シート (W = m) ・ パネル (W = m)  ・ ハンガー (W = m)  垂直防護施設 ・ メッシュシート ・ 防炎シート ・ 枠付金網  ・ 防音シート ・ アルミ防音パネル ・ ( )  水平防護施設 ・ 防護網 (網目) ・ ダブルネット ・ ( )  防護施設等取付足場  ・ 単管一本足場 ・ 枠組本足場 (W = ) ・ ( )  設置範囲 ※図示による ・ 監督員の指示による  設置期間 ※工事期間中 ・ 監督員の指示による</p> <p>手すり先行足場について  枠組足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省平成15年4月）により、設置については同ガイドラインに基づき動きやすい安心感のある足場とし、二段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同様の機能を確保するものとする。</p> <p>養生構台 ・ 設置する（図示による） ・ 設置しない  乗入れ構台 ・ 設置する（幅員 m、長さ m） ・ 設置しない</p> <p>監督員の指示による。</p> <p>※施工区分表による  ・ 施工範囲は下記による  ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強  ※図示した壁、天井の仕上げ材、下地材の切込み及び下地材の補強  ※駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ  ・ ( )  施工図 設備機器の設置、取合いなどの検討のできる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。</p> <p>各工事の着工に先立ち、各施工図の基準となる総合図を作成し、監督員の承諾を受ける。  総合図は施工図作成に先立ち、建築・設備・その他別途発注工事業者の情報をすべて盛り込んだ図面とし、それらの接点の細部調整を行う。  総合図の調整は、建築工事の請負者が行い、設備工事・その他の請負者がそれに協力する。  (14.4.2) (表14.4.1)</p> <p>野縁等の種類  屋内 ※1.9形 ・ 2.5形 ・ ( )  屋外 ・ 1.9形 ※2.5形 ・ ( )  屋外における野縁等の間隔 ( ) (14.4.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>種 別</th> <th>張 り 方</th> <th>厚 さ</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・せっこうボード</td> <td rowspan="2">・下地張り ・上張り</td> <td>・突付け</td> <td>・9</td> <td>(石綿含有)</td> </tr> <tr> <td>・目透し</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・化粧せっこうボード</td> <td rowspan="2">・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)</td> <td>・直張り</td> <td>※9.5</td> <td>寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き</td> </tr> <tr> <td>・目透し</td> <td>※9.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・無石綿けい酸カルシウム板</td> <td rowspan="2"></td> <td>・目透し</td> <td>※6・8</td> <td>タイプII (無石綿)</td> </tr> <tr> <td>・縦目処理</td> <td>・10・12</td> <td>・ ( )</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・木質セメント板</td> <td rowspan="2">・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板</td> <td>・打込み</td> <td>・20 ※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・張付け ・敷込み</td> <td>・30</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート</td> <td rowspan="2">・フラット ・凹凸</td> <td>・下地張り</td> <td>・9.5</td> <td>(石綿含有)</td> </tr> <tr> <td>・突付け</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・しな合板 ・ラワン合板</td> <td rowspan="2"></td> <td>・下地張り</td> <td>・9.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・上張り</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> </table> <p>ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ ( )  遮音シール材 ※アクリル系シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド</p>	材 種	種 別	張 り 方	厚 さ	備 考	・せっこうボード	・下地張り ・上張り	・突付け	・9	(石綿含有)	・目透し	・12.5		・化粧せっこうボード	・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)	・直張り	※9.5	寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き	・目透し	※9.5		・無石綿けい酸カルシウム板		・目透し	※6・8	タイプII (無石綿)	・縦目処理	・10・12	・ ( )	・木質セメント板	・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板	・打込み	・20 ※25		・張付け ・敷込み	・30		・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート	・フラット ・凹凸	・下地張り	・9.5	(石綿含有)	・突付け	・12.5		・しな合板 ・ラワン合板		・下地張り	・9.5		・上張り	・12.5		<p>1. 危険防止</p> <p>2. 構 台</p> <p>3. 工事表示板等</p> <p>4. 設備工事との取合い</p> <p>5. 総合図での調整</p>	<p>1. 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修共仕」9.1.3(b)(2)および「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。</p> <p>(ii) 施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚塵機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させないこと。  なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分については、「改修共仕」9.1.3(c)及び「改修指針」9.1.3(c)による。</p> <p>6.6に準じて行う。</p>	<p>1. 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修共仕」9.1.3(b)(2)および「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。</p> <p>(ii) 施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚塵機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させないこと。  なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分については、「改修共仕」9.1.3(c)及び「改修指針」9.1.3(c)による。</p> <p>6.6に準じて行う。</p>
材 種	種 別	張 り 方	厚 さ	備 考																																																						
・せっこうボード	・下地張り ・上張り	・突付け	・9	(石綿含有)																																																						
		・目透し	・12.5																																																							
・化粧せっこうボード	・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)	・直張り	※9.5	寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き																																																						
		・目透し	※9.5																																																							
・無石綿けい酸カルシウム板		・目透し	※6・8	タイプII (無石綿)																																																						
		・縦目処理	・10・12	・ ( )																																																						
・木質セメント板	・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板	・打込み	・20 ※25																																																							
		・張付け ・敷込み	・30																																																							
・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート	・フラット ・凹凸	・下地張り	・9.5	(石綿含有)																																																						
		・突付け	・12.5																																																							
・しな合板 ・ラワン合板		・下地張り	・9.5																																																							
		・上張り	・12.5																																																							
ア ス ベ ス ト 含 有 成 形 板 の 除 去 工 事	<p>1. 施工調査等</p> <p>施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。  (i) 処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。  調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出する。  ① アスベスト含有保温材等の使用部位の確認  ② アスベスト含有保温材等の厚さの確認  ③ 施工範囲と工事管理区分の確認  ④ 廃棄物などの搬出方法</p> <p>(ii) アスベスト粉じん濃度測定は6.1(ii)に準じて行う。</p> <p>2. 施工計画書</p> <p>(1) 施工計画書  着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承諾を受ける。  なお、施工計画書に記載すべき事項は、次のとおりとする。  ① 工事概要  ア. 工事名称  イ. 工事場所  ウ. 工事期間  エ. 工事内容  オ. その他  ② 管理組織  ③ 安全衛生管理及び飛散防止対策  ④ 使用用具、器具類、材料及び調合  ⑤ 工事の流れ  ⑥ 仮設計画（足場、養生）  ⑦ 作業要領（作業計画図面を含む。）  ⑧ 確認、検査方法  ⑨ 工事工程表  ⑩ その他必要事項</p> <p>(2) 官公署その他への手続き等  一般建築工事の手続きのほか、地方公共団体が定めている手続きを行う。</p>	<p>①. 危険防止</p> <p>1) 仮囲い等 ・ 設けない ※設ける  設置方法 ・ 成形鋼板 (H = m) ・ 波形カラー鉄板 (H = m)  ・ シート張り ・ ロープ張り  ※施設管理者と協議の上、バリカーによる安全区画を行うものとする。  ゲート ・ シート (W = m) ・ パネル (W = m)  ・ ハンガー (W = m)  垂直防護施設 ・ メッシュシート ・ 防炎シート ・ 枠付金網  ・ 防音シート ・ アルミ防音パネル ・ ( )  水平防護施設 ・ 防護網 (網目) ・ ダブルネット ・ ( )  防護施設等取付足場  ・ 単管一本足場 ・ 枠組本足場 (W = ) ・ ( )  設置範囲 ※図示による ・ 監督員の指示による  設置期間 ※工事期間中 ・ 監督員の指示による</p> <p>手すり先行足場について  枠組足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省平成15年4月）により、設置については同ガイドラインに基づき動きやすい安心感のある足場とし、二段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同様の機能を確保するものとする。</p> <p>養生構台 ・ 設置する（図示による） ・ 設置しない  乗入れ構台 ・ 設置する（幅員 m、長さ m） ・ 設置しない</p> <p>監督員の指示による。</p> <p>※施工区分表による  ・ 施工範囲は下記による  ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強  ※図示した壁、天井の仕上げ材、下地材の切込み及び下地材の補強  ※駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ  ・ ( )  施工図 設備機器の設置、取合いなどの検討のできる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。</p> <p>各工事の着工に先立ち、各施工図の基準となる総合図を作成し、監督員の承諾を受ける。  総合図は施工図作成に先立ち、建築・設備・その他別途発注工事業者の情報をすべて盛り込んだ図面とし、それらの接点の細部調整を行う。  総合図の調整は、建築工事の請負者が行い、設備工事・その他の請負者がそれに協力する。  (14.4.2) (表14.4.1)</p> <p>野縁等の種類  屋内 ※1.9形 ・ 2.5形 ・ ( )  屋外 ・ 1.9形 ※2.5形 ・ ( )  屋外における野縁等の間隔 ( ) (14.4.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>種 別</th> <th>張 り 方</th> <th>厚 さ</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・せっこうボード</td> <td rowspan="2">・下地張り ・上張り</td> <td>・突付け</td> <td>・9</td> <td>(石綿含有)</td> </tr> <tr> <td>・目透し</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・化粧せっこうボード</td> <td rowspan="2">・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)</td> <td>・直張り</td> <td>※9.5</td> <td>寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き</td> </tr> <tr> <td>・目透し</td> <td>※9.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・無石綿けい酸カルシウム板</td> <td rowspan="2"></td> <td>・目透し</td> <td>※6・8</td> <td>タイプII (無石綿)</td> </tr> <tr> <td>・縦目処理</td> <td>・10・12</td> <td>・ ( )</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・木質セメント板</td> <td rowspan="2">・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板</td> <td>・打込み</td> <td>・20 ※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・張付け ・敷込み</td> <td>・30</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート</td> <td rowspan="2">・フラット ・凹凸</td> <td>・下地張り</td> <td>・9.5</td> <td>(石綿含有)</td> </tr> <tr> <td>・突付け</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・しな合板 ・ラワン合板</td> <td rowspan="2"></td> <td>・下地張り</td> <td>・9.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・上張り</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> </table> <p>ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ ( )  遮音シール材 ※アクリル系シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド</p>	材 種	種 別	張 り 方	厚 さ	備 考	・せっこうボード	・下地張り ・上張り	・突付け	・9	(石綿含有)	・目透し	・12.5		・化粧せっこうボード	・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)	・直張り	※9.5	寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き	・目透し	※9.5		・無石綿けい酸カルシウム板		・目透し	※6・8	タイプII (無石綿)	・縦目処理	・10・12	・ ( )	・木質セメント板	・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板	・打込み	・20 ※25		・張付け ・敷込み	・30		・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート	・フラット ・凹凸	・下地張り	・9.5	(石綿含有)	・突付け	・12.5		・しな合板 ・ラワン合板		・下地張り	・9.5		・上張り	・12.5		<p>1. 危険防止</p> <p>2. 構 台</p> <p>3. 工事表示板等</p> <p>4. 設備工事との取合い</p> <p>5. 総合図での調整</p>	<p>1. 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修共仕」9.1.3(b)(2)および「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。</p> <p>(ii) 施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚塵機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させないこと。  なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分については、「改修共仕」9.1.3(c)及び「改修指針」9.1.3(c)による。</p> <p>6.6に準じて行う。</p>	<p>1. 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修共仕」9.1.3(b)(2)および「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。</p> <p>(ii) 施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚塵機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させないこと。  なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分については、「改修共仕」9.1.3(c)及び「改修指針」9.1.3(c)による。</p> <p>6.6に準じて行う。</p>
材 種	種 別	張 り 方	厚 さ	備 考																																																						
・せっこうボード	・下地張り ・上張り	・突付け	・9	(石綿含有)																																																						
		・目透し	・12.5																																																							
・化粧せっこうボード	・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)	・直張り	※9.5	寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き																																																						
		・目透し	※9.5																																																							
・無石綿けい酸カルシウム板		・目透し	※6・8	タイプII (無石綿)																																																						
		・縦目処理	・10・12	・ ( )																																																						
・木質セメント板	・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板	・打込み	・20 ※25																																																							
		・張付け ・敷込み	・30																																																							
・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート	・フラット ・凹凸	・下地張り	・9.5	(石綿含有)																																																						
		・突付け	・12.5																																																							
・しな合板 ・ラワン合板		・下地張り	・9.5																																																							
		・上張り	・12.5																																																							
ア ス ベ ス ト 含 有 成 形 板 の 除 去 工 事	<p>1. 施工調査等</p> <p>施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。  (i) 処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。  調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出する。  ① アスベスト含有保温材等の使用部位の確認  ② アスベスト含有保温材等の厚さの確認  ③ 施工範囲と工事管理区分の確認  ④ 廃棄物などの搬出方法</p> <p>(ii) アスベスト粉じん濃度測定は6.1(ii)に準じて行う。</p> <p>2. 施工計画書</p> <p>(1) 施工計画書  着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承諾を受ける。  なお、施工計画書に記載すべき事項は、次のとおりとする。  ① 工事概要  ア. 工事名称  イ. 工事場所  ウ. 工事期間  エ. 工事内容  オ. その他  ② 管理組織  ③ 安全衛生管理及び飛散防止対策  ④ 使用用具、器具類、材料及び調合  ⑤ 工事の流れ  ⑥ 仮設計画（足場、養生）  ⑦ 作業要領（作業計画図面を含む。）  ⑧ 確認、検査方法  ⑨ 工事工程表  ⑩ その他必要事項</p> <p>(2) 官公署その他への手続き等  一般建築工事の手続きのほか、地方公共団体が定めている手続きを行う。</p>	<p>①. 危険防止</p> <p>1) 仮囲い等 ・ 設けない ※設ける  設置方法 ・ 成形鋼板 (H = m) ・ 波形カラー鉄板 (H = m)  ・ シート張り ・ ロープ張り  ※施設管理者と協議の上、バリカーによる安全区画を行うものとする。  ゲート ・ シート (W = m) ・ パネル (W = m)  ・ ハンガー (W = m)  垂直防護施設 ・ メッシュシート ・ 防炎シート ・ 枠付金網  ・ 防音シート ・ アルミ防音パネル ・ ( )  水平防護施設 ・ 防護網 (網目) ・ ダブルネット ・ ( )  防護施設等取付足場  ・ 単管一本足場 ・ 枠組本足場 (W = ) ・ ( )  設置範囲 ※図示による ・ 監督員の指示による  設置期間 ※工事期間中 ・ 監督員の指示による</p> <p>手すり先行足場について  枠組足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省平成15年4月）により、設置については同ガイドラインに基づき動きやすい安心感のある足場とし、二段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同様の機能を確保するものとする。</p> <p>養生構台 ・ 設置する（図示による） ・ 設置しない  乗入れ構台 ・ 設置する（幅員 m、長さ m） ・ 設置しない</p> <p>監督員の指示による。</p> <p>※施工区分表による  ・ 施工範囲は下記による  ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強  ※図示した壁、天井の仕上げ材、下地材の切込み及び下地材の補強  ※駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ  ・ ( )  施工図 設備機器の設置、取合いなどの検討のできる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。</p> <p>各工事の着工に先立ち、各施工図の基準となる総合図を作成し、監督員の承諾を受ける。  総合図は施工図作成に先立ち、建築・設備・その他別途発注工事業者の情報をすべて盛り込んだ図面とし、それらの接点の細部調整を行う。  総合図の調整は、建築工事の請負者が行い、設備工事・その他の請負者がそれに協力する。  (14.4.2) (表14.4.1)</p> <p>野縁等の種類  屋内 ※1.9形 ・ 2.5形 ・ ( )  屋外 ・ 1.9形 ※2.5形 ・ ( )  屋外における野縁等の間隔 ( ) (14.4.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>種 別</th> <th>張 り 方</th> <th>厚 さ</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・せっこうボード</td> <td rowspan="2">・下地張り ・上張り</td> <td>・突付け</td> <td>・9</td> <td>(石綿含有)</td> </tr> <tr> <td>・目透し</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・化粧せっこうボード</td> <td rowspan="2">・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)</td> <td>・直張り</td> <td>※9.5</td> <td>寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き</td> </tr> <tr> <td>・目透し</td> <td>※9.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・無石綿けい酸カルシウム板</td> <td rowspan="2"></td> <td>・目透し</td> <td>※6・8</td> <td>タイプII (無石綿)</td> </tr> <tr> <td>・縦目処理</td> <td>・10・12</td> <td>・ ( )</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・木質セメント板</td> <td rowspan="2">・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板</td> <td>・打込み</td> <td>・20 ※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・張付け ・敷込み</td> <td>・30</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート</td> <td rowspan="2">・フラット ・凹凸</td> <td>・下地張り</td> <td>・9.5</td> <td>(石綿含有)</td> </tr> <tr> <td>・突付け</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・しな合板 ・ラワン合板</td> <td rowspan="2"></td> <td>・下地張り</td> <td>・9.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・上張り</td> <td>・12.5</td> <td></td> </tr> </table> <p>ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ ( )  遮音シール材 ※アクリル系シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド</p>	材 種	種 別	張 り 方	厚 さ	備 考	・せっこうボード	・下地張り ・上張り	・突付け	・9	(石綿含有)	・目透し	・12.5		・化粧せっこうボード	・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)	・直張り	※9.5	寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き	・目透し	※9.5		・無石綿けい酸カルシウム板		・目透し	※6・8	タイプII (無石綿)	・縦目処理	・10・12	・ ( )	・木質セメント板	・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板	・打込み	・20 ※25		・張付け ・敷込み	・30		・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート	・フラット ・凹凸	・下地張り	・9.5	(石綿含有)	・突付け	・12.5		・しな合板 ・ラワン合板		・下地張り	・9.5		・上張り	・12.5		<p>1. 危険防止</p> <p>2. 構 台</p> <p>3. 工事表示板等</p> <p>4. 設備工事との取合い</p> <p>5. 総合図での調整</p>	<p>1. 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修共仕」9.1.3(b)(2)および「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。</p> <p>(ii) 施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚塵機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させないこと。  なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分については、「改修共仕」9.1.3(c)及び「改修指針」9.1.3(c)による。</p> <p>6.6に準じて行う。</p>	<p>1. 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修共仕」9.1.3(b)(2)および「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。</p> <p>(ii) 施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚塵機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させないこと。  なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分については、「改修共仕」9.1.</p>
材 種	種 別	張 り 方	厚 さ	備 考																																																						
・せっこうボード	・下地張り ・上張り	・突付け	・9	(石綿含有)																																																						
		・目透し	・12.5																																																							
・化粧せっこうボード	・トナリ形模様 ・木目模様 (裏積付)	・直張り	※9.5	寸法 ※450×910・910×910 専用軽鉄下地材付き																																																						
		・目透し	※9.5																																																							
・無石綿けい酸カルシウム板		・目透し	※6・8	タイプII (無石綿)																																																						
		・縦目処理	・10・12	・ ( )																																																						
・木質セメント板	・硬質木毛むすび板 ・普通木毛むすび板	・打込み	・20 ※25																																																							
		・張付け ・敷込み	・30																																																							
・繊維板 ・パネイクレード ・ロックウール吸音板 ◎屋根大波シート	・フラット ・凹凸	・下地張り	・9.5	(石綿含有)																																																						
		・突付け	・12.5																																																							
・しな合板 ・ラワン合板		・下地張り	・9.5																																																							
		・上張り	・12.5																																																							



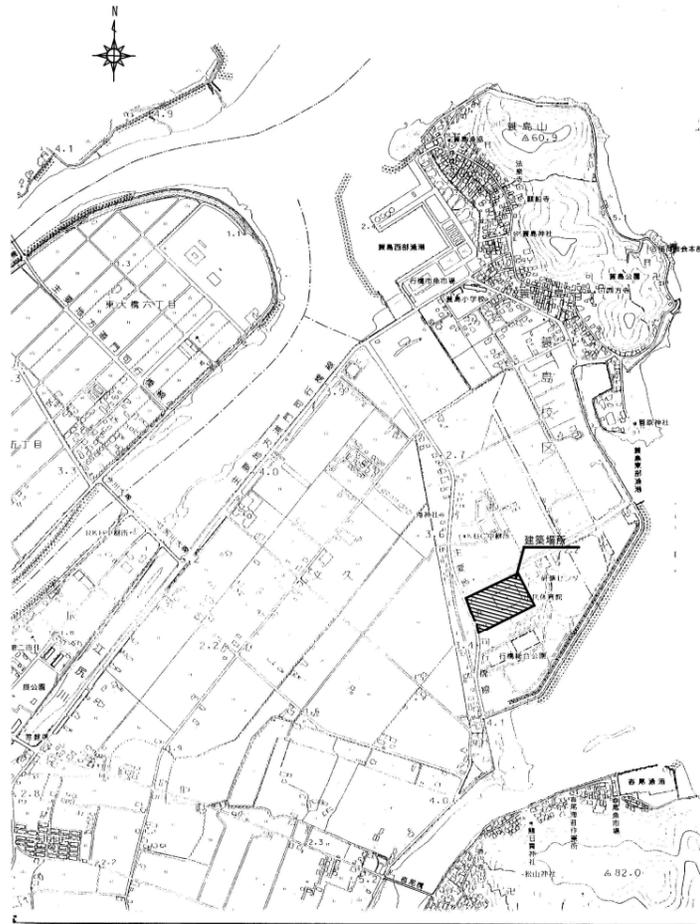
案内図

面積表

建築面積	4,049.39㎡
1階床面積	3,260.46㎡
2階床面積	1,270.49㎡
延べ床面積	4,530.95㎡



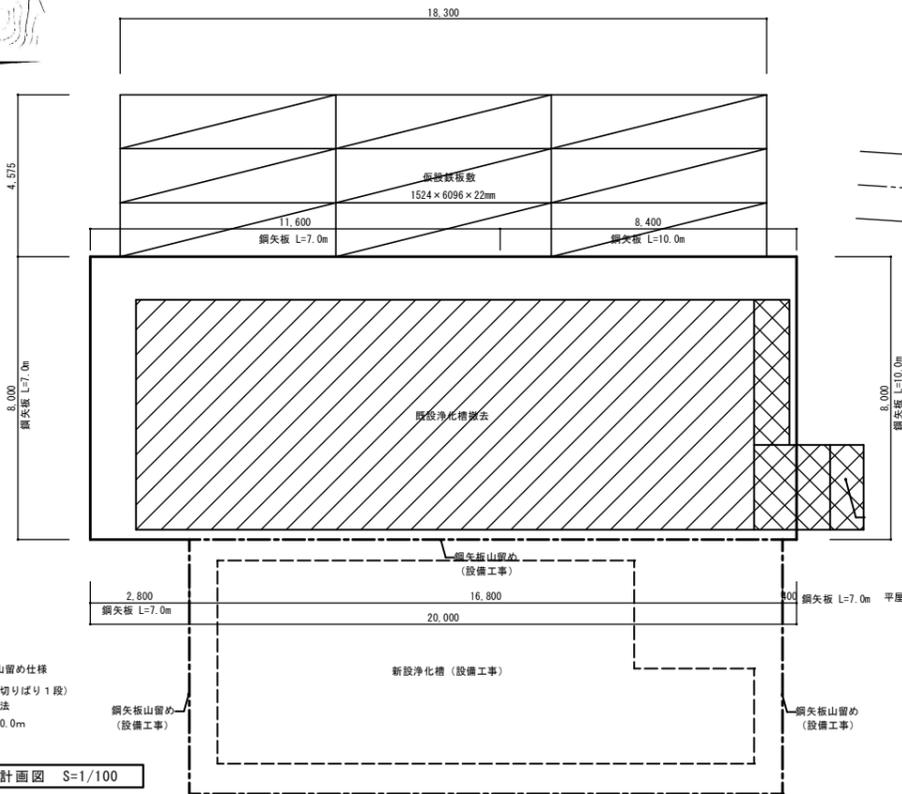
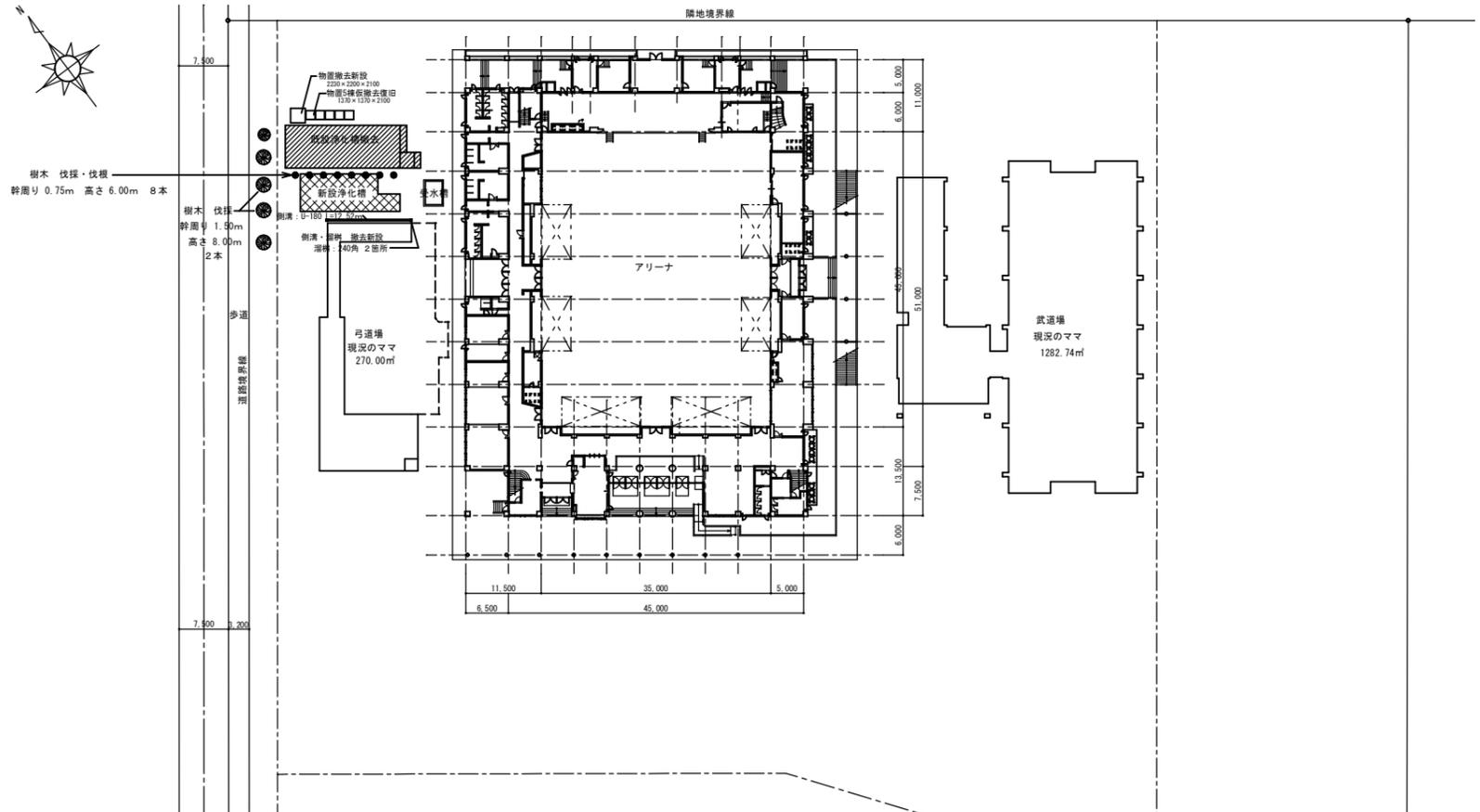
配置図 S=1/500



案内図

面積表

建築面積	4,049.39㎡	
	全体面積	工事対象面積
1階床面積	3,260.46㎡	1,575.00㎡
2階床面積	1,270.49㎡	720.00㎡
延べ床面積	4,530.95㎡	2,295.00㎡



山留め計画図 S=1/100

配置図 S=1/500

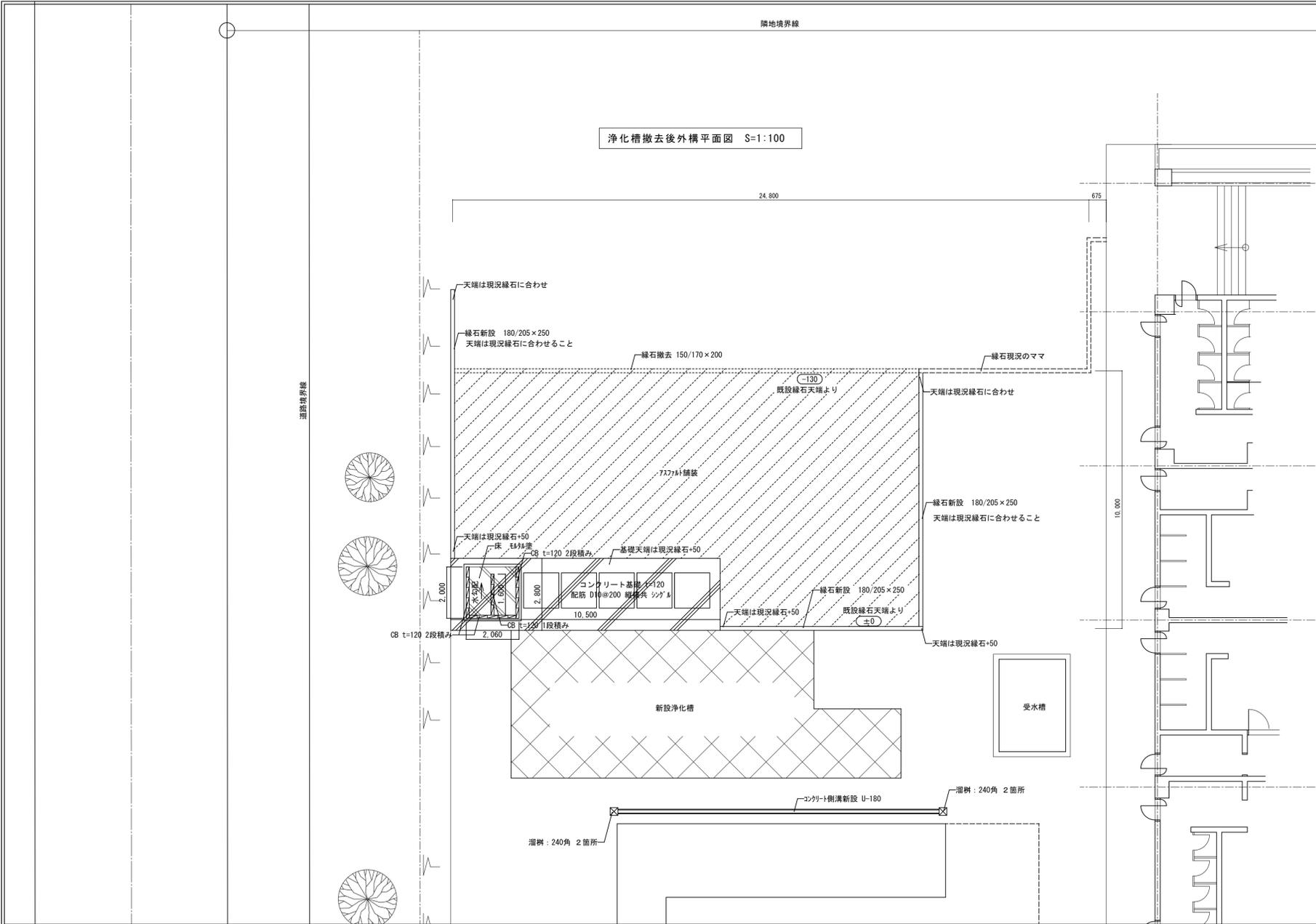
- ※ 仮設物、仮囲い、現場事務所等の設置場所については、施設関係者及び監督員と協議の上決定する事。
- ※ 敷地内の車両の通行に際しては、最徐行とし歩行者の安全を確保する事。
- ※ 工事完了後は、使用した場所の整理清掃後片付けを行う事。

特記事項

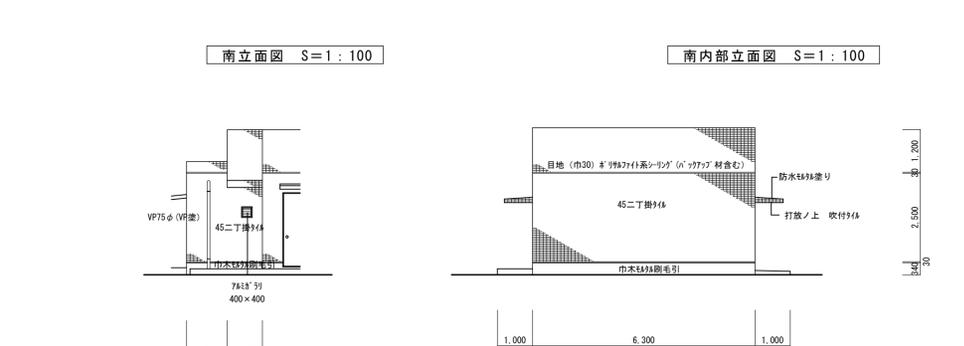
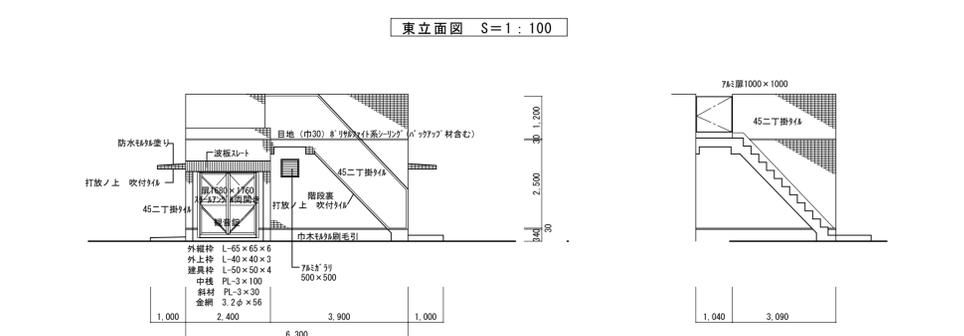
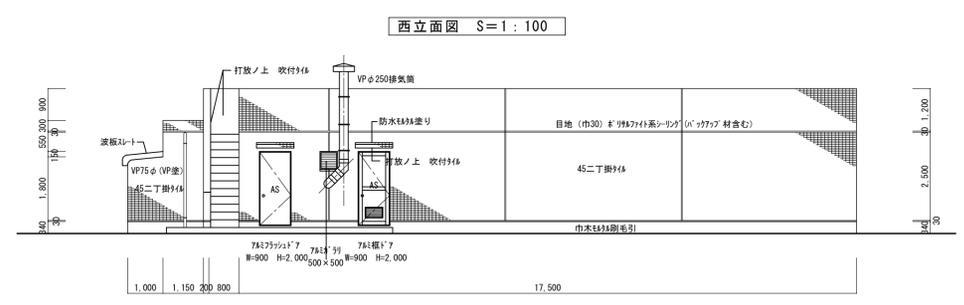
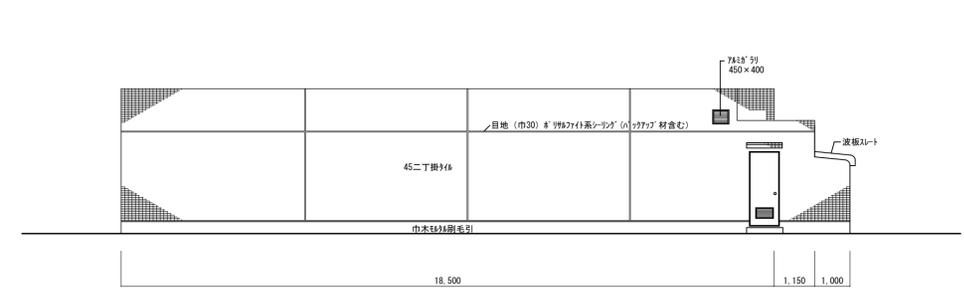
田頭一級建築設計事務所  
 一級建築士事務所  
 福岡県知事登録第1-20466号  
 田頭 康典  
 一級建築士 大臣登録第126902号

工事名称 行橋市民体育館浄化槽更新工事  
 図面名称 改修後 対象配置図・案内図・山留め計画図

縮尺	製図年月日	2020年 7月
S=1/500 S=1/100	所長	検 閲 作 図



名 称	土 間	巾 木	壁	天 井	備 考
嫌気沈殿槽	防水珪砂金付仕上		防水珪砂金付仕上	コンクリート打放し	
スクリーン室	"		"	"	
原水槽	"		"	"	
第1接触曝気槽	"		"	"	
第2接触曝気槽	"		"	"	
沈殿槽	"		"	"	防水珪砂金付仕上
第1接触酸化槽	"		"	"	
第2接触酸化槽	"		"	"	
最終沈殿槽	"		"	"	
消泡ポンプ槽	"		"	"	
消毒槽	"		"	"	
放流ポンプ槽	"		"	"	
汚泥溜槽	"		"	"	
汚泥貯溜槽	"		"	"	
機 械 室	珪砂金付仕上	H=300 金付押上	珪砂金吹付) 25mm	珪砂金吹付) 25mm	防水珪砂金付仕上
ポンプ室	"	H=200 金付押上	コンクリート打放し	コンクリート打放し	複数防水(合成ゴムシート)
アトミック庫	コンクリート直押し		珪砂金付仕上		スレート



**U 字 溝** 1:30

製品は J I S A 5305 とする  
目地はモルタル (1:2) とし厚さは 10mm とする  
クラッシュランは (RC-40) とする

今回仕様	幅 (呼び名)	a	b	c	H	h	W
○	150	150	150	30	265	50	210
○	180	180	180	35	300	50	250
○	240	240	240	45	370	50	330
○	300A	300	240	50	380	50	380
○	300B	300	300	50	440	50	380
○	300C	300	360	50	505	50	380
○	360A	360	300	50	475	80	440
○	360B	360	360	50	535	80	440
○	450	450	450	55	630	80	540
○	600	600	600	70	790	80	700

勾配 1/150  
勾配 1/200

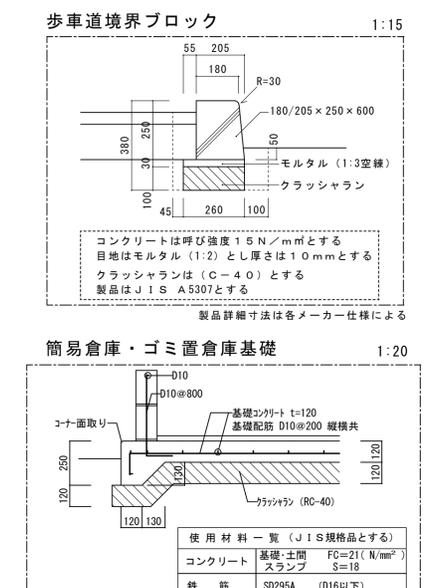
製品詳細寸法は各メーカー仕様による

**既製コンクリート角形柵** 1:20

輪荷重 (自転車は除く) を受ける所には使用しないこと  
クラッシュランは (RC-40) とする

今回仕様	呼び名	a	b	c	d	e	f	H
○	180	180	240	250	220	320	20	380
○	240	240	300	320	290	390	30	450
○	300	300	360	380	350	450	30	510
○	360	360	420	466	420	520	30	580
○	420	420	420	526	480	580	30	655
○	450	450	450	556	510	610	30	615

製品詳細寸法は各メーカー仕様による

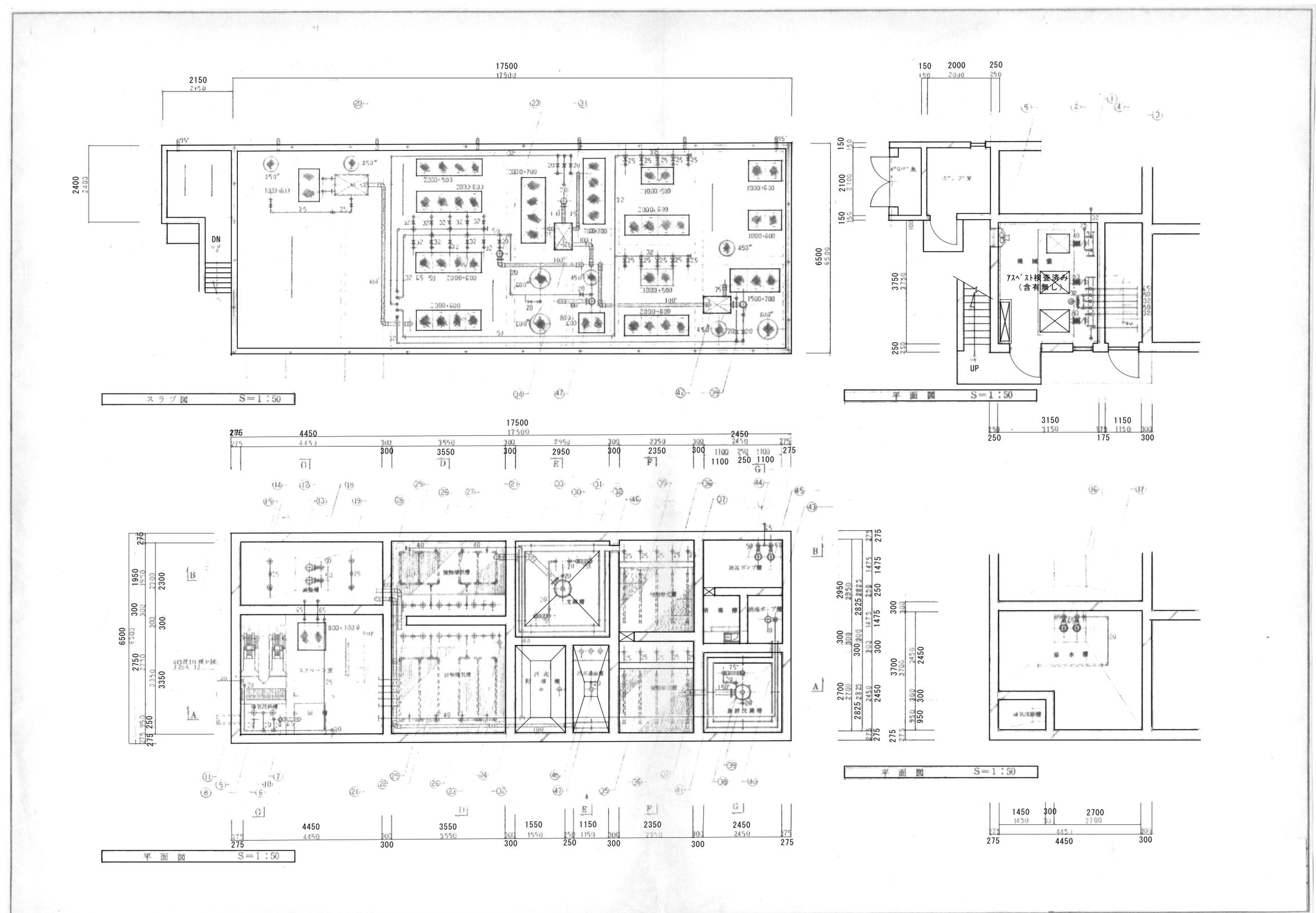


**アスファルト舗装 (駐車場)** 1:10

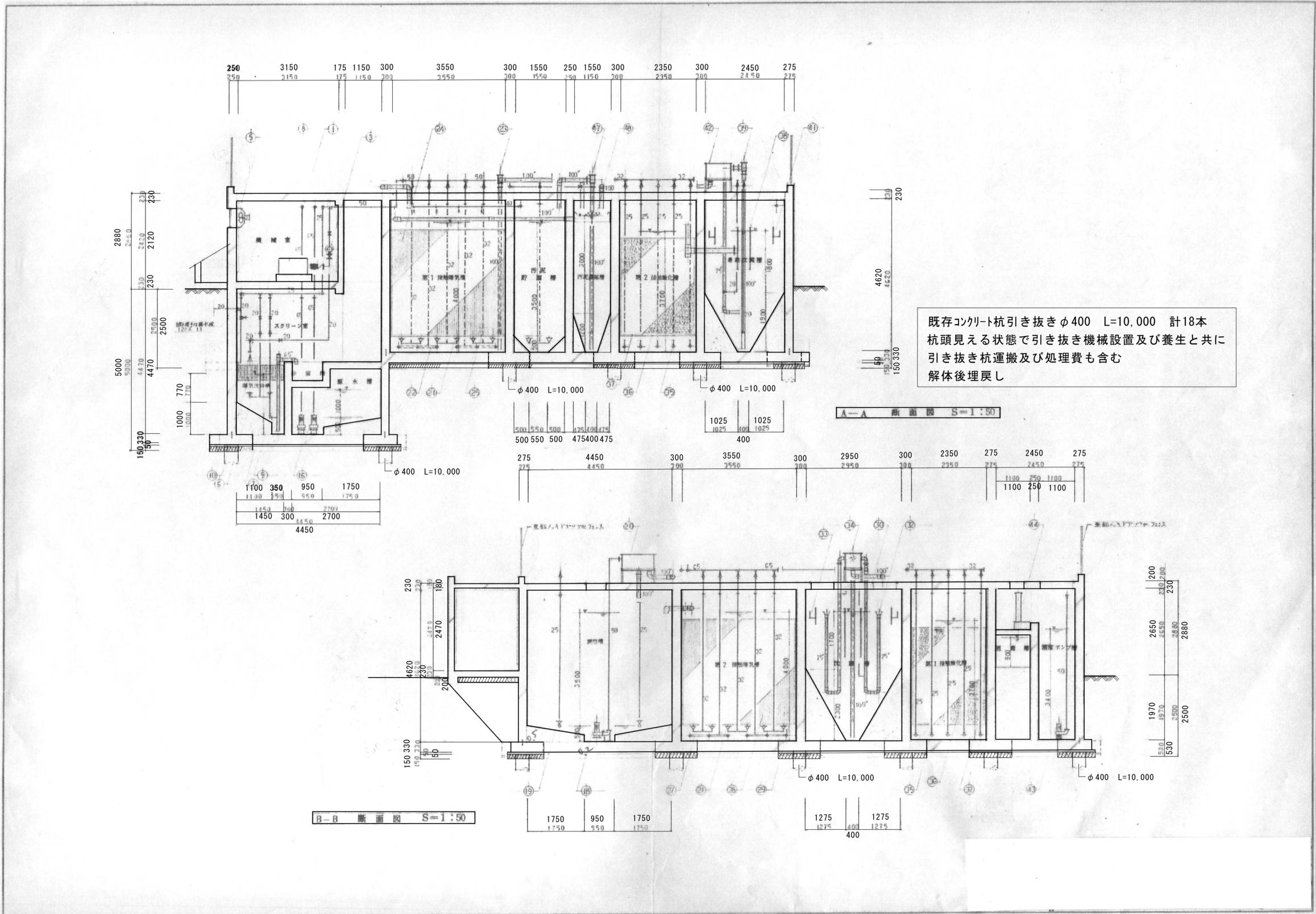
材 料	100㎡当り
表層	密粒度アスコン (13mm) 12.34 t
路盤	クラッシュラン C-40 12.2 m <sup>3</sup> プライムコート 153 L

	A	B
締固め回数	締固め回数	締固め回数
転圧機械 (自走式) (2.5~2.8 t)	振動ローラー (ハンドガイド式) (0.5~0.6 t)	
表層	5 回	10 回
路盤	5 回	10 回
路床	5 回	10 回

表の数値は参考とし監督員と協議の上 決定する



特記事項	田頭一級建築設計事務所 福岡県行橋市北条四丁目28-16 TEL 0930-25-3444	一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20466号 田頭 康典 一級建築士 大臣登録第126902号	工事名称 行橋市民体育館浄化槽更新工事	縮尺 S=1/	製図年月日	2020年 7月
					所長	検 査
			図面名称 現況 浄化槽平面参考図			



既存コンクリート杭引き抜きφ400 L=10,000 計18本  
 杭頭見える状態で引き抜き機械設置及び養生と共に  
 引き抜き杭運搬及び処理費も含む  
 解体後埋戻し

A-A 断面図 S=1:50

B-B 断面図 S=1:50

特記事項	田頭一級建築設計事務所 福岡県行橋市北泉四丁目28-16 TEL 0930-25-3444	一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20466号 田頭 康典 一級建築士 大臣登録第126902号	工事名称 行橋市民体育館浄化槽更新工事	縮尺 S=1/	製図年月日	2020年 7月		
					所長	検 査	作 図	
			図面名称 現況 浄化槽断面参考図					

# 電気設備工事特記仕様書

## I. 工事名称 令和4年度行橋市民体育館浄化槽更新工事

### II. 工事概要

1. 総合発注の有無 本工事は、以下の工事を含む。(詳細は、図面参照のこと)

- 建築工事
- ・ 機械設備工事

2. 工事場所 福岡県行橋市大字今井3759番地

### 3. 建物概要

建物名称	構造	階数	延面積 (㎡)	防火対象物の種別	備考
浄化槽		1階		1項(口)	

4. 工事種目 (○印を付けたものを適用する)

工事種目	建物別		工事種別			
	浄化槽			屋外	備考	
・ 電灯設備	一式	一式	一式			
○ 動力設備	改修 一式	一式	一式			
・ 避雷設備	一式	一式	一式			
・ 受変電設備	一式	一式	一式			
・ 静止形電源設備	一式	一式	一式			
・ 発電設備	一式	一式	一式			
・ 構内情報通信設備	一式	一式	一式			
・ 構内交換設備	一式	一式	一式			
・ 情報表示設備	一式	一式	一式			
・ 映像・音響設備	一式	一式	一式			
・ 拡声設備	一式	一式	一式			
・ 誘導支援設備	一式	一式	一式			
・ 呼出し設備	一式	一式	一式			
・ テレビ共同受信設備	一式	一式	一式			
・ 防火設備	一式	一式	一式			
・ 自動火災報知設備	一式	一式	一式			
・ 中央監視制御設備	一式	一式	一式			
・ 遠隔量水器設備	一式	一式	一式			
・ デマンド監視・制御設備	一式	一式	一式			
・ 太陽光発電設備	一式	一式	一式			
・	一式	一式	一式			
○ 構内配電線路	一式	一式	一式	改修 一式		
・ 構内通信線路	一式	一式	一式	一式		
・	一式	一式	一式			

### III. 工事仕様

#### 1. 適用仕様等

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の仕様書による。

- 「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共建築工事標準仕様書(建築工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共住宅建設工事共通仕様書(平成25年版)」 国土交通省住宅局住宅総合整備課監修

#### 2. 補足基準等

適用仕様等、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、標準図等による。

- 「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
- 「公共建築設備工事標準図(機械設備工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
- 「建築工事標準詳細図(建築工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
- 「電気設備工事整理指針(平成28年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「機械設備工事整理指針(平成28年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「建築工事整理指針(平成28年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「建築改修工事整理指針(平成28年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「建築設備耐震設計・施工指針(2014年版)」 独立行政法人 建築研究所監修
- 「建築工事安全施工技術指針・同解説」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
- 「建設廃棄物処理指針」 厚生労働省生活衛生局
- 「建築物解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」 環境省大気保全局(環境省アスベスト飛散防止対策研究会)

#### 3. 特記仕様

- 項目は、○印のついたものを適用する。
- 特記事項のうち選択する事項は、○印のついたものを適用する。

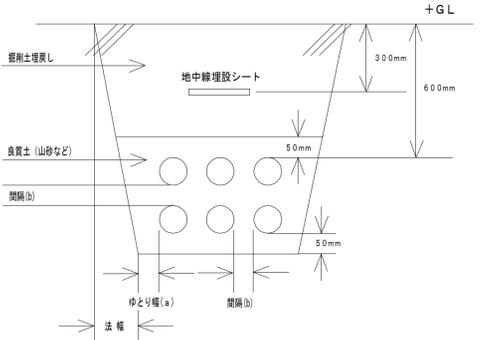
## 項目 特記事項

- 機材 この工事に使用する機材は、監督職員の承諾を受ける。  
なお、材料及び製品については、地域産材の使用に努めること。  
また、機材の選定に当たっては、グリーン購入法に適合したものを優先すること。
  - 一般用電気工作物 ○ 事業用電気工作物
- 電気工作物
- 電気保安技術者 事業用電気工作物に係る工事においては、電気保安技術者を置くものとする。
- 工事に必要な資格 (建設業法に関するものを除く)
  - 第1種電気工事士 ・ 第2種電気工事士(もしくは上位資格)
  - 特種電気工事資格者(非常用予備発電装置) ・ 工事担任者 第 種(もしくは上位資格)
  - 消防設備士甲種 類 ・ あと施工アンカー第 種施工士(もしくは上位資格)
- 官公庁その他への手続き この工事に必要な官公署その他の関係機関への諸手続等は、これに必要な資機材、労務、及び費用を請負者の負担にて速やかにおこない、その検査に合格すること。
- 工事用電力・水・その他 本工事に必要な工事用電力(仮設電力及び試運転調整用電力等を含む)・水及び諸手続等の費用は、すべて請負者の負担とする。
- 残土処分 ・ 構内指示の場所に均し ・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構外搬出適切処理
- 他工事との取合い ・ 施工区分表による ○ 図面詳細による
- 再使用機器 取外し再使用機器は、原則として清掃並びに絶縁抵抗測定を取外し前後で行った後、取り付けること。  
但し、絶縁劣化等再使用に耐えない場合は、監督職員に報告すること。
- 耐震施工 設備機器の固定は、すべて「建築設備耐震設計・施工指針」(2014年版)によるものとする。  
(1) 設計用標準震度(Ks)  
機器毎の前震安全性の分類及び設置場所により下表より求める。

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上階階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)
中間階	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
地階及び1階	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

- 耐震安全性の分類 (特定の施設 ○一般の施設)  
( ) 書きの数値は防振支持の機器の場合に適用する。
- 地域係数(Z) 地域係数(Z)は、1.0とする。

- 合成樹脂製可とう電線管 環境対応型合成樹脂製可とう管(PF管)の一重管とする。なお、打込配管として使用する場合、原則として呼び径を22までとする。  
また鉄筋等への結束には樹脂被覆を施したバインド線を用いること。
  - 金属製(防水形配線器具を除く) ・ 樹脂製
- プレートの材質
- フロアプレート ベースは、水平高低調整付(空転防止リング付)とする。 ・ 鋳金製 ・ アルミ製
- ハイテンション ・ 上下動形 ・ 外部固定形 ・ 内部固定形
- 露出配管等の塗装 屋内においては特記がなければ、F☆☆☆☆製品とし、屋外においても低VOC塗料の使用に努めること。
- 呼び線 長さ 1m 以上の入線しない電線管には電線太さ 1.2mm 以上の樹脂被覆鉄線を挿入する。
- 表示 スイッチ・コンセント及びプルボックスで用途の判別し難いものは、表示する。
- 地中線埋設シート 地下埋設の線路には、保護シートを2倍長以上重ね合わせて布設するものとする。
- 地中埋設設備 電力用(矢指色:赤色) ・ 樹脂製 ・ コンクリート製 ・ 鉄製  
通信用(矢指色:黄色) ・ 樹脂製 ・ コンクリート製 ・ 鉄製
- 地中埋設配管 (GL-600の場合)



- 根切り深さが1.5m未満の場合は直掘り工法とし、1.5m以上の場合には法付工法とする。  
法付工法の法幅は、根切り深さに0.3を乗じたものとする。
- 床掘幅は、埋設管類などの外径(底面)の寸法にゆとり幅×2を加えたものとする。  
ゆとり幅(a)及び埋設管相互の間隔(b)は、下表を参照のこと。

ゆとり幅(a)	根切り深さ	根切り深さ	根切り深さ	埋設管の呼び径	間隔(b) (左右・上下)
	1m未満	1以上1.5未満	1.5m以上	50以下	50mm
地中電線管類	0.2m	0.4m	0.3m	150 #	70mm
地下埋設物	0.5m	0.5m	0.5m	200 #	100mm

#### 21. 接地種

強電配線・弱電配線・その他配管等について、定められた間隔を考慮すること。  
多相数設により埋設管同士を密着させる場合は、「JIS C 3653(附属書含む)」及び「電気設備に関する技術基準を定める省令」における関連事項に適合した資材の使用、及び施工を行うこと。  
また、電線相互の接近により誘導障害が生じるおそれがある場合は、多相数設は行わないこと。

接地種の材料は下表による。接地種の近くに接地埋設設備90×140×1.5t(黄銅製・刷印)を設置すること。なお、接地棒 EB(14)φの長さは1,500mm以上とし、10φ・14φは、W=40として差し支えない。

接地の種類	記号	接地抵抗値	接地種
・ 共通	E <sub>KCO</sub>	Ω以下	
・ 共通	E <sub>AO</sub>	Ω以下	
・ A種	E <sub>A</sub>	10Ω以下	
・ B種	E <sub>B</sub>	Ω以下	
・ C種	E <sub>C</sub>	10Ω以下	
・ D種	E <sub>D</sub>	100Ω以下	EB( )φ×1(L=1,500mm)
・ 避雷設備	E <sub>L</sub>	10Ω以下	
・ 高圧避雷器	E <sub>LH</sub>	10Ω以下	
・ 低圧避雷器	E <sub>LL</sub>	10Ω以下	
・ 交換機用	E <sub>L</sub>	10Ω以下	
・ 通信用	E <sub>AL</sub>	10Ω以下	
・ 通信用	E <sub>CL</sub>	100Ω以下	EB(10)φ×1(L=1,500mm)
・ 測定用	E <sub>O</sub>		EB(10)φ×1(L=1,500mm)

避雷設備の接地抵抗値は、総合抵抗とする。

本工事における構内交換設備の工事範囲は、以下のとおりとする。

- ・ 構内交換装置
- ・ 電話機取付け ( 台 )
- ・ 配管配線まで本工事
- ・ 配管のみ本工事
- ・ 配線のみ本工事

電話機1台につき次のものを見込む。

- ・ T1VF(T1VE) 0.65-2C m
- ・ EM-T1EF(T1EE) 0.65-2C m
- ・ EBT 0.4-2P m
- ・ EM-BT1EE 0.4-2P m
- ・ 2号ワイヤプロテクタ m

#### 24. 構内情報通信設備工事範囲

本工事における構内情報通信設備の工事範囲は、以下のとおりとする。

- ・ 構内情報通信網装置 ・ ネットワーク管理装置 ○ 配管配線まで本工事
- ・ 配管のみ本工事

#### 25. LANケーブルの色

- ・ 幹線LAN:赤色 ○ 枝路LAN:黄色 ○ 生体LAN:水色 ・ 認証ネットワーク:指定なし ・ その他:指定なし

#### 26. 機器と配線の接続

拡声設備において、増幅器などの入出力線と配線の接続は、コネクタなどを取付けて行うこと。

#### 27. インターロック

自動火災報知設備において、感知器が作動した場合に受信機及び運動制御機と連動して空調機並びに送排風機を停止させる。

#### 28. ガス漏れ警報装置受信機

- ・ 単独 ( ・ 自立形 ・ 壁掛形 )

#### 29. ガス漏れ警報装置検知器

- ・ 液化石油ガス用 ・ 都市ガス用

#### 30. 防犯設備工事範囲

- ・ 配管のみ本工事 ・ 機器取付調整まで本工事

#### 31. 船体貫通場所

船体貫通箇所においては探査機を使用し、コンクリート内配筋を避け貫通すること。

#### 32. 発電機回路コンセント

発電機回路に接続されるコンセントは、回路種別が識別できるものとする。

#### 33. マンホール・ハンドホール蓋

蓋中央部に黒字を刷印すること。また、用途別に「高圧」「電気」「弱電」の刷印をすること。

#### ④ プルボックス

屋外に設置するものには、事前には水抜き穴を設けること。

#### ⑤ 建築副産物の処理について

資源の有効利用・環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制・再利用・適正処理を推進する。

現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。

また、「再生資源の利用の促進に関する法律」・「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」・「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。

工事に限っては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」(共に添付書類を含む)を提出すること。

指定副産物(原則として、再資源化施設へ持込むもの) その他の副産物

指定副産物(原則として、再資源化施設へ持込むもの)	その他の副産物
・ がれき類 (コンクリート塊) (アスファルトコンクリート塊)	○ 廃プラスチック
・ 木くず	○ ガラス・陶磁器くず
・ 建設発生土	・ 廃石膏ボード
・ 汚泥	○ 金属くず
	・ 繊維くず

#### 特別管理産業廃棄物

・ 廃石綿等

「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」(環境省大気保全局)に従い、収集・運搬・処分を行うこと。

・ 廃PCB等

「電気事業法:電気関係省規則」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・届出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

※ 参考受入場所は、現場説明書による。

#### 建築副産物の処理内容

処理内容	備考
現場内における分別	
現場内分別保管場所の設置	
現場内分別保管場所までの運搬	
分別保管場所からの精込み・運搬・処分	
「建設副産物の処理計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要

1. 浄化槽改修に伴い動力幹線・動力分岐設備改修工事を行う。

#### ⑥ その他

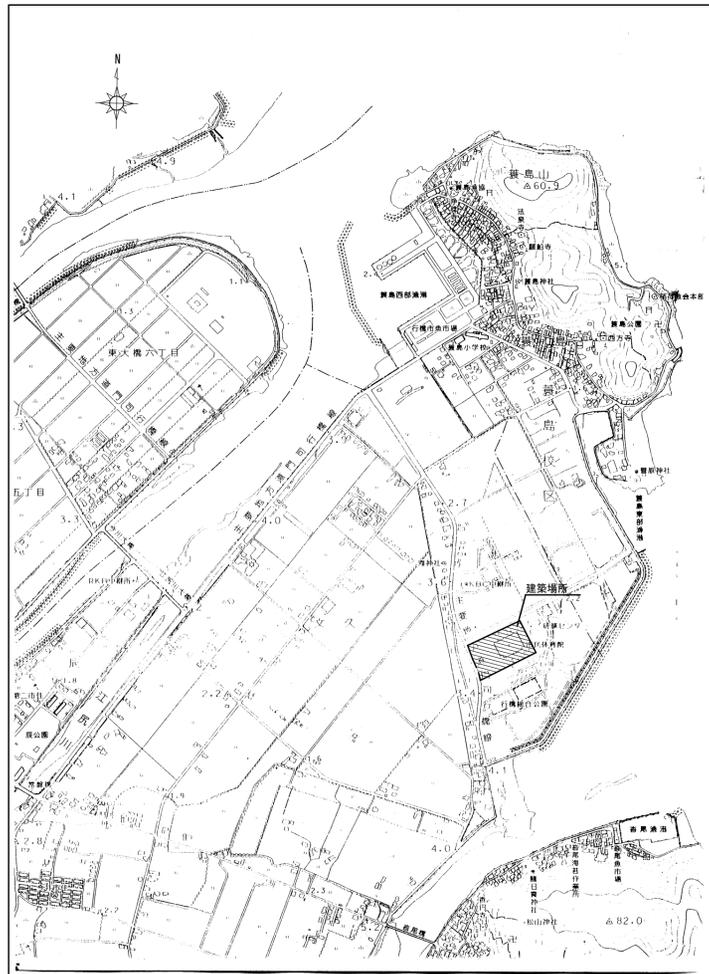
年 月 日

工事名称 令和4年度行橋市民体育館浄化槽更新工事 特記仕様書

工事場所 福岡県行橋市大字今井3759番地 図番 E-01/7号

設計者氏名 1級建築士登録第 大臣登録第126902号 建築設備士第 田頭 康典 印

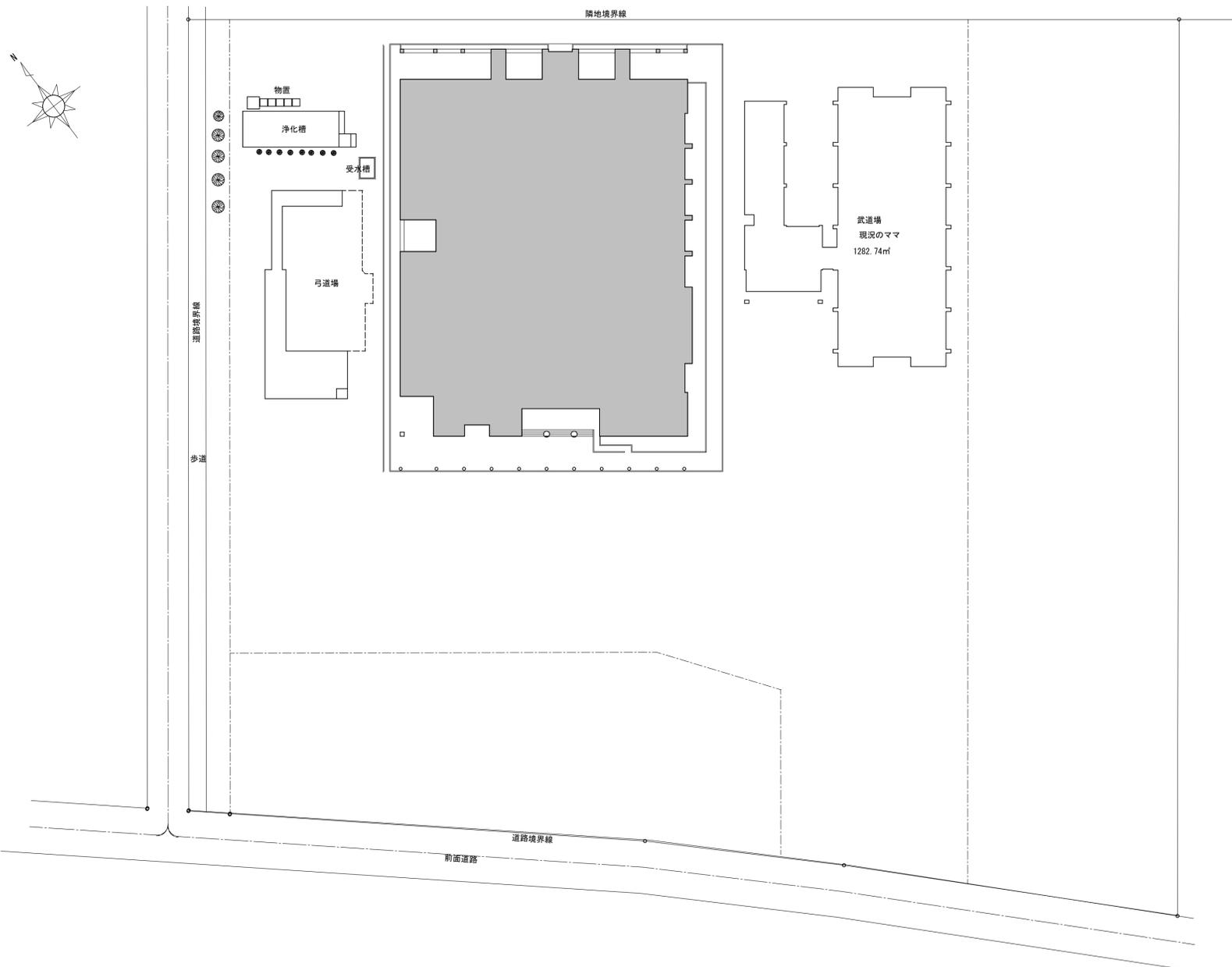
設計事務所所在地 福岡県行橋市中央一丁目1番1号 行橋市役所 都市整備部 建築政策課



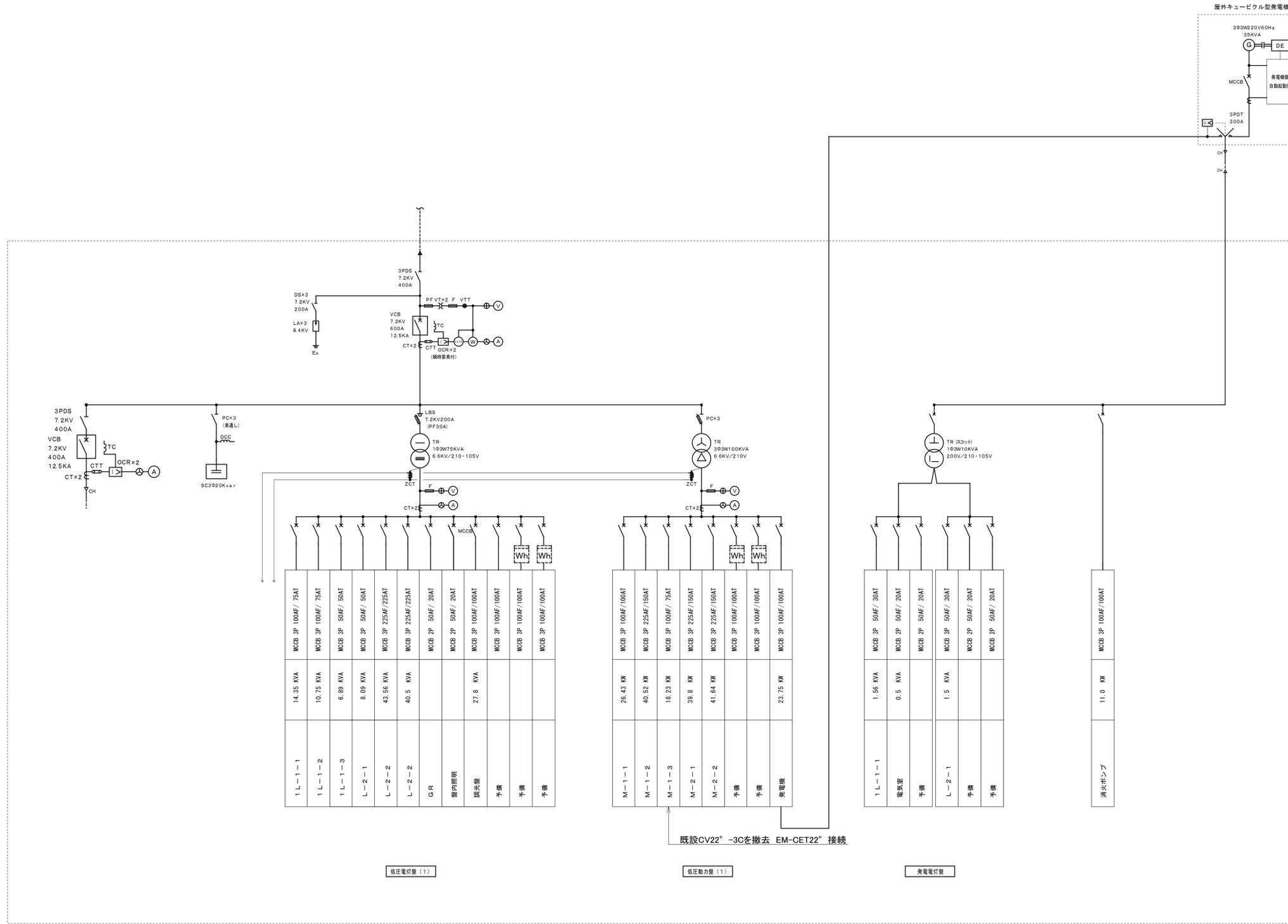
案内図

面積表

建築面積	4,049.39㎡
1階床面積	3,260.46㎡
2階床面積	1,270.49㎡
延べ床面積	4,530.95㎡



配置図



改修後 既設第1受変電設備

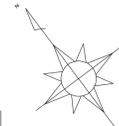
特記事項	

田頭一級建築設計事務所  
 一級建築士事務所  
 福岡県知事登録第1-20466号  
 福岡県行橋市北泉四丁目28-16  
 TEL 0930-25-3444  
 田頭 康典  
 一級建築士 大臣登録第126902号

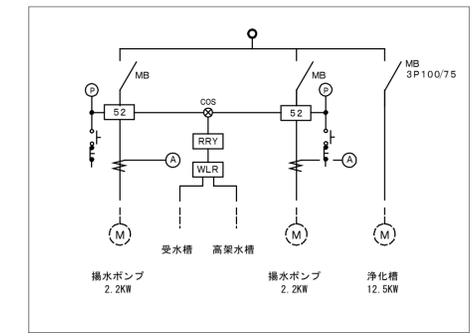
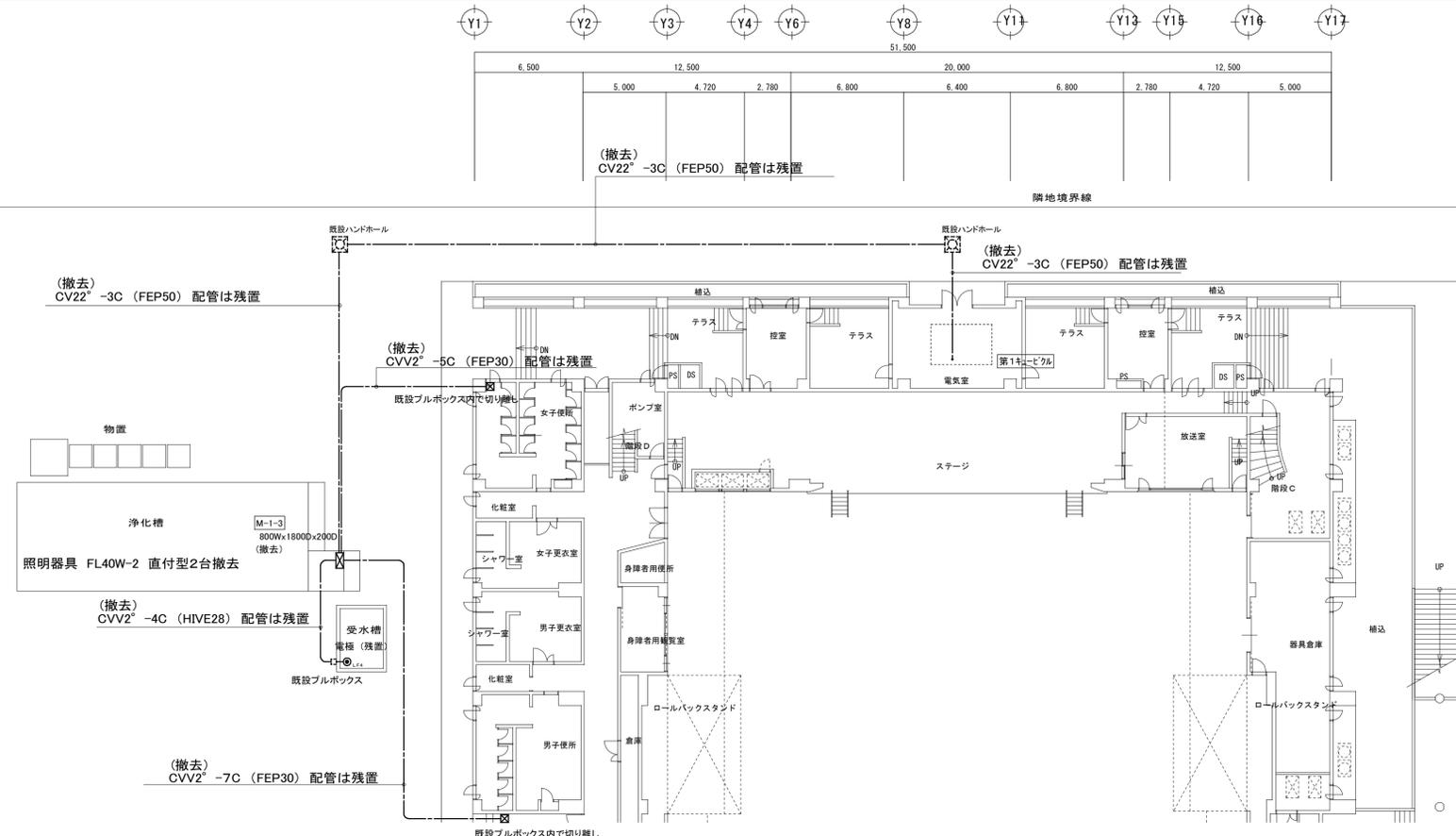
工事名称 令和4年度行橋市民体育館浄化槽更新工事  
 図面名称 改修後 既設第1受変電設備

縮尺 S-N.S	製図年月日	2021年 1月	
	所長	検図	作図

改修前



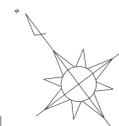
道路境界線



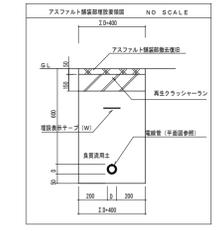
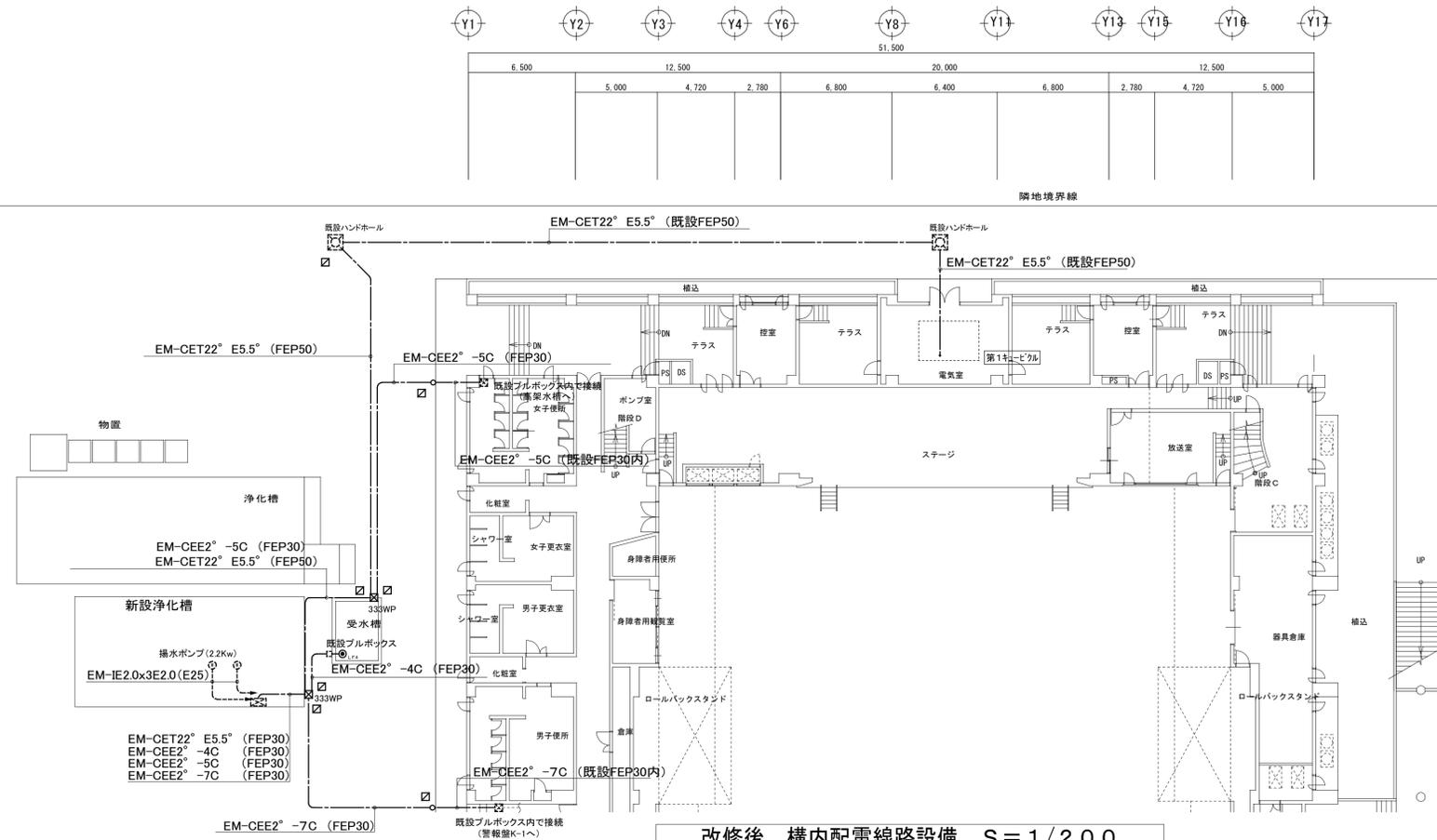
動力盤 M-1-3 撤去

改修前 構内配電線路設備 S=1/200

改修後



道路境界線



- ※ 注記
- 埋設表示杭 金属製
  - FEP30用カップリング
  - <sub>333WP</sub> プルボックス 300x300x300 SUS WP

改修後 構内配電線路設備 S=1/200

特記事項	田頭一級建築設計事務所 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20466号 福岡県行橋市北泉四丁目28-16 TEL 0930-25-3444	田頭 康典 一級建築士 大臣登録第126902号	工事名称	令和4年度行橋市民体育館浄化槽更新工事	縮尺	S=1/200	製図年月日	2020年 7月
			図面名称	改修前後 構内配電線路設備	所長	検 査	作 図	E-04

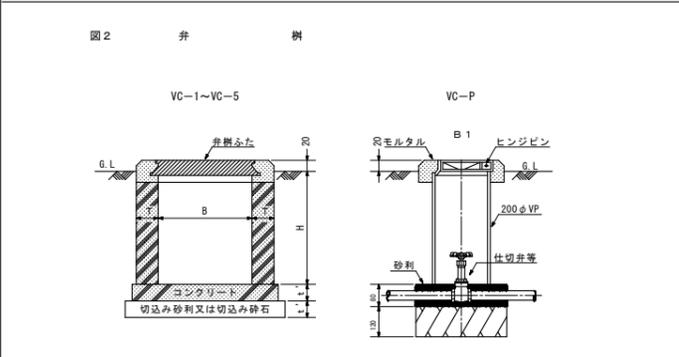
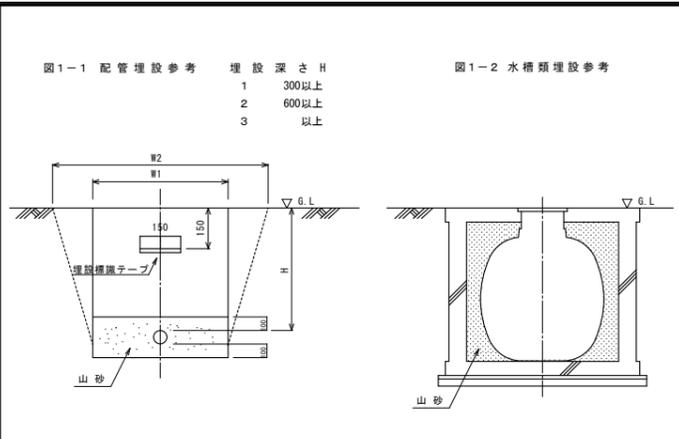


14	受水設備	※加圧給水ポンプ（住宅物件）の仕様については、加圧給水ポンプユニット仕様書（国土交通省仕様）による。																																																																																																																																													
15	浄化設備	※浄化槽仕様書による。																																																																																																																																													
16	営繕 保温仕様 管類については○印を塗りつぶしたものを適用する	給排水衛生設備	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th colspan="3">保温種別</th> <th colspan="3">区別</th> </tr> <tr> <td>屋内露出</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.合成樹脂製カバー</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>機械室・倉庫</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>天井内・PS内・空隙壁中</td> <td>1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>床下・暗渠内</td> <td>1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>床下・暗渠内・コナリ内</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋外露出・多湿箇所</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム 4.ステンレス鋼板</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋外露出・多湿箇所</td> <td>1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム 4.ステンレス鋼板</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>黒管塗装</td> <td>1.黒止めペイント (2回)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>白管塗装</td> <td>1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	施工箇所	保温種別			区別			屋内露出	1.グラスウール 2.鉄線 3.合成樹脂製カバー	○	○	○	○	○	機械室・倉庫	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス	●	○	○	○	○	天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層	○	○	○	○	○	床下・暗渠内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	床下・暗渠内・コナリ内	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	屋外露出・多湿箇所	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム 4.ステンレス鋼板	○	○	○	○	○	屋外露出・多湿箇所	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム 4.ステンレス鋼板	○	○	○	○	○	黒管塗装	1.黒止めペイント (2回)	○	○	○	○	○	白管塗装	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																						
		施工箇所	保温種別			区別																																																																																																																																									
		屋内露出	1.グラスウール 2.鉄線 3.合成樹脂製カバー	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		機械室・倉庫	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス	●	○	○	○	○																																																																																																																																							
		天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		床下・暗渠内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		床下・暗渠内・コナリ内	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		屋外露出・多湿箇所	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム 4.ステンレス鋼板	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		屋外露出・多湿箇所	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム 4.ステンレス鋼板	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		黒管塗装	1.黒止めペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
白管塗装	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
空調設備工事（冷暖水・管）	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th colspan="3">保温種別</th> <th colspan="3">区別</th> </tr> <tr> <td>屋内露出</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋外露出</td> <td>1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋外露出</td> <td>1.断熱管の断熱材 2.保温化粧ケース</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>機械室・倉庫</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>天井内・PS内・空隙壁中</td> <td>1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>天井内・PS内・空隙壁中</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>天井内・PS内・空隙壁中</td> <td>1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>床下・暗渠内・コナリ内</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>床下・暗渠内・コナリ内</td> <td>1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋外露出・多湿箇所</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム 4.ステンレス鋼板</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋外露出・多湿箇所</td> <td>1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋外露出・多湿箇所</td> <td>1.断熱管の断熱材 2.保温化粧ケース</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	施工箇所	保温種別			区別			屋内露出	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	屋外露出	1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	屋外露出	1.断熱管の断熱材 2.保温化粧ケース	○	○	○	○	○	機械室・倉庫	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層	○	○	○	○	○	天井内・PS内・空隙壁中	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	天井内・PS内・空隙壁中	1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	床下・暗渠内・コナリ内	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	床下・暗渠内・コナリ内	1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	屋外露出・多湿箇所	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム 4.ステンレス鋼板	○	○	○	○	○	屋外露出・多湿箇所	1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	屋外露出・多湿箇所	1.断熱管の断熱材 2.保温化粧ケース	○	○	○	○	○																																																			
施工箇所	保温種別			区別																																																																																																																																											
屋内露出	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
屋外露出	1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
屋外露出	1.断熱管の断熱材 2.保温化粧ケース	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
機械室・倉庫	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
天井内・PS内・空隙壁中	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
天井内・PS内・空隙壁中	1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
床下・暗渠内・コナリ内	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
床下・暗渠内・コナリ内	1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
屋外露出・多湿箇所	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム 4.ステンレス鋼板	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
屋外露出・多湿箇所	1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
屋外露出・多湿箇所	1.断熱管の断熱材 2.保温化粧ケース	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
一般風道	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th colspan="2">保温種別</th> <th colspan="2">区別</th> </tr> <tr> <td>矩形風道</td> <td>1.断 2.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> </tr> <tr> <td>円形風道（スパイラルダクト）</td> <td>1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層</td> <td>1.グラスウール保温層 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層</td> <td>1.グラスウール保温層 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム</td> </tr> </table>	区分	保温種別		区別		矩形風道	1.断 2.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	円形風道（スパイラルダクト）	1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層	1.グラスウール保温層 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層	1.グラスウール保温層 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム																																																																																																																															
区分	保温種別		区別																																																																																																																																												
矩形風道	1.断 2.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層																																																																																																																																											
円形風道（スパイラルダクト）	1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層	1.グラスウール保温層 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム	1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温層	1.グラスウール保温層 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム																																																																																																																																											
排煙風道	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th colspan="2">保温種別</th> <th colspan="2">区別</th> </tr> <tr> <td>矩形</td> <td>1.断 2.アルミガラスクロス化粧材 ロックウール保温層</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> </tr> <tr> <td>円形</td> <td>1.断 2.アルミガラスクロス化粧材 ロックウール保温層</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> </tr> </table>	区分	保温種別		区別		矩形	1.断 2.アルミガラスクロス化粧材 ロックウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	円形	1.断 2.アルミガラスクロス化粧材 ロックウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層																																																																																																																															
区分	保温種別		区別																																																																																																																																												
矩形	1.断 2.アルミガラスクロス化粧材 ロックウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層																																																																																																																																											
円形	1.断 2.アルミガラスクロス化粧材 ロックウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層																																																																																																																																											
煙道	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th colspan="2">保温種別</th> <th colspan="2">区別</th> </tr> <tr> <td>道</td> <td>1.ロックウールブランケット 2.鉄線 3.着色塗料</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> <td>1.断 2.グラスウール保温層</td> </tr> </table>	区分	保温種別		区別		道	1.ロックウールブランケット 2.鉄線 3.着色塗料	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層																																																																																																																																				
区分	保温種別		区別																																																																																																																																												
道	1.ロックウールブランケット 2.鉄線 3.着色塗料	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層	1.断 2.グラスウール保温層																																																																																																																																											
<p>※ 4'径以上の保温管及び0'径以下の保温管又は、保温板の使用が困難な箇所は、0'径-4'径を使用してもよい。</p> <p>※ ストレーナー・弁の保温は、屋内屋外ともビスなどにより容易に着脱できる構造とすること。</p> <p>※ 防火区画を貫通する管の保温は、その貫通部分をロックウール保温材とする。</p> <p>※ 高気管、温水管の保温は、ポリエチレンフィルムを除く。</p> <p>※ スパイラルダクト（フランジ部を除く。）の保温は、グラスウール保温板32K使用してもよい。</p> <p>※ O Aダクトが室内空調空間を経由する場合は保温すること。</p> <p>※ 全熱交換器の一次側O A、E Aダクトは保温工事を実施すること。</p> <p>※ ドレン管の保温は、排水管の項による。</p>																																																																																																																																															
17	住宅 保温仕様 管類については○印を塗りつぶしたものを適用する	給排水衛生設備	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th colspan="3">保温種別</th> <th colspan="3">区別</th> </tr> <tr> <td>屋内露出（住宅内）黒管</td> <td>1.黒止めペイント (2回)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋内露出（住宅内）白管</td> <td>1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋内露出（住宅外）</td> <td>1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>機械室内</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱材</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>メーターボックス内黒管</td> <td>1.黒止めペイント (2回)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>メーターボックス内白管</td> <td>1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>メーターボックス内</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>床下・暗渠内</td> <td>1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>床下・暗渠内</td> <td>1.黒止めペイント (2回)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>天井内・PS内</td> <td>1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>スラブ上床板間転がしスラブ上床板間転がし</td> <td>1.保温テープ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>洗面台内</td> <td>1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋外露出</td> <td>1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋外露出黒管</td> <td>1.黒止めペイント (2回)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>屋外露出白管</td> <td>1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>コンクリート内</td> <td>1.0.4m幅防錆コーキングテープ/2層巻1回巻</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>木造壁内</td> <td>1.断熱テープ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>流し裏</td> <td>1.断熱テープ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>土中埋設</td> <td>1.ベントナイト系 2.ベントナイト系防錆テープ 1/2層巻1回巻</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	施工箇所	保温種別			区別			屋内露出（住宅内）黒管	1.黒止めペイント (2回)	○	○	○	○	○	屋内露出（住宅内）白管	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○	屋内露出（住宅外）	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○	機械室内	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱材	○	○	○	○	○	メーターボックス内黒管	1.黒止めペイント (2回)	○	○	○	○	○	メーターボックス内白管	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○	メーターボックス内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス	○	○	○	○	○	床下・暗渠内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	床下・暗渠内	1.黒止めペイント (2回)	○	○	○	○	○	天井内・PS内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス	○	○	○	○	○	スラブ上床板間転がしスラブ上床板間転がし	1.保温テープ	○	○	○	○	○	洗面台内	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○	屋外露出	1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○	屋外露出黒管	1.黒止めペイント (2回)	○	○	○	○	○	屋外露出白管	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○	コンクリート内	1.0.4m幅防錆コーキングテープ/2層巻1回巻	○	○	○	○	○	木造壁内	1.断熱テープ	○	○	○	○	○	流し裏	1.断熱テープ	○	○	○	○	○	土中埋設	1.ベントナイト系 2.ベントナイト系防錆テープ 1/2層巻1回巻	○	○	○	○	○
		施工箇所	保温種別			区別																																																																																																																																									
		屋内露出（住宅内）黒管	1.黒止めペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		屋内露出（住宅内）白管	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		屋内露出（住宅外）	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		機械室内	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱材	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		メーターボックス内黒管	1.黒止めペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		メーターボックス内白管	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		メーターボックス内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
		床下・暗渠内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																							
床下・暗渠内	1.黒止めペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
天井内・PS内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
スラブ上床板間転がしスラブ上床板間転がし	1.保温テープ	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
洗面台内	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
屋外露出	1.ポリスチレンフィルム保温層 2.粘着テープ 3.ポリスチレンフィルム	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
屋外露出黒管	1.黒止めペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
屋外露出白管	1.エッチング 2.黒止めペイント (1回) 3.黒合ペイント (2回)	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
コンクリート内	1.0.4m幅防錆コーキングテープ/2層巻1回巻	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
木造壁内	1.断熱テープ	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
流し裏	1.断熱テープ	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
土中埋設	1.ベントナイト系 2.ベントナイト系防錆テープ 1/2層巻1回巻	○	○	○	○	○																																																																																																																																									
<p>※ 硬質塩化ビニル管及び鉄管のコンクリート、地中埋設部は防食施工しない。</p> <p>※ サニタリーバンド及び通気管の屋内露出部分は塗装する。</p> <p>※ 屋内露出（便所）の通気管は塗装する。</p> <p>※ コンクリート貫通部分には、防食処理を行う。</p> <p>※ 間仕切壁（PL板除く）貫通の場合は両側にプラスチックプレート取付のこと。</p> <p>※ 支持金物仕様PS内（鋼製）、屋外（SUS製）、その他（樹脂製）とする。</p> <p>※ さや管ヘッダー工法におけるヘッダー管は保温を行うこと。</p>																																																																																																																																															

18	建設副産物の処理について	<p>資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。</p> <p>現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。</p> <p>また、「再生資源の利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。</p> <p>工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。</p>
指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）	その他の副産物	<p>○がれき類 （コンクリート塊） （アスファルト塊） ・木くず ・汚泥</p> <p>○廃プラスチック （ガラス、陶磁器くず） ・廃石膏ボード</p> <p>○金属くず ・繊維くず</p>
特別管理産業廃棄物		<p>・廃石綿等</p> <p>「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル（環境庁大気安全局）」に従い、収集、運搬、処分を行う。</p> <p>・廃PCB等</p> <p>「電気事業法：電気関係報告規制」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・提出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。</p>
※参考受入場所は現場説明書による		
建設副産物の処理内容		
処理内容	備考	
現場内における分別		
現場内分別保管場所の設置		
現場内分別保管場所までの運搬		
分別保管場所からの積込み・運搬・処分		
「建設副産物の処置計画書」の作成	下請工事の場合は不要	
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要	
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要	
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要	

19	フロン処理について	<p>「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に従い処理すること。</p> <p>業務用冷凍空調機器の有無の事前確認の協力 委託確認書</p> <p>業務用冷凍空調機器の有無の確認 確認結果を書面で説明 フロン回収証明書 引取証明書、業者登録書のコピー</p> <p>工事請負業者</p> <p>引取証明書、業者登録書のコピー</p> <p>第1種フロン類充てん回収業者・・・フロン類回収・運搬</p> <p>フロン類破壊・再生業者・・・フロン類破壊処理、一部再生利用</p>
※ 工事請負業者は、第1種フロン類充てん回収業者にフロン回収処理を依頼し、回収後、引取証明書及び第1種フロン類充てん回収業者登録書のコピーの発行を受け、竣工図書に添付すること。		
※ 家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）に該当する機器（ルームエアコン等）については、適切に処理し、管理票（家電リサイクル券）を竣工図書に添付すること。		

20	中水道配管設備	<p>1. 水源</p> <p>・雨水 ・雑用水処理水 ・井水</p> <p>2. 配管材料</p> <p>一般配管</p> <p>・塩化ビニル管（SGP-VA） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PA） ・塩化ビニル管（SGP-VB） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PB） ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HVP）（屋内） ・鉄管（型種） ・ステンレス鋼管（SUS）（圧縮接合 ・溶接接合 ・拡管接合）</p> <p>屋内地中配管</p> <p>・塩化ビニル管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ※フタルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。</p> <p>屋外地中配管</p> <p>・塩化ビニル管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HVP） ・水道用硬質塩化ビニル管（VP） ※フタルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。 ・ポリエチレン管 1種（PE）（溶着接合 ・金属継手接合）</p>
3. 接続の防止対策	<p>配管等</p> <p>屋内隠ぺい配管</p> <p>1. 保温前の棟管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。</p> <p>屋内・屋外露出配管</p> <p>1. 保温前の棟管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の要所には「処理水」と表示する。</p> <p>地中埋設部</p> <p>1. 埋設前の棟管に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。 2. 「処理水」の文字入り埋設標識テープ（黄色）を布設する。（地中埋設部）</p> <p>メーター</p> <p>1. メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 2. メーターボックス裏は「処理水」入りを使用すること。</p> <p>バルブ等</p> <p>1. バルブハンドルには若草色の着色塗装を行うこと。 2. バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け処理水のことが識別できるようにする。 3. 地中埋設バルブの鉄蓋は「処理水」入りを使用すること。</p>	
注）若草色とは黄緑色をいう。処理水用の若草色表示テープ、黄色の埋設標識テープは福岡市管工事組合に常備。井戸水を雑用水として使用する場合は、上表において「若草色を紫色に」、「処理水を雑用水」と読みかえる。		
4. 試験	<p>接続がないことを確認するため衛生器具等の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験等を行う。</p>	



記号	井の呼び径	B	B	T	t'	t''	ふた
VC-P	25 以下	200φ	—	—	—	—	B 1
VC-1	—	—	550	75	75	75	B 1
VC-2	40 以下	180x180	850	100	100	100	B 1
VC-3	—	—	700	100	100	120	MHA-P300
VC-4	50~80	300x300	900	—	—	—	—
VC-5	100~200	450x450	1,200	120	120	120	MHA-P450

注（イ）本表のB及びH寸法は、5K仕切弁を対象とする。  
注（ロ）コンクリート部には、必要に応じ鉄筋を入れる。  
注（ハ）樹底部には、必要ある場合は、水抜管を設ける。

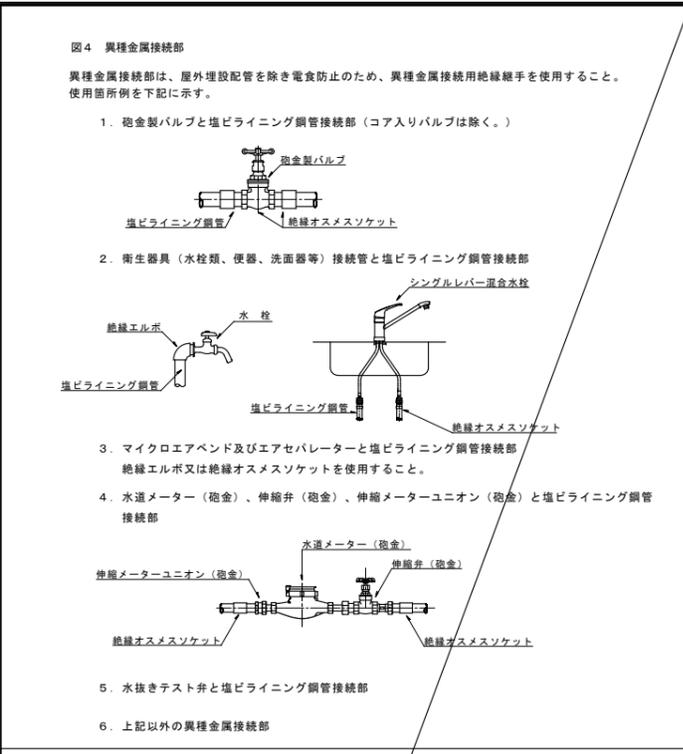
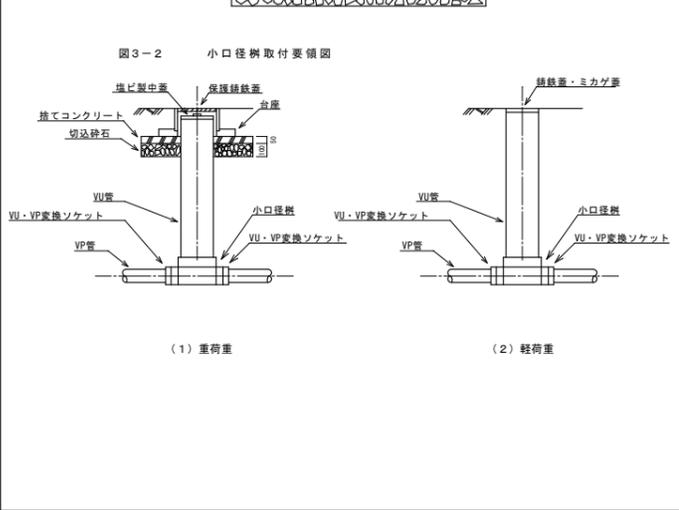
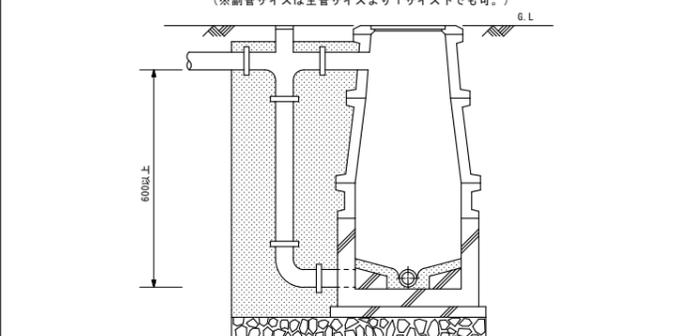


図5 防火区画等貫通部措置  
給水管、排水管及び通気管等が防火区画等を貫通する場合は、建築基準法施行令第129条の2の5第1項第7号に規定されており、次のいずれかに該当すること。

- 防火区画等の貫通部分及び両側1m以内を不燃材で遮ること。（右参考図参照）
- 平成12年建設省告示第1422号に適合すること。（下表）（難燃材料又は硬質塩化ビニル管（VP）を用いる場合）

用途	覆いの有無	肉厚	給水管等の外径			
			防火構造	30分耐火構造	1時間耐火構造	2時間耐火構造
給水管	無し	5.5mm以上	90mm (75)	—	—	—
		6.6mm以上	115mm (100)	90mm	90mm	
排水管及び排水管に付属する通気管	無し	4.1mm以上	61mm (50)	—	—	—
		5.5mm以上	90mm (75)	90mm	61mm	
		6.6mm以上	115mm (100)	90mm	61mm	
		7.0mm以上	141mm (125)	115mm	90mm	

※表中の（ ）内は適合可能な硬質塩化ビニル管（JIS K 6741のVU管を除く）の呼び径寸法を示す。  
※呼称寸法未満の給水管等については、JISに適合した硬質塩化ビニル管であれば、表中の肉厚に満たなくても同一の性能を有しているものとして取り扱う。

- 国土交通大臣の認定を受けたものであること。  
例1）硬質塩化ビニル管（RF-VP）に防火区画貫通用テープを用いる場合（右参考図参照）  
例2）耐火二層管を認定条件に従って施工する場合（立管はすべて耐火二層管とし、横管は立管の分岐から1mまでを耐火二層管とし、その延長部分を硬質塩化ビニル管とした場合など）

表1 厨房排気ダクトの板厚  
厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚については、以下による  
〔単位：mm〕

ダクトの長辺	板厚	
	亜鉛鉄板	ステンレス鋼板
450以下	0.6以上	0.5以上
450を超え1,200以下	0.8以上	0.6以上
1,200を超え1,800以下	1.0以上	—
1,800を超えるもの	1.2以上	0.8以上

H31-4 R3年 1月 日

工事名称 行橋市民体育館浄化槽更新工事 特記仕様書(2)

工事場所 福岡県行橋市大字今井3759番地

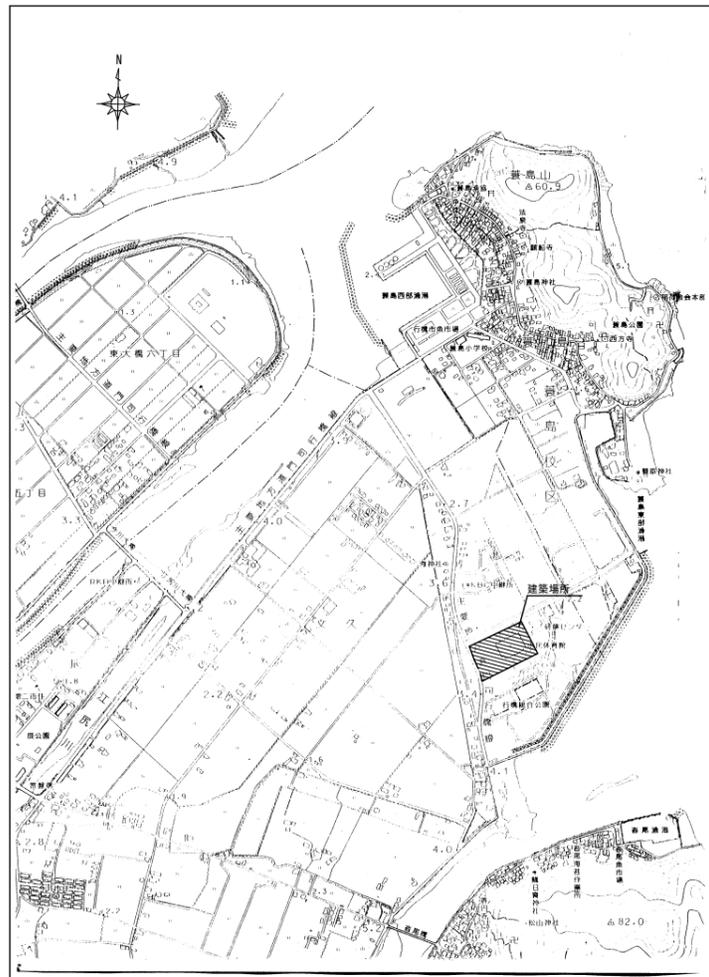
設計者 1級建築士登録第 126902 号 建築設備士第 号

設計者 事務所名 田頭一級建築設計事務所 号

設計者 事務所所在地 福岡県行橋市北東四丁目28-16 TEL 0930-25-3444 号

# 浄化槽仕様書

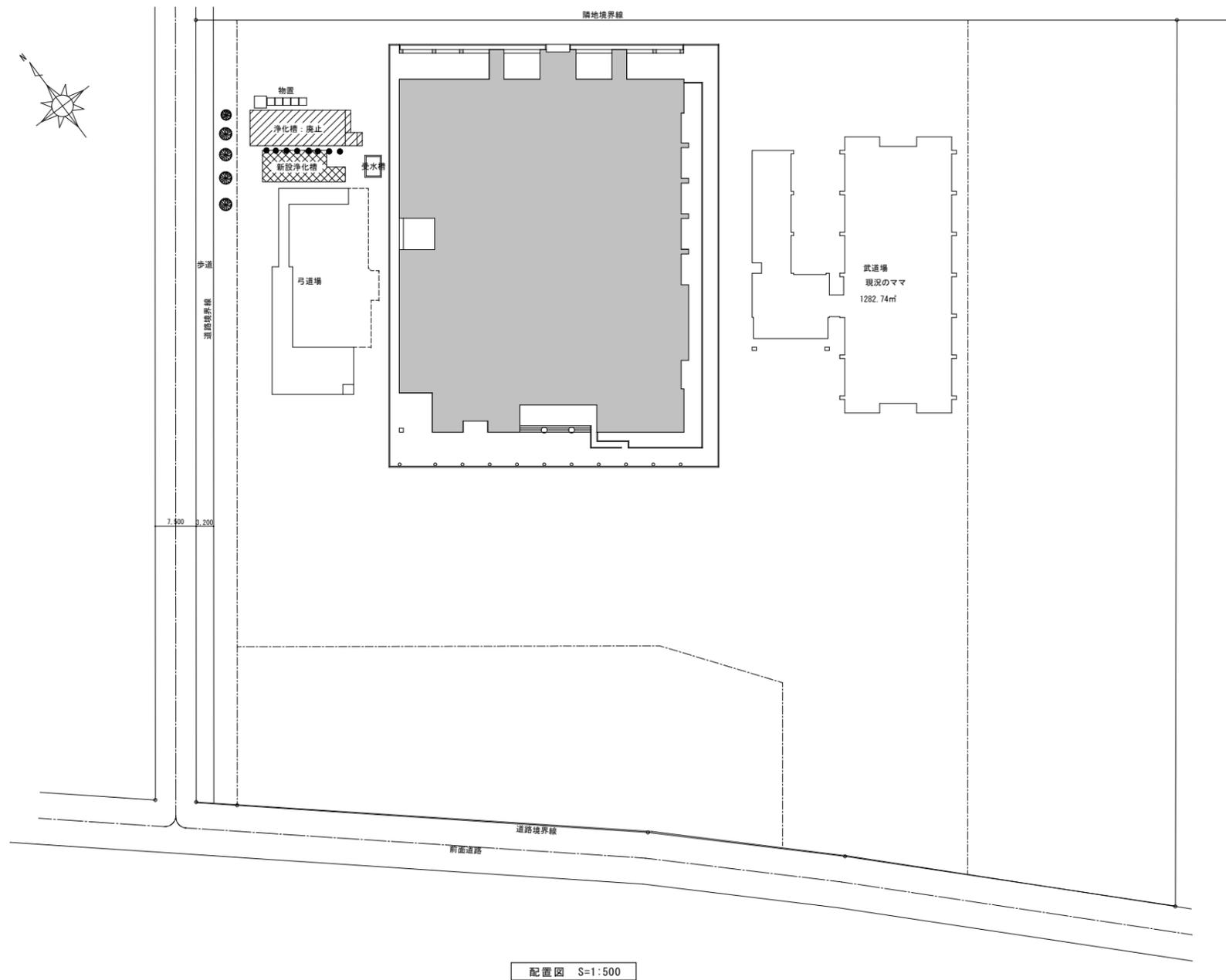
1. 工事名称 行橋市民体育館長寿命化改修工事		設計計算書(51人以上~500人) 必要に応じて選択、変更を行う。																										
		1. 計画汚水量 (1) 日平均汚水量 $Q_d = n \times q$ (m <sup>3</sup> /日) n: 処理対象人員(人) q: 1人当たりの日平均汚水量(m <sup>3</sup> ) (2) 移流汚水量 $Q_t = Q_d \div 2.4 \times$ 流量調整比 [m <sup>3</sup> /hr] (3) 流量調整比 1. 8 (4) 時間最大汚水量 $Q_m = Q_d \div 2.4 \times$ ピーク係数 [m <sup>3</sup> /hr] (5) ピーク係数 3. 0	計画汚水量 58m <sup>3</sup> /日 <table border="1"><thead><tr><th></th><th>m<sup>3</sup>/d</th><th>m<sup>3</sup>/hr</th><th>m<sup>3</sup>/min</th></tr></thead><tbody><tr><td>Qd</td><td>90</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>Qt</td><td>—</td><td>6.75</td><td>0.113</td></tr><tr><td>Qm</td><td>—</td><td>11.25</td><td>1.188</td></tr></tbody></table>		m <sup>3</sup> /d	m <sup>3</sup> /hr	m <sup>3</sup> /min	Qd	90	—	—	Qt	—	6.75	0.113	Qm	—	11.25	1.188									
	m <sup>3</sup> /d	m <sup>3</sup> /hr	m <sup>3</sup> /min																									
Qd	90	—	—																									
Qt	—	6.75	0.113																									
Qm	—	11.25	1.188																									
2. 工事場所 福岡県行橋市 (放流場所 敷地内既設放流配管)		2. 容量算定 2-1. 原水ポンプ槽 1) 必要容量 時間最大汚水量の15分間	a. 必要容量 $V = Q_m \text{ m}^3/\text{min} \times 15 \text{ 分間} = 2.82 \text{ m}^3$ b. 実容量 巾 $\phi 2.50 \text{ m} \times$ 深さ 1.17 m $V = 5.271 \text{ m}^3$																									
3. 工事概要 A) 構体体工事 (FRP 現場打ち) B) 内部設備工事		2) 原水ポンプ 時間最大汚水量の1.5倍相当 ・型式 汚物用水中ポンプ(着脱式) ・口径 50A ・揚水量 0.29m <sup>3</sup> /min × 揚程3.5m以上 ・電動機出力 能力に対応出来る出力 ・電源 三相 200V 60Hz ・台数 2台以上(内1台予備)	a. 原水ポンプの仕様 型式: 汚物用水中ポンプ(着脱式) 2 口径: 50A 3 揚水量: 0.31 m <sup>3</sup> /min 4 揚程: 4.0m 5 出力: 0.75 kw × 2p 6 電源: $\phi 3 \times 200 \text{ V} \times 60 \text{ Hz}$ 7 台数: 2台(内1台予備)																									
4. 官公庁手続 工事に必要な官公庁への手続きは、遅滞なく行うこと。なお費用は請負者負担とする。 ・保健所に届出している浄化槽設置届出・計画書の内容を確認すること。 ・事後報告事項として、FRP型式認定・工事業者・7家検査納付書・保守点検業者となっている。 ・届出内容と異なる場合は、届出内容変更(水質汚濁防止法、瀬戸内海環境保全特別措置法、該当施設も同様)の手続きをすること。 ・竣工検査前に、浄化槽の工事が完了し、使用開始届を行うこと。		2-2. ばっ気沈沙槽 1) 必要容量 時間最大汚水量の3分間	a. 必要容量 $V = Q_m \text{ m}^3/\text{min} \times 3 \text{ 分間} = 0.564 \text{ m}^3$ b. 実容量 $V = 2.961 \text{ m}^3$																									
5. 一般事項 本工事は図面及び特記仕様書に準拠するほか係員の指示に従い誠実に施工するものとする。施工に先立ち工程表を作成し係員の承認を受ける。工事完成の上は全設備の検査を受けその他許認可・検査証及び竣工図・試験データ写真等を添付する。		2-3. 流量調整槽 1) 必要容量 流量調整比を1.8以下とし、有効容量は次式によって計算した数値以上とする。 $V \geq (Q_d / T - K \times Q / 2.4) \times T$ V: 流量調整槽必要容量(m <sup>3</sup> ) T: 排出時間(hr) Qd: 計画汚水量(m <sup>3</sup> /日) K: 流量調整比 (Qdの1/2.4の1.8倍に流量を調整する場合、K=1.8)	a. 必要容量(V) $V \geq (90.0 / 12 - 1.8 \times 90.0 / 24) \times 12 = 9.000 \text{ m}^3$ b. 実容量 巾 $\phi 2.50 \text{ m} \times$ 長さ (1.92m+2.42m) × 深さ 1.50m $V = 14.338 \text{ m}^3$																									
6. 設計条件 1) 処理対象人員 処理対象人員の算定はJISA3302-2000によるし原水浄化槽の処理対象人員算定基準による。 ・建築用途 体育館、武道館、弓道場、研修場 ・処理対象人員 530人槽 人員算定計算式 ① 体育館、武道館、弓道場 ・延床面積: 体育館 4,530.90m <sup>2</sup> 、武道館 1,282.74m <sup>2</sup> 、弓道場 270.00m <sup>2</sup> ・算定式: $n1 = 0.065A = 0.065 \times (4,530.90 + 1,282.74 + 270.00) = 395.5$ 人 ② 研修場 ・延床面積: 2,076.90m <sup>2</sup> 、定員: 126名 ・算定式: $n2 = P = 126.0$ 人 ・合計 $n = n1 + n2 = 395.5 + 126.0 = 521.5 < 530$ 人槽 2) 計画汚水量(排水時間は建築物用途別排水時間による。) 日平均汚水量 90.0 m <sup>3</sup> /日 3) 処理方式 建設基準法施行令第35条第1項 流量調整担体流動生物ろ過方式 ・国土交通省告示第154号 接触ばっ気方式(三次処理方式) 4) 水質及び除去率 <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>流入汚水</th><th>放流水</th><th>除去率</th></tr></thead><tbody><tr><td>BOD</td><td>250 mg/l</td><td>15 mg/l</td><td>94 %</td></tr><tr><td>SS</td><td>mg/l</td><td>15 mg/l</td><td>%</td></tr><tr><td>PH</td><td>5.8 ~ 8.6</td><td>5.8 ~ 8.6</td><td></td></tr><tr><td>大腸菌群数</td><td></td><td>3000個/cc以下</td><td></td></tr></tbody></table> 5) 処理系統 別紙添付フローシート参照		区分	流入汚水	放流水	除去率	BOD	250 mg/l	15 mg/l	94 %	SS	mg/l	15 mg/l	%	PH	5.8 ~ 8.6	5.8 ~ 8.6		大腸菌群数		3000個/cc以下		2-4. 多孔スクリーン 1) 流量調整後の約2.0mm以上のし液等を分離する。 2) スクリーン目詰まり防止の為、ばっ気を行う。 3) スクリーンは孔径2mmの多孔スクリーンで副水路として孔径5mmの多孔スクリーンを上部に設ける。 4) 容量 し液貯留部の容量は時間当たりの移流汚水量に対して60分の4以上 5) スクリーン面積 移流汚水量に対して 25 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> /hr 以下	a. 多孔スクリーンの仕様 1) 目幅 2.0mm+5.0mm(副水路) 2) 必要容量 $V = 90.0 / 2.4 \times 1.8 \times (4 / 60) = 0.45 \text{ m}^3$ 実容量 0.784 m <sup>3</sup> 3) 必要面積 $S = 90.0 / 2.4 \times 1.8 / 25 \text{ m}^3/\text{m}^2 / \text{hr} = 0.27 \text{ m}^2$ 実面積 0.422m <sup>2</sup> 4) 散気装置 有孔管 一式	a. 必要容量(V) 1) BOD負荷 0.6 kg/m <sup>3</sup> /日以下 $V1 = 0.25 \text{ kg}/\text{m}^3 \times 90.0 \div 0.6 \text{ kg}/\text{m}^3/\text{日} = 37.5 \text{ m}^3$ 2) 日平均汚水量の4時間分以上 $V2 = 90.0 \text{ m}^3/\text{日} / 2.4 \times 4 = 15.0 \text{ m}^3$ よって、 $V = 37.5 \text{ m}^3$ 以上 3) 実容量 巾 $\phi 2.50 \text{ m} \times$ 長さ (3.41m+3.41m) × 有効水深2.05m $V = 37.524 \text{ m}^3$	2-5. 担体流動槽 1) BOD容積負荷量 0.6 kg/m <sup>3</sup> ・日以下 2) 日平均汚水量の4時間分以上 3) 有効水深 2.05m	a. 必要容量(V) $V = 37.524 \text{ m}^3 / 2 \times 0.4 = 7.505 \text{ m}^3 \sim 37.524 \text{ m}^3 / 2 \times 0.45 = 8.443 \text{ m}^3$ b. 実容量 $V = 7.800 \text{ m}^3$	2-6. 汚泥濃縮貯留槽 1) 発生汚泥量 1 除去BOD量: 42.45g/人/日 × 0.94 = 39.9g/人/日 2 残留汚泥発生率 0.7kg/kg 3 残留汚泥の水分: 99% 4 SS濃度: 10.000mg/l = 10kg/m <sup>3</sup> 5 汚泥容量: 0.0399 × 0.7 / 0.01 = 2.80g/人/日 = 0.280m <sup>3</sup> /人/日 2) 濃縮部 ・流入汚泥量の3日分 ・残留汚泥濃度 10.000mg/l = 10kg/m <sup>3</sup> 3) 貯留部 濃縮汚泥量の14日分 ・濃縮汚泥濃度 20.000mg/l = 20kg/m <sup>3</sup> 4) 必要容量 ・流入汚泥量の3日分 + 濃縮汚泥量の14日分 5) 散気装置	a. 発生汚泥固形物量(Sa) $Sa = 530 \text{ 人} \times 42.45 \text{ g}/\text{人}/\text{日} \times 0.94 = 21,480.4 \text{ kg}/\text{日}$ b. 発生汚泥量(Sb) $Sb = 14.804 \text{ kg}/\text{日} \div (100 - 99) / 100 \times 100 = 14,804 \text{ m}^3/\text{日}$ c. 濃縮部容量 $Va = 1.4804 \text{ m}^3/\text{日} \times 3 \text{ 日} = 4.442 \text{ m}^3$ d. 濃縮汚泥量(C) $C = 1.4804 \text{ m}^3/\text{日} \times \frac{100 - 99}{100 - 98} = 0.7402 \text{ m}^3/\text{日}$ e. 貯留部容量 $Vb = 0.7402 \text{ m}^3/\text{日} \times 14 \text{ 日} = 10.363 \text{ m}^3$ f. 必要容量 $V = 4.442 + 10.363 = 14.805 \text{ m}^3$ g. 実容量 巾 $\phi 2.50 \text{ m} \times$ 長さ (1.97m + 1.97m) × 有効水深2.10m $V = 14.874 \text{ m}^3$
区分	流入汚水	放流水	除去率																									
BOD	250 mg/l	15 mg/l	94 %																									
SS	mg/l	15 mg/l	%																									
PH	5.8 ~ 8.6	5.8 ~ 8.6																										
大腸菌群数		3000個/cc以下																										
7. 工事区分 1) 配管設備工事 ・管材、継手、弁類 図示による ・塗装 槽外の鉄部は防錆塗装後、耐熱性塗料2回塗り。なお、管支持金物・ボルト・ナット類は全てステンレス鋼(SUS304)とする。 2) 電気設備工事 動力設備工事 合併処理動力操作盤と合併処理内各機器の配管配線工事(二次側)を行う。 照明設備工事 合併処理の機械室・階段室・前処理室の配管配線工事を行う。 3) 試運転調整 本工事完成後は放流水質安定まで維持管理業者に充分技術指導を行いその機能を充分発揮させるものとする。6ヶ月間に3回施設管理者立会いで流入汚水・放流処理水採取し、その水質検査を公的機関に依頼し、検査結果を施設管理者及び県担当員に提出するものとする。 なお費用については本工事に含めるものとする。		2) 有効水深 LWLは槽底部より450mm HWLは流入管底に合わせて1250~1950mm	LWL: 槽底部より450mm HWL: 1950mm	4) 散気装置 ・必要容量(V) × 0.4 ~ 0.45	a. 担体必要容量(VT = V × 0.4 ~ 0.45) $VT = 37.524 \text{ m}^3 / 2 \times 0.4 = 7.505 \text{ m}^3 \sim 37.524 \text{ m}^3 / 2 \times 0.45 = 8.443 \text{ m}^3$ b. 実容量 $VT = 7.800 \text{ m}^3$	4) 担体容量 ・必要容量(V) × 0.4 ~ 0.45	a. 担体必要容量(VT = V × 0.4 ~ 0.45) $VT = 37.524 \text{ m}^3 / 2 \times 0.4 = 7.505 \text{ m}^3 \sim 37.524 \text{ m}^3 / 2 \times 0.45 = 8.443 \text{ m}^3$ b. 実容量 $VT = 7.800 \text{ m}^3$	4) 必要容量 ・流入汚泥量の3日分 + 濃縮汚泥量の14日分	a. 必要容量(V) $V = 90.0 \text{ m}^3/\text{日} / 2.4 \times 3 = 11.25 \text{ m}^3$ b. 実容量 巾 $\phi 2.50 \text{ m} \times$ 長さ (1.31m+1.31m) × 有効水深2.05m $V = 11.286 \text{ m}^3$ c. 必要面積(S) $S = 90.0 \times 1.8 / 25 \text{ m}^3/\text{m}^2 / \text{d} = 6.480 \text{ m}^2$ d. 実面積 $S = (1.31 \text{ m} + 1.31 \text{ m}) \times 2.50 = 6.550 \text{ m}^2$	a. 必要容量(V) 1) 日平均汚水量の3時間分以上 2) ろ過速度は日平均汚水量に対して 25 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> /d 以下 3) 有効水深 2.05m	a. 必要容量(V) 1) 型式: ルーツブロウ 2) 口径: 40A 3) 風量: 1.75m <sup>3</sup> /min 4) 圧力: 30kPa 5) 出力: 1.5kw 6) 電源: $\phi 3 \times 200 \text{ V} \times 60 \text{ Hz}$ 7) 台数: 3台(内1台予備)	a. 必要容量(V) 1) 型式: ルーツブロウ 2) 口径: 40A 3) 風量: 1.75m <sup>3</sup> /min 4) 圧力: 30kPa 5) 出力: 1.5kw 6) 電源: $\phi 3 \times 200 \text{ V} \times 60 \text{ Hz}$ 7) 台数: 3台(内1台予備)	a. 必要容量(V) $V = 90.0 \text{ m}^3/\text{日} / 2.4 \times 3 = 11.25 \text{ m}^3$ b. 実容量 巾 $\phi 2.50 \text{ m} \times$ 長さ (1.31m+1.31m) × 有効水深2.05m $V = 11.286 \text{ m}^3$ c. 必要面積(S) $S = 90.0 \times 1.8 / 25 \text{ m}^3/\text{m}^2 / \text{d} = 6.480 \text{ m}^2$ d. 実面積 $S = (1.31 \text{ m} + 1.31 \text{ m}) \times 2.50 = 6.550 \text{ m}^2$	a. 必要容量 $V = 90.0 \div 2.4 \div 60 \times 15 \text{ 分間} = 0.938 \text{ m}^3$ 以上 b. 実容量 $V = 1.982 \text{ m}^3$ c. 塩素注入装置の仕様 1) 型式: 固形塩素剤溶解型(浸せき型) 2) 容量: 15kg	a. 必要容量 $V = 90.0 \div 2.4 \div 60 \times 15 \text{ 分間} = 0.938 \text{ m}^3$ 以上 b. 実容量 $V = 2.590 \text{ m}^3$ c. 放流ポンプの仕様 1) 型式: 汚物用水中ポンプ(着脱式) 2) 口径: 40A 3) 揚水量: 0.2 m <sup>3</sup> /min 4) 揚程: 3.0m 5) 出力: 0.25kw × 2P 6) 電源: $\phi 3 \times 200 \text{ V} \times 60 \text{ Hz}$ 7) 台数: 2台(内1台予備)	a. 必要容量 $V = 90.0 \div 2.4 \div 60 \times 15 \text{ 分間} = 0.938 \text{ m}^3$ 以上 b. 実容量 $V = 2.590 \text{ m}^3$ c. 放流ポンプの仕様 1) 型式: 汚物用水中ポンプ(着脱式) 2) 口径: 40A 3) 揚水量: 0.2 m <sup>3</sup> /min 4) 揚程: 3.0m 5) 出力: 0.25kw × 2P 6) 電源: $\phi 3 \times 200 \text{ V} \times 60 \text{ Hz}$ 7) 台数: 2台(内1台予備)												
R2-8 改訂		R3年 1月 日																										
工事名称	行橋市民体育館浄化槽更新工事	浄化槽仕様書																										
工事場所	福岡県行橋市大字今井3759番地	図番	M-03 / 号																									
設計者氏名	1級建築士登録第 126902 号 建築設備士第 号	印																										
事務所名及び所在地	田頭一級建築設計事務所 福岡県行橋市北泉四丁目28-16 TEL 0930-25-3444																											



案内図

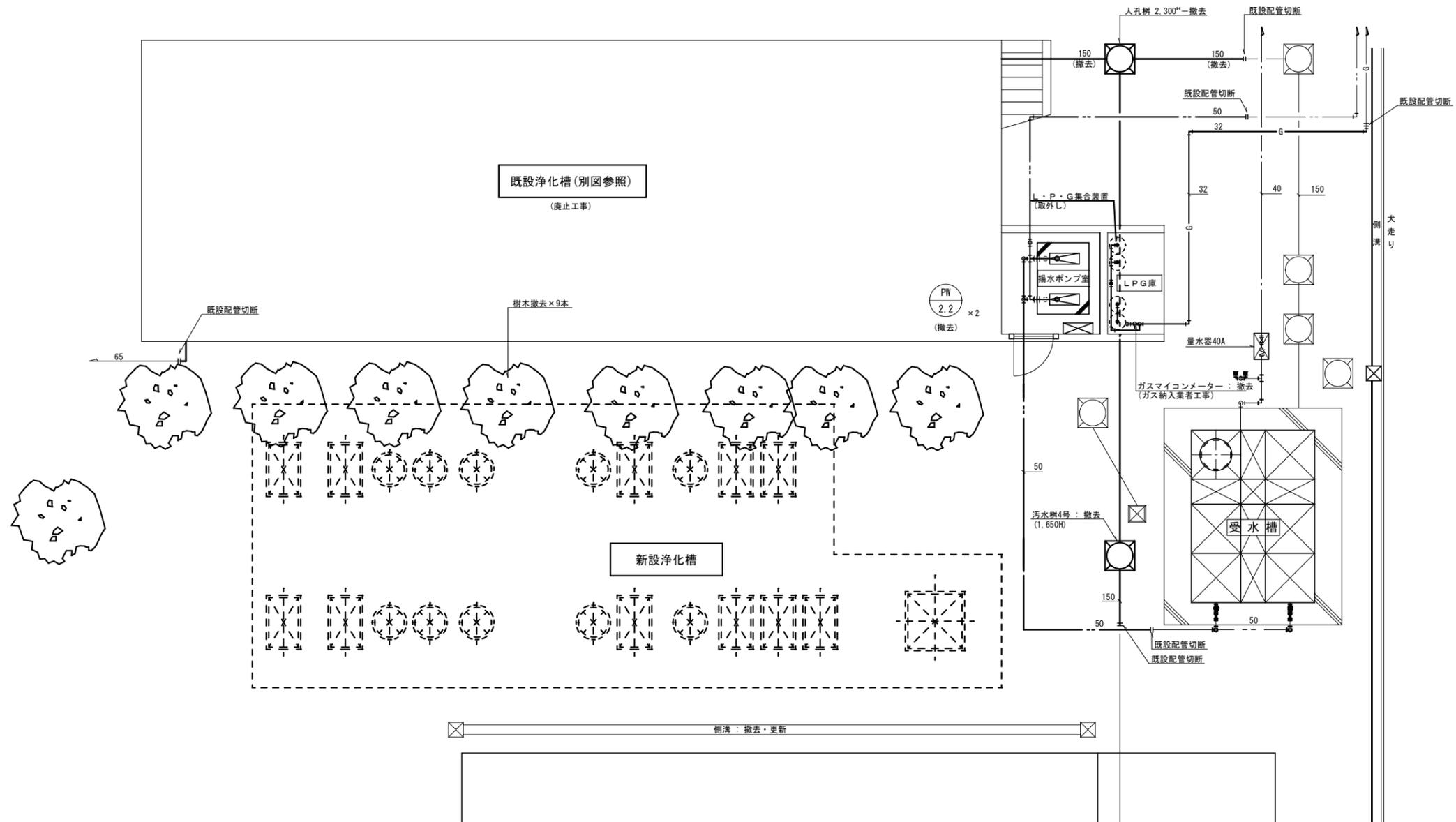
面積表

建築面積	4,049.39㎡
1階床面積	3,260.46㎡
2階床面積	1,270.49㎡
延べ床面積	4,530.95㎡



配置図 S=1:500

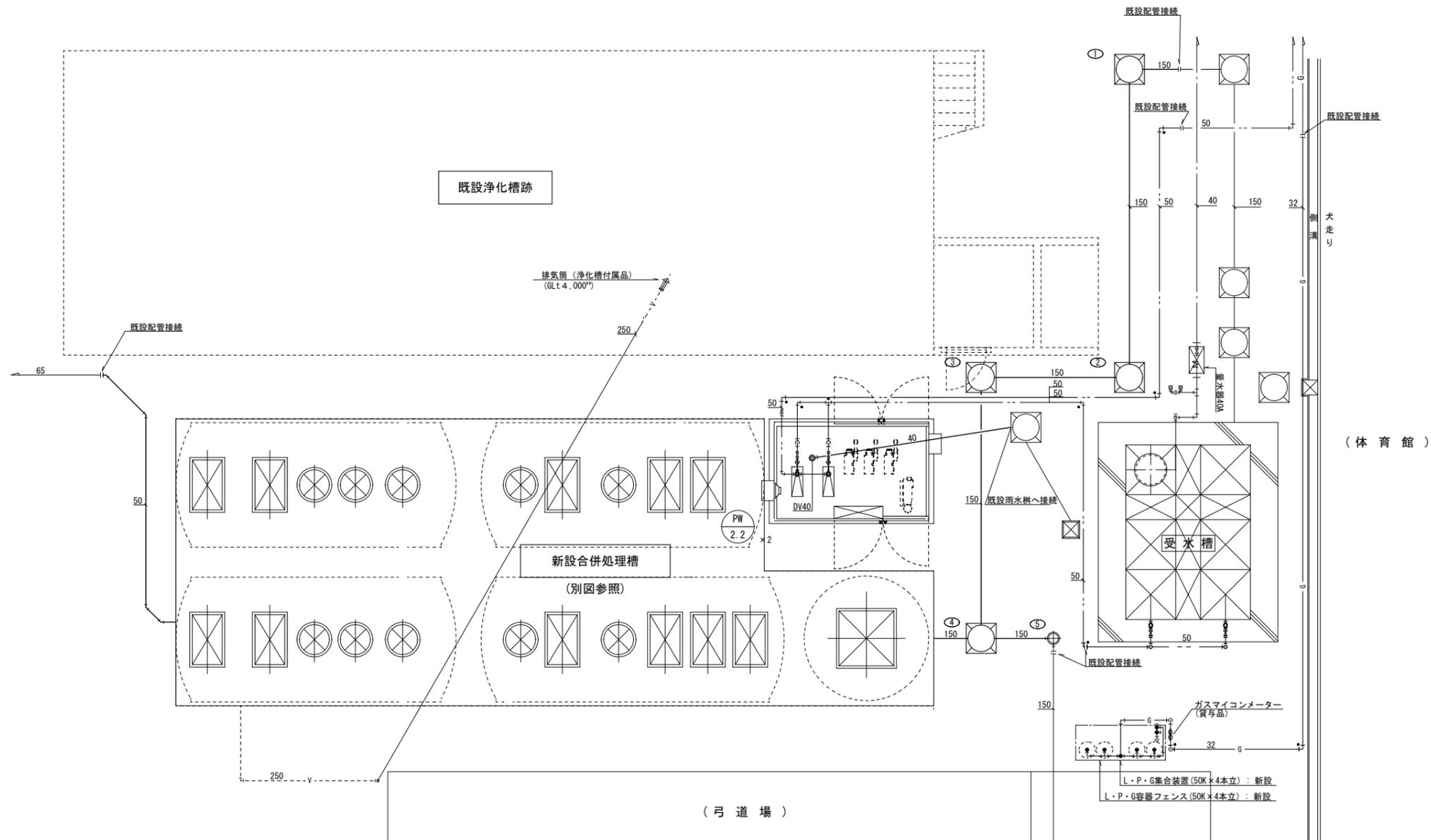
機器表 (撤去)							
記号	名称	型式	参考電気容量		台数	附属品及び備考	
			φ	kW			
PW-2.2	揚水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ	3	200	2.2	2	φ50×210 <sup>1</sup> /m.n×25m



改修前 受水槽廻り平面図 S=1/50

特記事項	田頭一級建築設計事務所	一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20466号 福岡県行橋市北泉四丁目28-16 TEL 0930-25-3444	田頭 康典 一級建築士 大臣登録第126902号	工事名称 行橋市民体育館浄化槽更新工事	縮尺 S=1/50	製図年月日 2021年 1月	所長 検査 作図	M-05
	図面名称 改修前 受水槽廻り平面図							

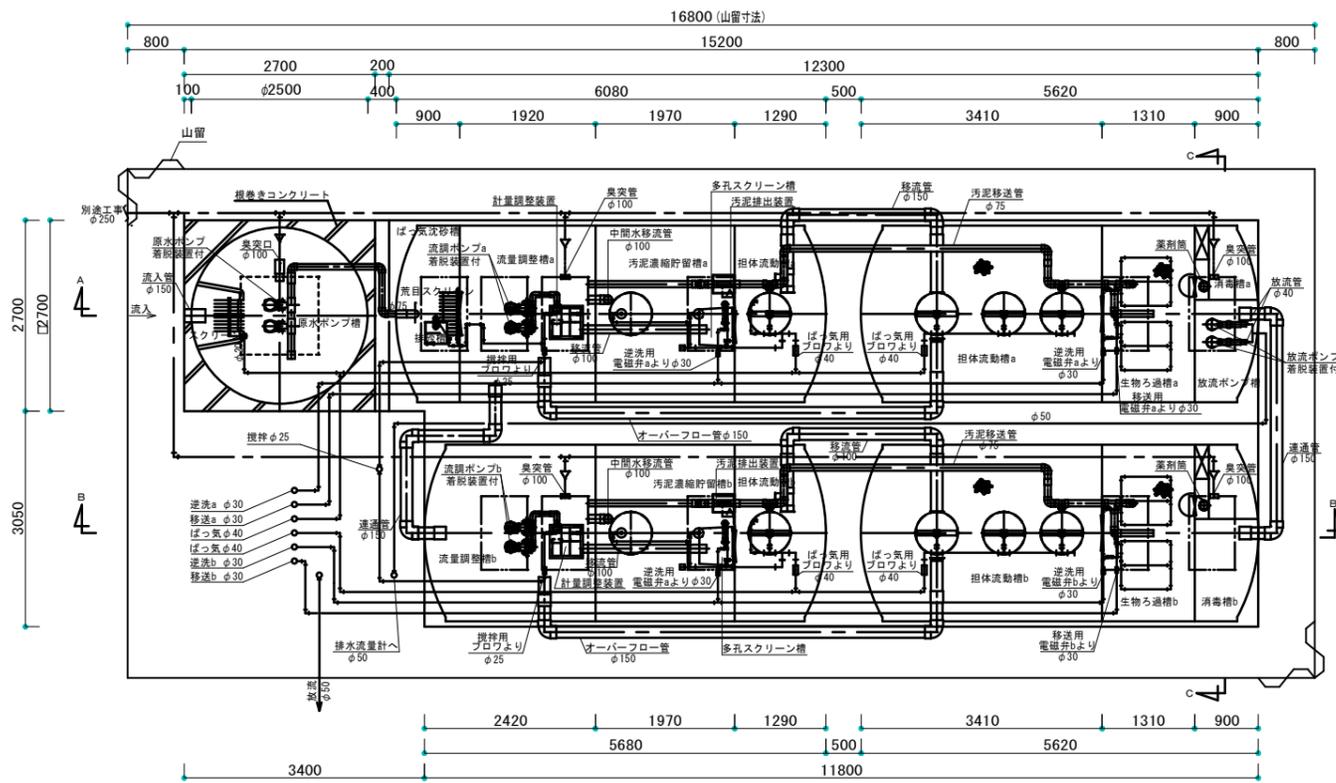
機器表 (新設)							
記号	名称	型式	参考電容量		台数	附属品及び備考	
			φ	V			kW
PW-2.2	揚水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ	3	200	2.2	2	φ50×210 <sup>l</sup> /min×25m, GV50×2・CV50・FJ(球型)50×2 等他付属品一式共
	L・P・G容器フェンス	50Kg×4本立				1	(耐塩害仕様) 参考寸法 1,800 <sup>w</sup> ×665 <sup>D</sup> コンクリート基礎(2,000 <sup>w</sup> ×1,000 <sup>D</sup> ×150 <sup>H</sup> ) 共
	L・P・G集合装置	50Kg×4本立				1	高圧ホース×4・高圧パイプ×・プレブ配管・転倒防止チェーン(×2段) 等他付属品一式共



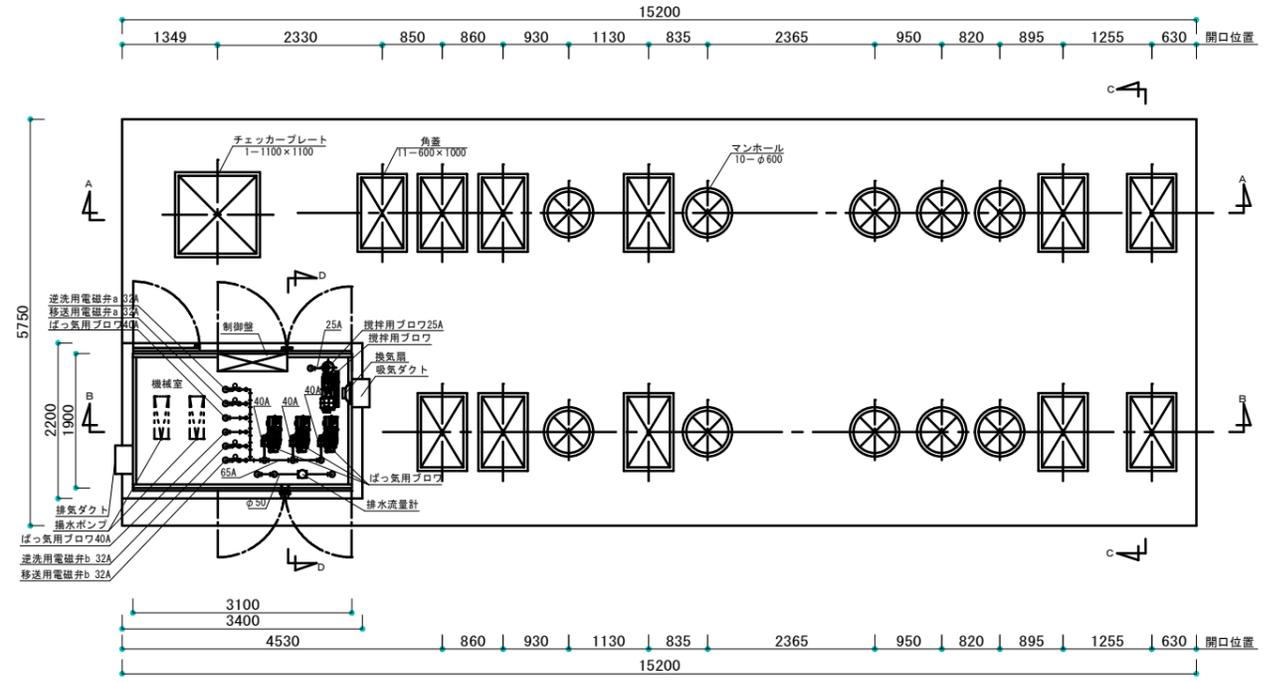
改修後 受水槽廻り平面図 S=1/50

樹リスト				
番号	形状	参考深さ	マンホール蓋	備考
①	SC-4	2,270	MHB600	
②	SC-4	2,350	MHB600	
③	SC-4	2,400	MHB600	
④	SC-4	2,470	MHB600	ドロップ樹
⑤	小口径樹φ150×φ200	1,640	塩ビ蓋	90°L

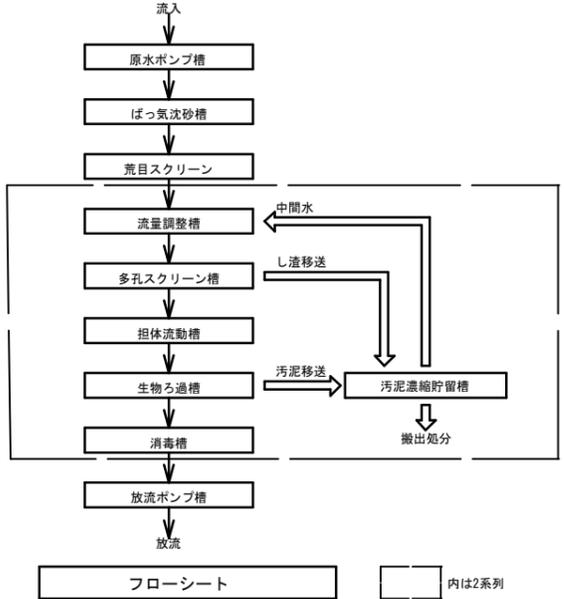
凡例  
 : 埋設標示杭



平面図 S=1/50



頂版開口図 S=1/50



建築基準法第68条の26第1項の規定に基づき、同法施行令第35条第1項の大臣認定による流量調整担体流動ろ過方式	
処理対象人員	530人
日平均汚水量	90.0m <sup>3</sup> /日
流入BOD	250mg/L
放流BOD	15mg/L
排水時間	12時間

容量表	
項目	設計容量 (m <sup>3</sup> )
原水ポンプ槽	5.271
ばっ気沈砂槽	2.961
流量調整槽	14.338
汚泥濃縮貯留槽	14.874
多孔スクリーン槽	0.784
担体流動槽	37.524
生物ろ過槽	11.286
消毒槽	1.982
放流ポンプ槽	2.590

機械室製作仕様		
構造	屋外自立型 鋼板製	
板厚	本体	2.3t
	扉	2.3t
	中扉	2.3t
	機器取付板	2.3t
塗装色	外面	5Y7/1半艶
	内面	5Y7/1半艶

グラスウール25t(クロス押さえ)内張り耐重塩害仕様とする

機器仕様表					
機器名	口径	出力/kW	相・電圧	吐出量 m <sup>3</sup> /min	台数
ばっ気用ブロウ	40A	1.50	三相・200V	1.75	3
攪拌用ブロウ	25A	0.40	三相・200V	0.34	1
原水ポンプ(着脱)	60A	0.75	三相・200V	0.31	2
流調ポンプa(着脱)	60A	0.15	三相・200V	0.118	2
流調ポンプb(着脱)	60A	0.15	三相・200V	0.118	2
放流ポンプ(着脱)	40A	0.25	三相・200V	0.20	2
移送用電磁弁	32A	0.048	単相・200V		2
逆洗用電磁弁	32A	0.048	単相・200V		2

型式適合認定番号: 型01Cafoa1024668 (参考)

スラブ荷重は、T-0とする。

マンホール及び角蓋は、防臭型ロック式及び溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

チェッカープレートは、防臭型ロック式及び溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

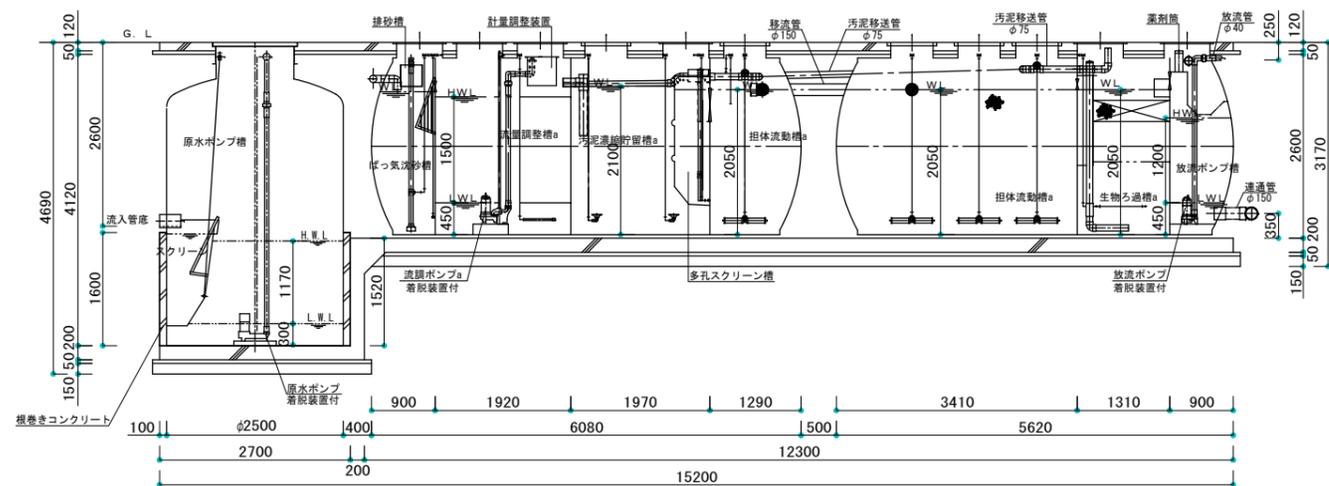
臭突横引き配管は、上り勾配施工とする。(臭突排気風量5.76m<sup>3</sup>/分)

浄化槽流入部付近に給水栓を設けること。

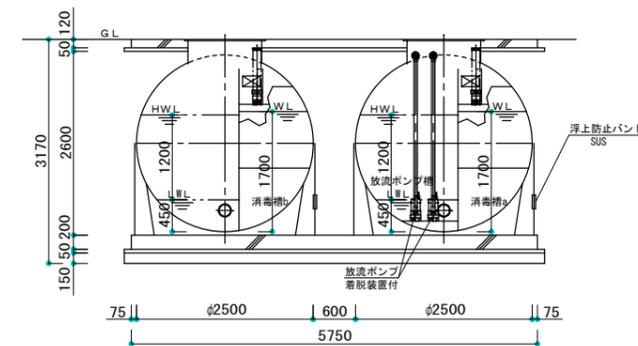
円筒槽の補強リングは、FRP製とする。

電磁弁は必ず本体が水平(コイルが垂直)になるように取り付ける。

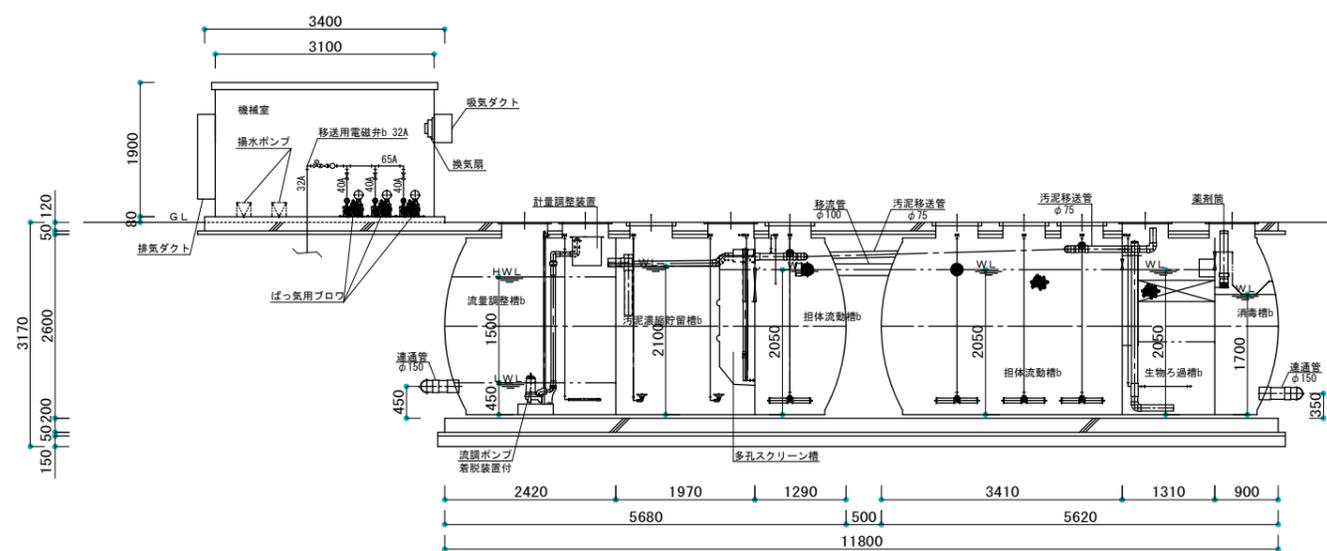
かさ上げ0mmです。かさ上げは300mm以下と決められています。



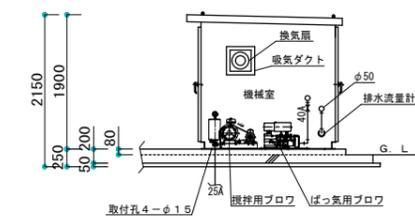
A-A断面図 S=1/50



C-C断面図 S=1/50

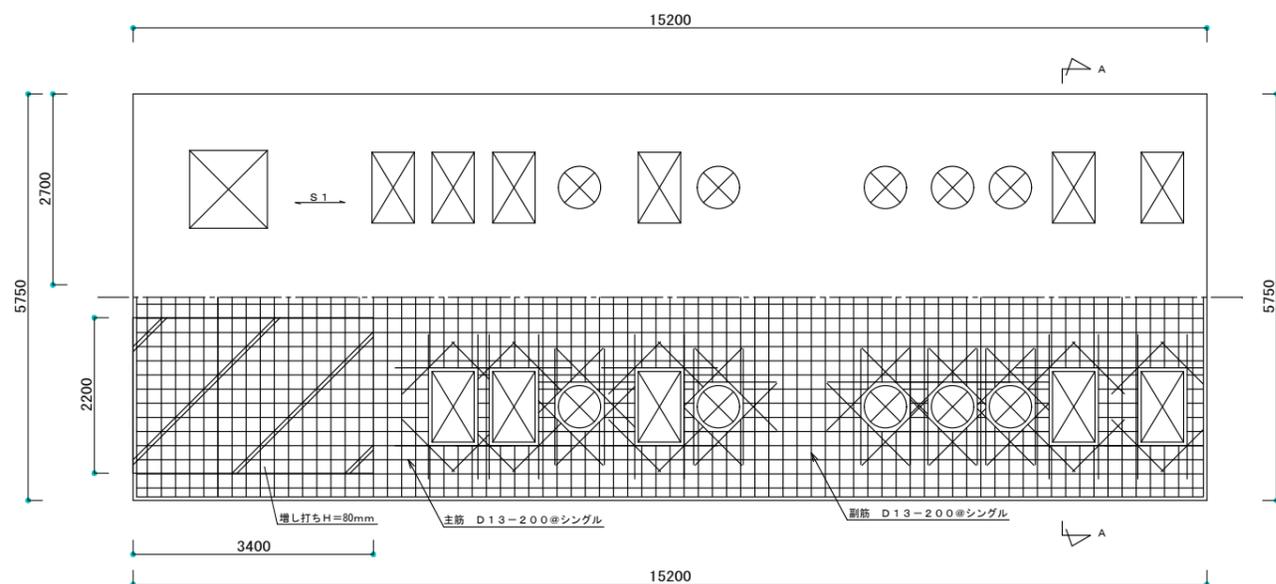


B-B断面図 S=1/50



D-D断面図 S=1/50

特記事項	田頭一級建築設計事務所	一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20466号 福岡県行橋市北東四丁目28-16 TEL 0930-25-3444	田頭 康典 一級建築士 大臣登録第126902号	工事名称 行橋市民体育館浄化槽更新工事	縮尺 S=1/50	製図年月日 2021年 1月	所長 検査 作図	M-08
	図面名称 浄化槽_断面図 (参考図)							

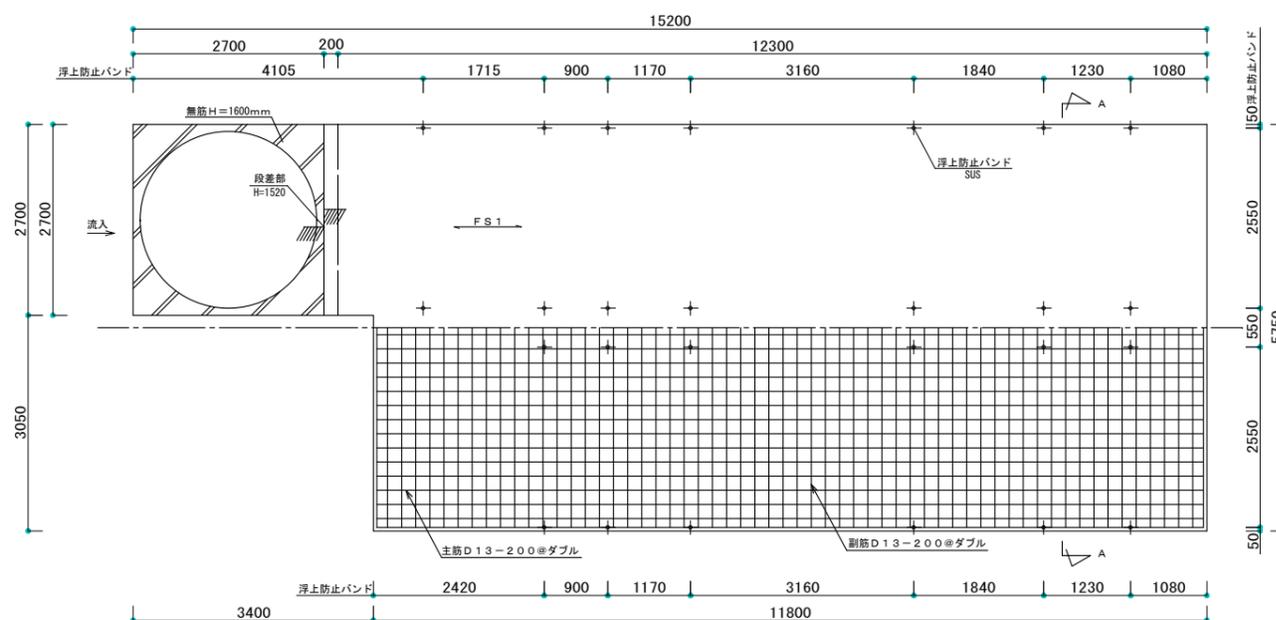


頂版スラブ配筋図 S=1/50 主筋方向

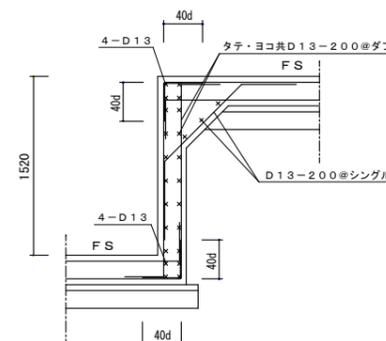
共通事項	
凡例	-----D10 x -----D13 o -----D16
鉄筋	SD-295A 使用とする。
コンクリート	$F_c=21 \text{ N/mm}^2$ とする。
スラブ荷重	T-0
地耐力	$50 \text{ kN/m}^2$ とする。
その他	詳細は現場係員の指示による。

スラブリスト					
スラブ	スラブ厚	位置	主筋	副筋	備考
S1	120	全断面	D13-200@	D13-200@	シングル
FS1	200	全断面	D13-200@	D13-200@	ダブル

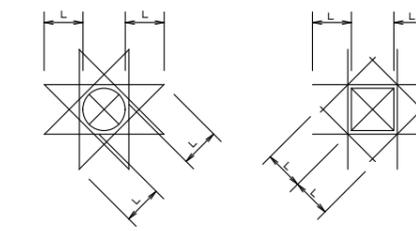
スラブ筋等の重ねつぎで長さは小径の40d以上とする。



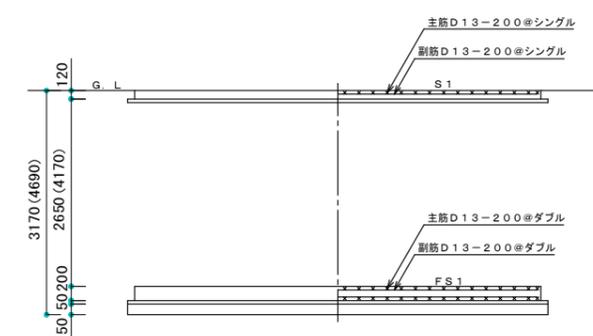
基礎スラブ配筋図 S=1/50 主筋方向



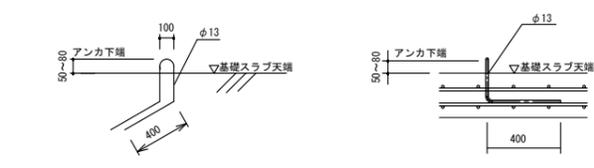
基礎スラブ段差部配筋詳細



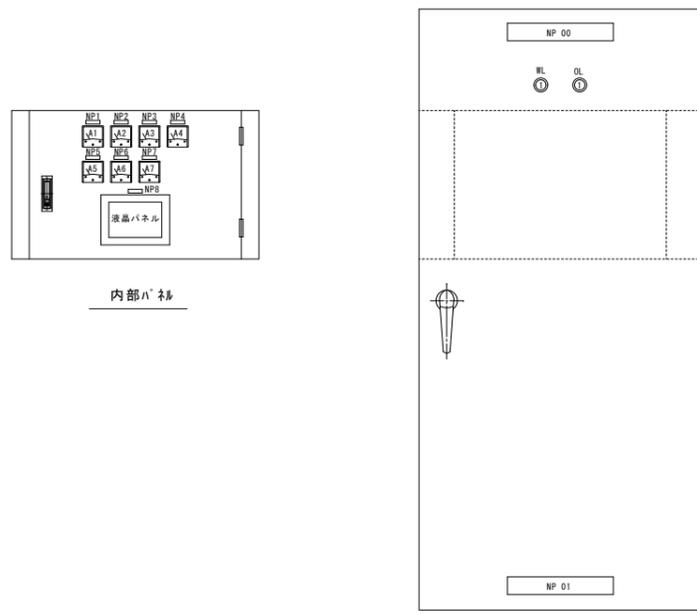
開口部補強筋



A-A断面配筋図 S=1/50



浮上防止バンドアカー図 SUS



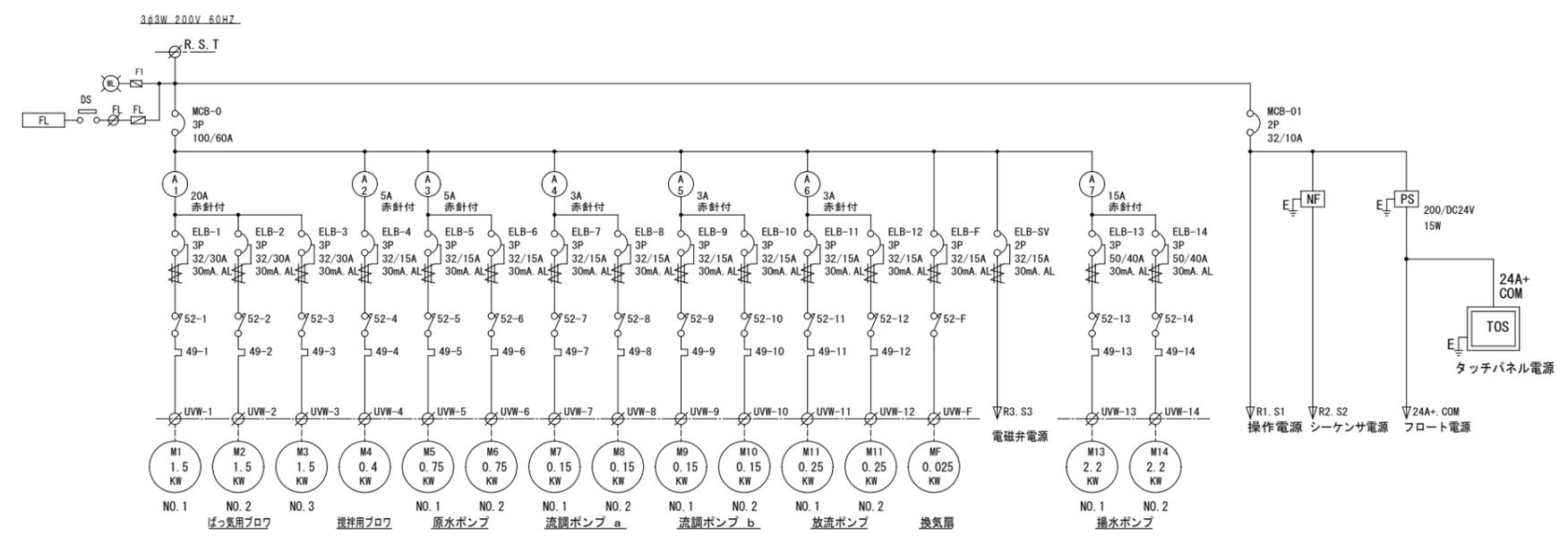
符号	記入文字
NP 00	汚水処理装置制御盤
NP 01	社名板
NP 1	ばっ気用ブロフ
NP 2	攪拌用ブロフ
NP 3	原水ポンプ
NP 4	流調ポンプ a
NP 5	流調ポンプ b
NP 6	放流ポンプ
NP 7	揚水ポンプ
NP 8	操作パネル
WL 1	AC200V電源
OL 1	一括故障

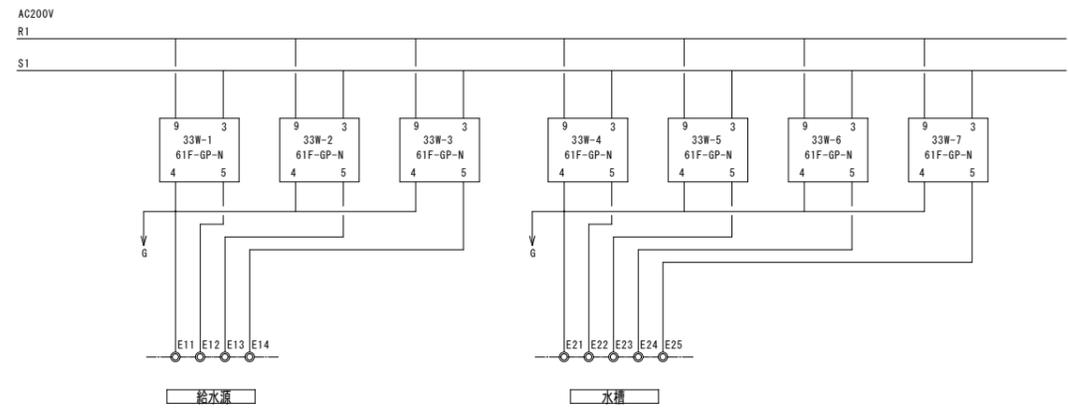
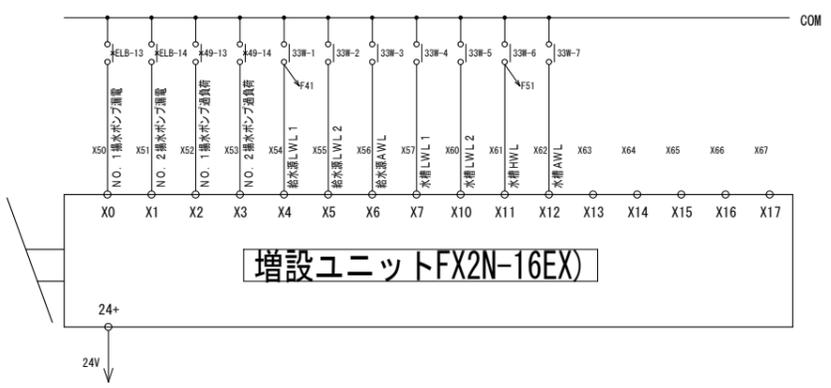
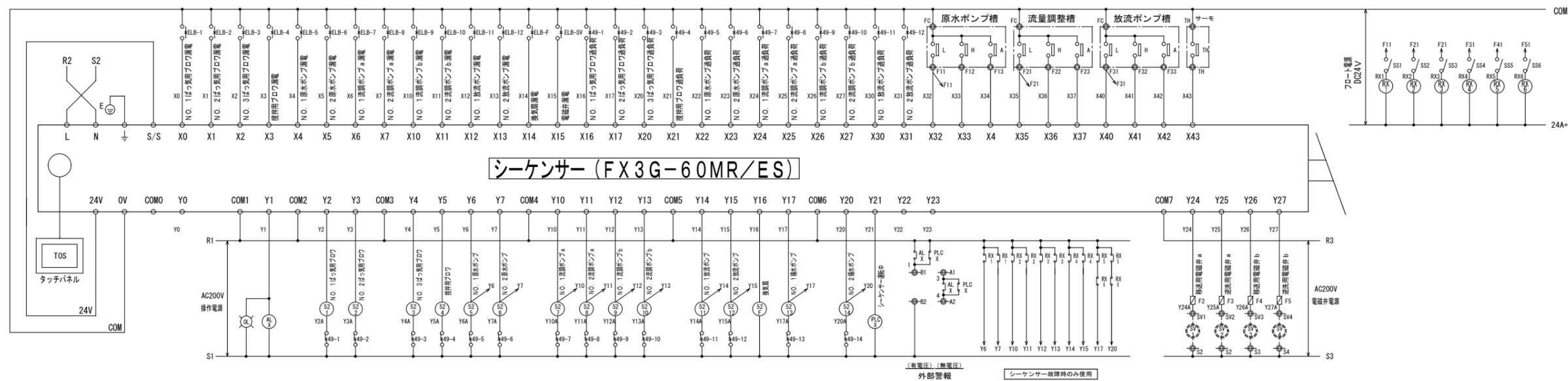
機械室製作仕様	
構造	屋外自立型 鋼板製
板厚	本体 2.3t
	扉 2.3t
	中扉 2.3t
	機器取付板 2.3t
塗装色	外面 5Y7/1半艶 内面 5Y7/1半艶

制御盤外形姿図 S=1/10

※ 参考図面とし、機械室に一体型組込みとする。

ガラスウール 25 t (クロス押さえ) 内張り



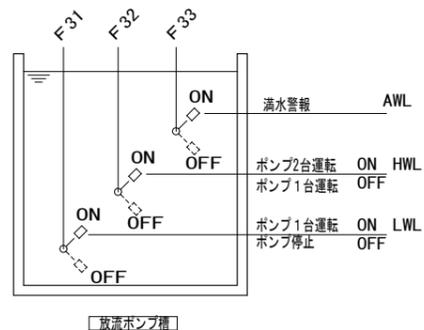
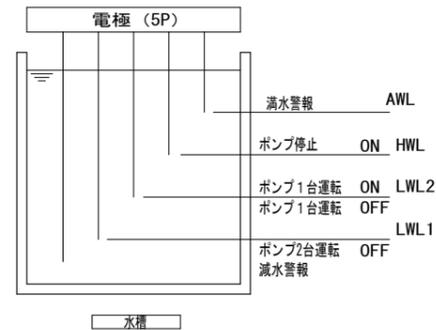
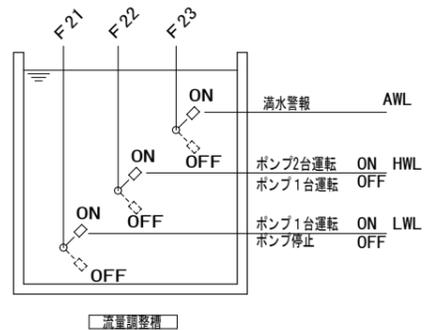
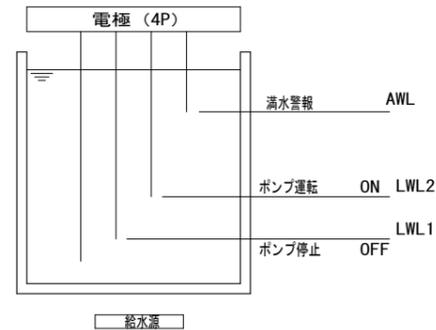
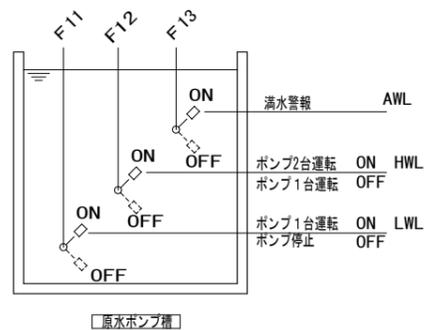


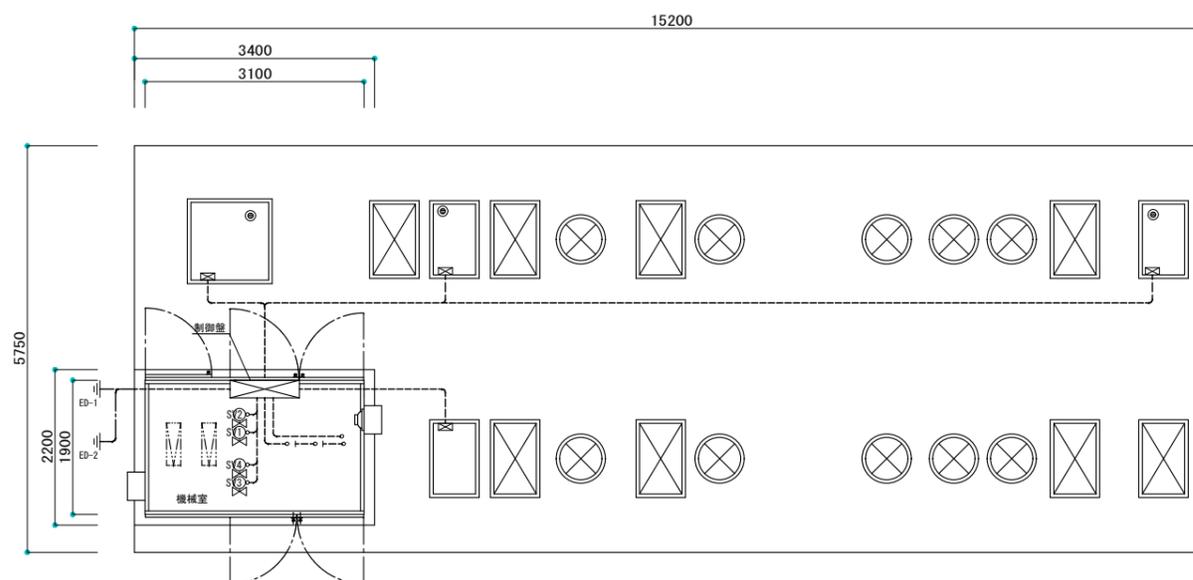
動作表

機器NO.	機器名称	警報			機器選択			備考
		満水 (減水)	故障 漏電 過負荷		手動	自動	自動 (自交) 移行	
M1	NO. 1ばっ気用ブロウ	○	○	○				タイマ設定による自動交互運転。 ただし、逆洗時間帯は切替を行わず、逆洗終了時に切替え。 「両系列」選択時は2台同時ローテーション運転 「片系列」選択時は1台ローテーション運転 「両系列/片系列」を選択可能とすること、又「片系列選択時に「a系列/b系列」を選択可能とすること。
M2	NO. 2ばっ気用ブロウ	○	○	○				
M3	NO. 2ばっ気用ブロウ	○	○	○				
M4	攪拌用ブロウ	○	○	○				入切
M5	NO. 1原水ポンプ	○	○	○				* 機器番号選択時、原水槽L以上検出にて選択機運転、L未満にて停止。 * 交互選択時、原水槽L以上検出にて1台交互運転、L未満で停止にて、次回1台運転時、他方の機器を運転。(自動交互) * 交互選択時、原水槽H以上検出中は2台同時運転。
M6	NO. 2原水ポンプ	○	○	○				
M7	NO. 1流調ポンプa	○	○	○				* 逆洗動作終了後の沈殿中および、逆洗動作中の汚泥移送・逆洗電磁弁運転中は停止。 * 機器番号選択時、流量調整槽L以上検出にて選択機運転、L未満にて停止。 * 交互選択時、流量調整槽L以上検出にて1台交互運転、L未満で停止にて、次回1台運転時、前回とは他方の機器を運転。(自動交互) * 交互選択時、流量調整槽H以上検出中は2台同時運転
M8	NO. 2流調ポンプa	○	○	○				
M9	NO. 1流調ポンプb	○	○	○				* 逆洗動作終了後の沈殿中および、逆洗動作中の汚泥移送・逆洗電磁弁運転中は停止。 * 機器番号選択時、流量調整槽L以上検出にて選択機運転、L未満にて停止。 * 交互選択時、流量調整槽L以上検出にて1台交互運転、L未満で停止にて、次回1台運転時、前回とは他方の機器を運転。(自動交互) * 交互選択時、流量調整槽H以上検出中は2台同時運転
M10	NO. 2流調ポンプb	○	○	○				
M11	NO. 1放流ポンプ	○	○	○				* 機器番号選択時、放流槽L以上検出にて選択機運転、L未満にて停止。 * 交互選択時、放流槽L以上検出にて1台交互運転、L未満で停止にて、次回1台運転時、前回とは他方の機器を運転。(自動交互) * 交互選択時、放流槽H以上検出中は2台同時運転。
M12	NO. 2放流ポンプ	○	○	○				
SV1	移送用電磁弁 a				○	○		* 逆洗時間帯の汚泥移送動作中にタイマ設定時間運転。 * 逆洗時間帯外の通常運転中に、タイマ設定による間欠運転。ただし、間欠オフ時間に「0」設定にて連続運転。
SV2	逆洗用電磁弁 a				○	○		* 逆洗時間帯の逆洗動作中にタイマ設定時間運転。
SV3	移送用電磁弁 b				○	○		* 逆洗時間帯の汚泥移送動作中にタイマ設定時間運転。 * 逆洗時間帯外の通常運転中に、タイマ設定による間欠運転。ただし、間欠オフ時間に「0」設定にて連続運転。
SV4	逆洗用電磁弁 b				○	○		* 逆洗時間帯の逆洗動作中にタイマ設定時間運転。
M13	NO. 1揚水ポンプ	○	○	○				* 自動条件：給水源L2以上検出にて運転、L1未満にて停止。かつ水槽H以上検出にて停止。(機器番号選択時及び交互選択時) * 交互選択時、水槽L2未満にて1台交互運転、L未満で停止にて、次回1台運転時、前回とは他方の機器を運転。(自動交互) * 交互選択時、水槽L1未満にて2台同時運転、L2以上検出にて1台運転
M14	NO. 2揚水ポンプ	○	○	○				

タイマ設定

タイマ種類	初期設定	役割	備考
ブロウ交互運転 (24hタイマ)	起点時刻設定 0:00 サイクル12時間毎(1~24)	ブロウの交互運転用	1/100時間おきにブロウを交互に動作させます。(ブロウの故障予防) 通常設定を変更する必要はありません
切替(通常/逆洗) (24hタイマ)	1:00~4:00「ON」 (3項目設定可能)	通常運転と逆洗運転の切替をします	「ON」の間に逆洗運転が行われます。
汚泥移送(通常) (ツインタイマ)	5分「ON」 175分「OFF」	通常運転での汚泥移送を行います	「ON」の間に汚泥移送が行われます。 「OFF」の時間と合わせて3時間おきとなっています。
沈殿(通常) (ソリッドタイマ)	30分「ON」 ※60分まで設定できること	逆洗運転終了後、流入による汚泥流出を抑える為に槽内汚泥を沈殿させます	「ON」の間、流調ポンプを停止させ生物ろ過槽内汚泥の沈殿を行います。 但し、流量調整槽の水位がHHLに達した場合ポンプが起動します。 ※このタイマは通常運転時に切り替わった時点から30分間起動するタイマです。
汚泥移送(逆洗) (ツインタイマ)	10分「ON」 15分「OFF」	逆洗運転時の汚泥移送を行います	「ON」の間汚泥移送が行われます。 「OFF」の間10分間逆洗が行われます。残りの5分で水位を回復させますので必ず、 「OFF」の間「逆洗」時間を5分とするように設定して下さい。
逆洗 (ソリッドタイマ)	10分「ON」	逆洗運転時に逆洗を行います	「ON」の間生物ろ過槽内をばっ気し、ろ材の逆洗を行います。 逆洗は汚泥移送(逆洗)タイマが「OFF」の間に行います。 ※このタイマは逆洗運転時に汚泥移送(逆洗)タイマが「OFF」に切り替わった時点から10分間起動するタイマです。
ロック防止 (24hタイマ+子タイマ)	サイクル24時間毎 5秒「ON」	使用しない水中ポンプのロック防止	「ON」の間に選択していない系列の水中ポンプ運転します。 「有効/無効」の選択付





2次側配線図 S=1/50

注意事項

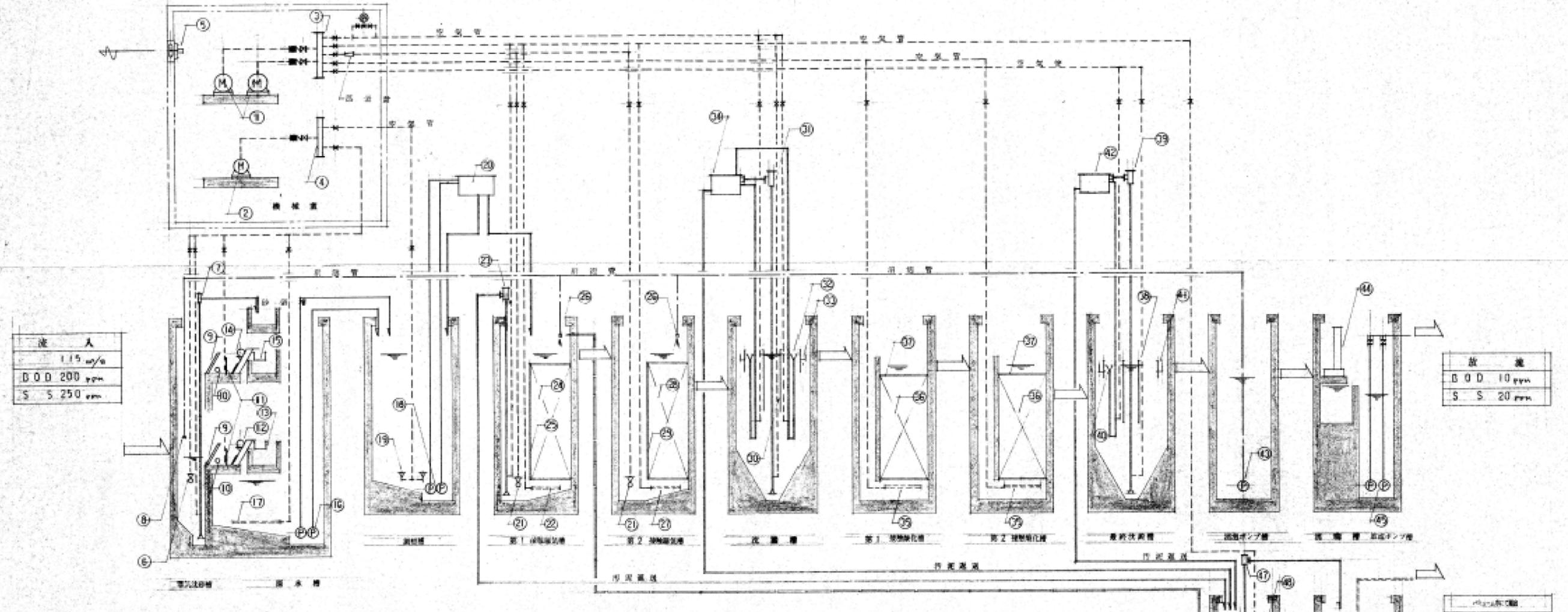
1. 一次側電源引き込み工事は別途工事とする。
2. 外部警報配線工事は別途工事とする。
3. ケーブル間の接続部は十分な防水処理を行うこと。
4. 電線管端部にはコーキング処理を行うこと。
5. プルボックスの取付位置は現場合わせとする。
6. 配管経路は現場合わせとする。

符号	機器名称	容量 (kW)	使用ケーブル、電線管
Ⓜ <sub>1</sub>	No. 1ばっ気用ブロワ	1.50 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>2</sub>	No. 2ばっ気用ブロワ	1.50 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>3</sub>	No. 3ばっ気用ブロワ	1.50 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>4</sub>	攪拌用ブロワ	0.40 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>5</sub>	NO. 1原水ポンプ	0.75 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>6</sub>	NO. 2原水ポンプ	0.75 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>7</sub>	NO. 1流量ポンプa	0.15 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>8</sub>	NO. 2流量ポンプa	0.15 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>9</sub>	NO. 1流量ポンプb	0.15 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>10</sub>	NO. 2流量ポンプb	0.15 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>11</sub>	No. 1放流ポンプ	0.25 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>12</sub>	No. 2放流ポンプ	0.25 kW	CV 2 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>13</sub>	移送用電磁弁 a	3.2 A モールドコイル ターミナルキャップ付	0.048 kW CV 2 mm <sup>2</sup> - 2 心 (PF22)
Ⓜ <sub>14</sub>	逆洗用電磁弁 a	3.2 A モールドコイル ターミナルキャップ付	0.048 kW CV 2 mm <sup>2</sup> - 2 心 (PF22)
Ⓜ <sub>15</sub>	移送用電磁弁 b	3.2 A モールドコイル ターミナルキャップ付	0.048 kW CV 2 mm <sup>2</sup> - 2 心 (PF22)
Ⓜ <sub>16</sub>	逆洗用電磁弁 b	3.2 A モールドコイル ターミナルキャップ付	0.048 kW CV 2 mm <sup>2</sup> - 2 心 (PF22)
	機械室/換気扇・照明・サーモ		機械室設備に含む
Ⓜ <sub>F11-F13</sub>	原水ポンプ槽 フロートスイッチ		CV V1. 2.5 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>F21-F23</sub>	流量調整槽 フロートスイッチ		CV V1. 2.5 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
Ⓜ <sub>F31-F33</sub>	放流ポンプ槽 フロートスイッチ		CV V1. 2.5 mm <sup>2</sup> - 4 心 (PF22)
ED-1	D種接地工事 (筐体)		E 5.5 mm <sup>2</sup> (PF16)
ED-2	D種接地工事 (ELB)		E 5.5 mm <sup>2</sup> (PF16)

符号	機器名称	容量 (kW)	使用ケーブル、電線管
Ⓜ <sub>13</sub>	No. 1揚水ポンプ	2.20 kW	別途工事
Ⓜ <sub>14</sub>	No. 2揚水ポンプ	2.20 kW	別途工事
Ⓜ <sub>FL4</sub>	給水源 電極棒		別途工事
Ⓜ <sub>FL5</sub>	水槽 電極棒		別途工事

符号	名称	仕様・型式
PB1	プルボックス	200 <sup>□</sup> ×100 (VE・WP)

フローシート



流入
1.15 m³/s
D.O.D. 200 ppm
S.S. 250 ppm

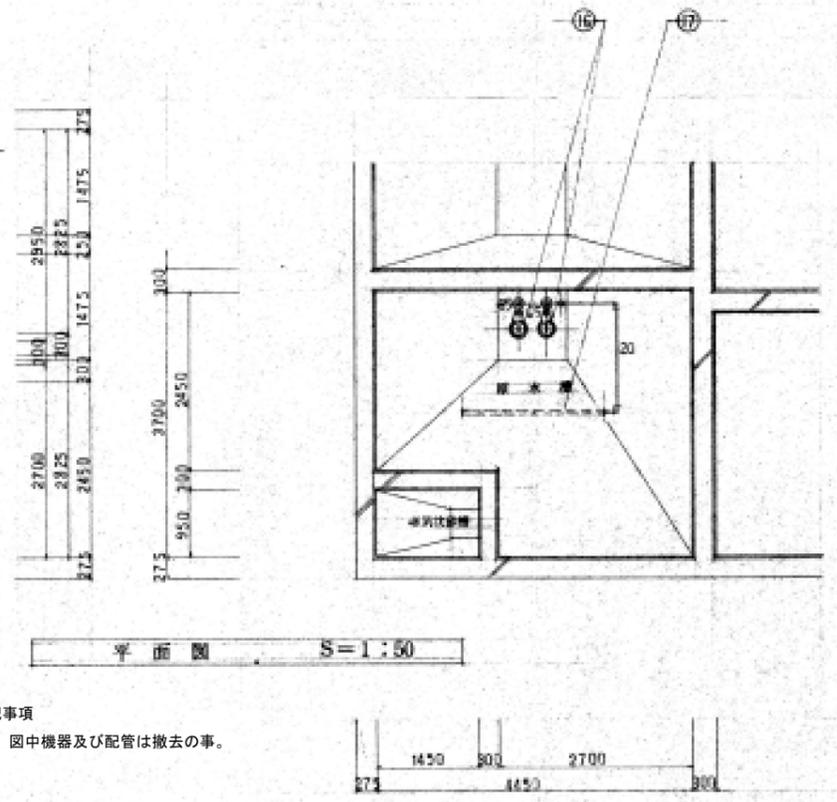
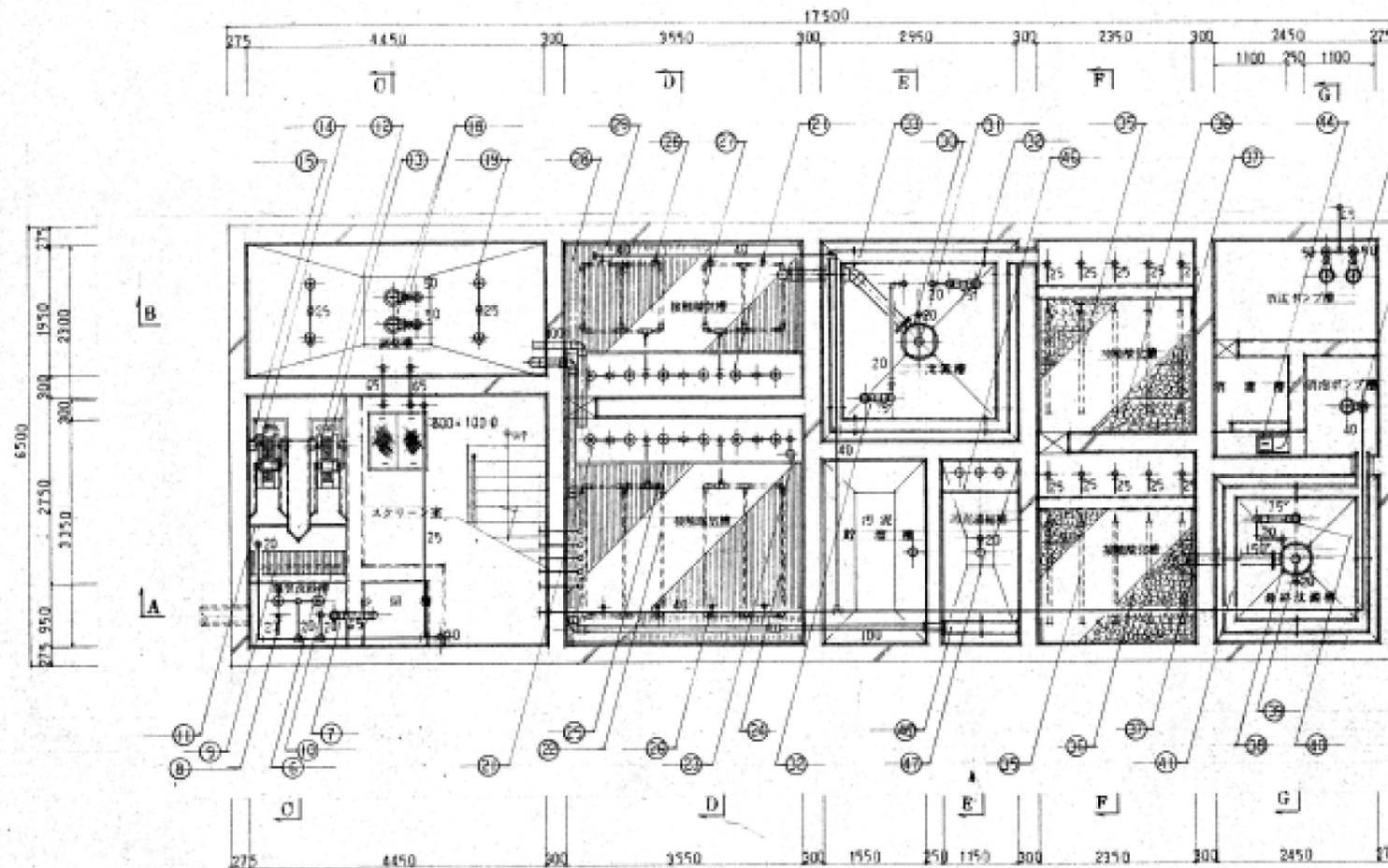
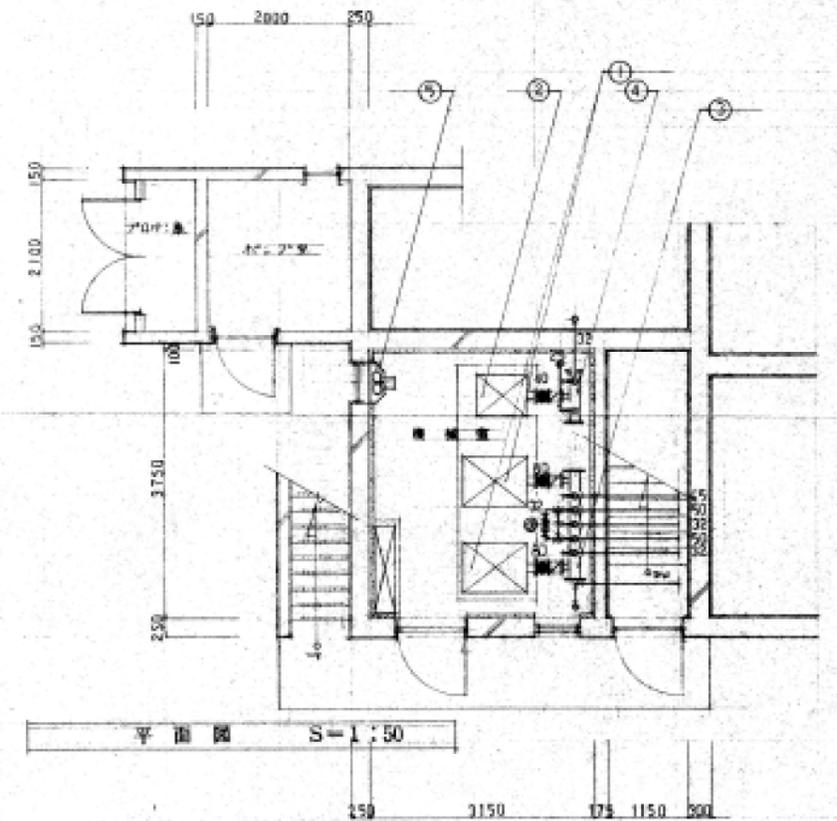
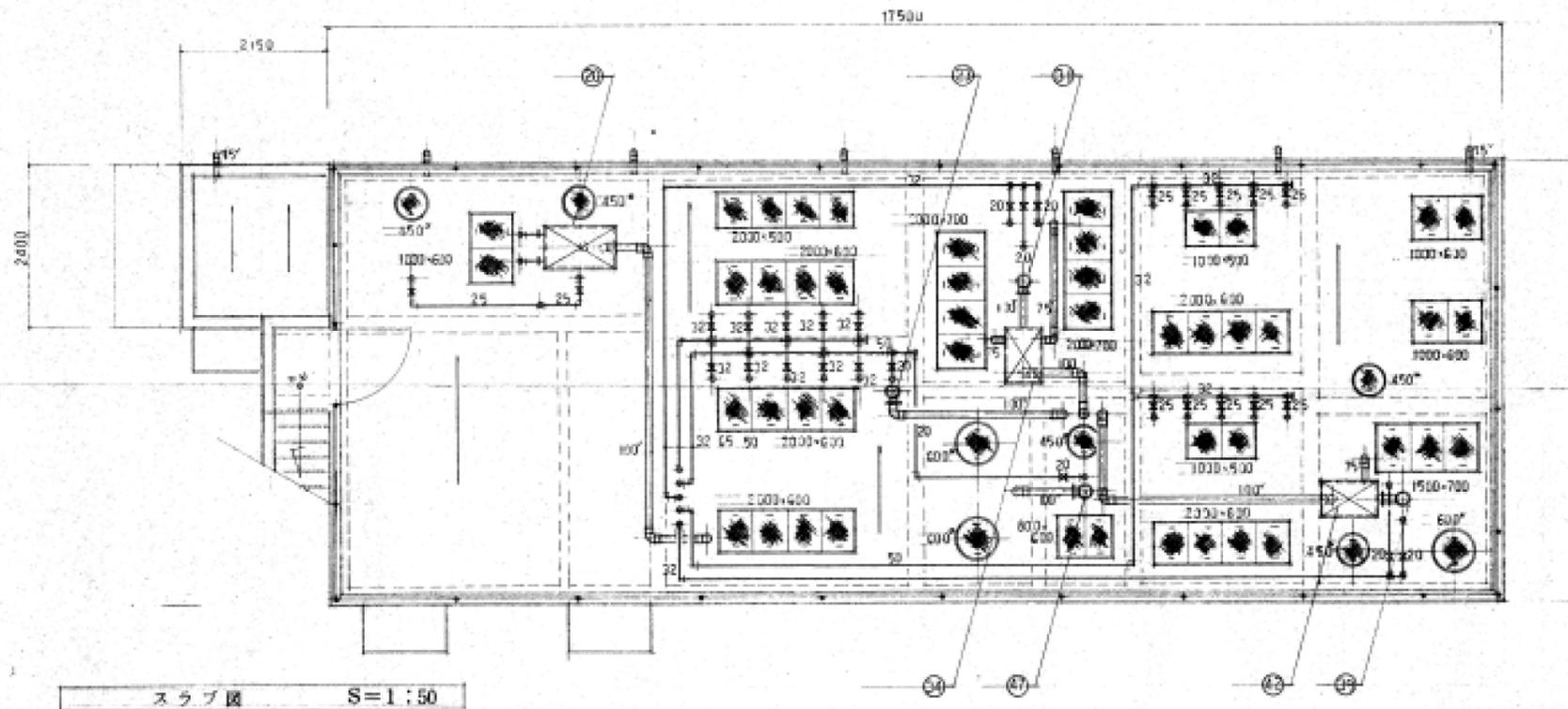
放流
D.O.D. 10 ppm
S.S. 20 ppm

機器表 (撤去)

品番	名称	仕様	数量	品番	名称	仕様	数量		
1	電動機カバー	80 <sup>φ</sup> × 4.43 <sup>mm</sup> × 0.4 <sup>mm</sup> × 5.5 <sup>mm</sup>	4-ツタダイヤ	2	26	スプレッド板	15 <sup>mm</sup>	PVC	8
2	電動機カバー	40 <sup>φ</sup> × 0.77 <sup>mm</sup> × 0.4 <sup>mm</sup> × 1.5 <sup>mm</sup>		1	27	逆洗排水管	30 <sup>φ</sup> × 1200 × 800		2
3	ヘッド	100 <sup>φ</sup> × 1500 <sup>mm</sup>	S&P	1	28	取除戸板		ステンレス	15
4	ヘッド	50 <sup>φ</sup> × 800 <sup>mm</sup>		1	29	戸付受金物		SUS	1
5	換気扇	250 <sup>φ</sup> × 10 <sup>mm</sup>		1	30	コンクリート	500 <sup>φ</sup> × 1500	PVC	1
6	ブローダー		AT-1710タイプ	2	31	AT-1710タイプ	100 <sup>φ</sup>		1
7	AT-1710タイプ		PVC	1	32	ステンレスキラー	75 <sup>φ</sup>		2
8	スプレッド板	15 <sup>mm</sup>		1	33	補修トランプ	2650 × 2650		1
9	電動機カバー		SUS	1	34	汚泥計測器	800 × 500 × 500 <sup>φ</sup>		1
10	取除戸板	25 <sup>φ</sup> × 1200 <sup>φ</sup>	PVC	1	35	取除戸板	25 <sup>φ</sup> × 1500 <sup>φ</sup>		10
11	ゲート		SUS	2	36	取除戸板		ステンレス	28
12	取除戸板	25 <sup>φ</sup> × 30 <sup>mm</sup>	SUS	1	37	戸付受金物		SUS	1
13	シールパッキン			1	38	メンテナンス	400 <sup>φ</sup> × 1300	PVC	1
14	メンテナンス	5 <sup>φ</sup> × 30 <sup>mm</sup>		1	39	AT-1710タイプ	100 <sup>φ</sup>		1
15	メンテナンス			1	40	ステンレスキラー	75 <sup>φ</sup>		1
16	取水ポンプ	65 <sup>φ</sup> × 0.2 <sup>mm</sup> × 8 <sup>φ</sup> × 1.5 <sup>mm</sup>	汚泥集積器	2	41	補修トランプ	2700 × 2200		1
17	排水ポンプ	25 <sup>φ</sup> × 2000 <sup>φ</sup>	PVC	1	42	汚泥計測器	800 × 500 × 500 <sup>φ</sup>		1
18	排水ポンプ	50 <sup>φ</sup> × 0.15 <sup>mm</sup> × 6 <sup>φ</sup> × 0.75 <sup>mm</sup>	汚泥集積器	2	43	汚泥ポンプ	40 <sup>φ</sup> × 0.09 <sup>mm</sup> × 9 <sup>φ</sup> × 0.4 <sup>mm</sup>	ステンレス	1
19	ブローダー		ステンレス	4	44	取除戸板		PVC	1
20	汚泥計測器	1000 × 800 × 500 <sup>φ</sup>	PVC	1	45	取水ポンプ	50 <sup>φ</sup> × 0.15 <sup>mm</sup> × 5 <sup>φ</sup> × 0.75 <sup>mm</sup>	ステンレス(電機付)	2
21	ブローダー		AT-1710タイプ	12	46	メンテナンス		PVC	1
22	逆洗排水管	30 <sup>φ</sup> × 1200 × 1800	PVC	2	47	AT-1710タイプ	100 <sup>φ</sup>		1
23	AT-1710タイプ			1	48	補修トランプ	1200 × 1200		1
24	取除戸板		ステンレス	3					
25	戸付受金物		SUS	1					

既設浄化槽 フローシート及び機器表

特記事項  
1. 図中機器及び配管は撤去の事。



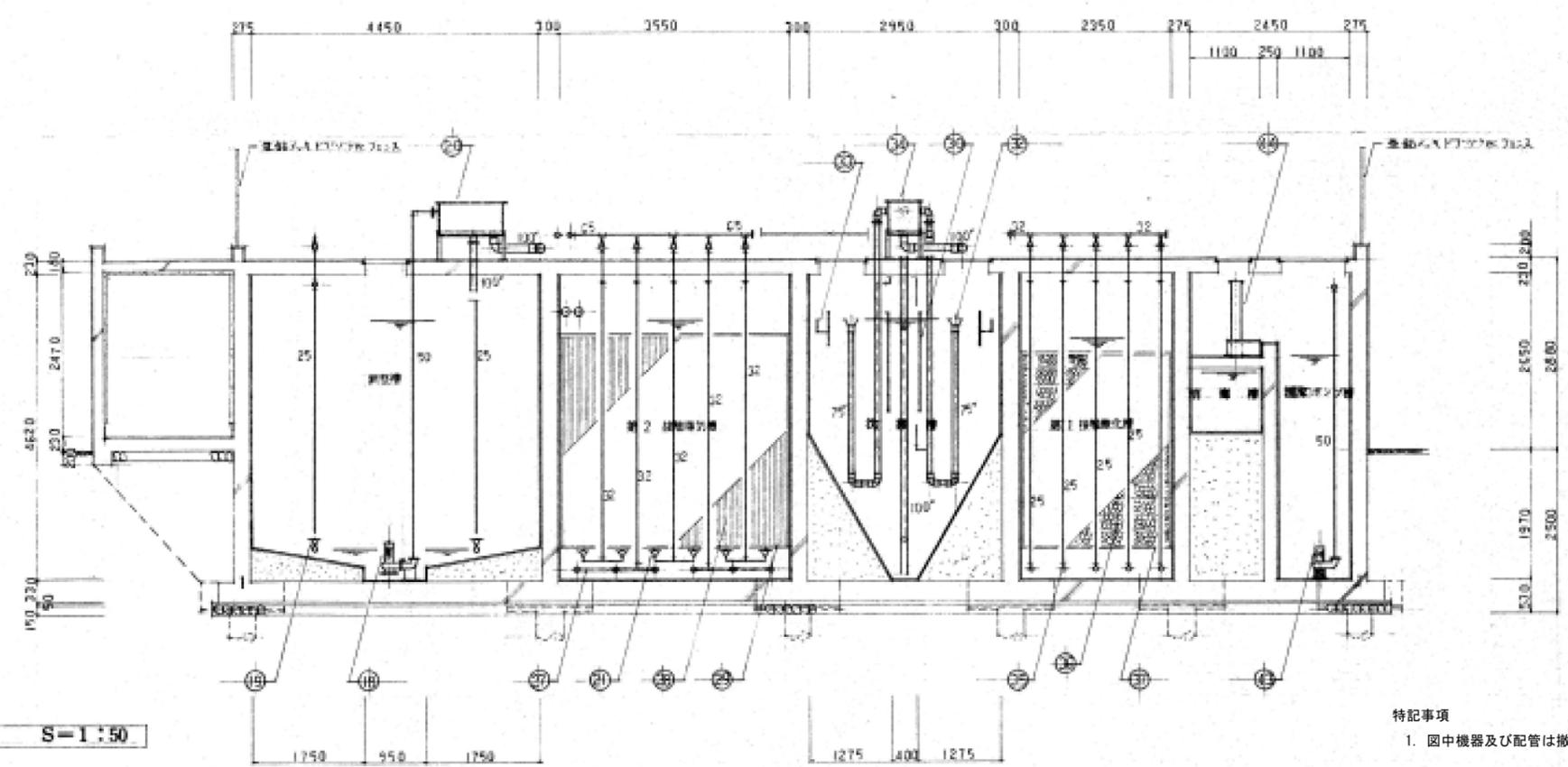
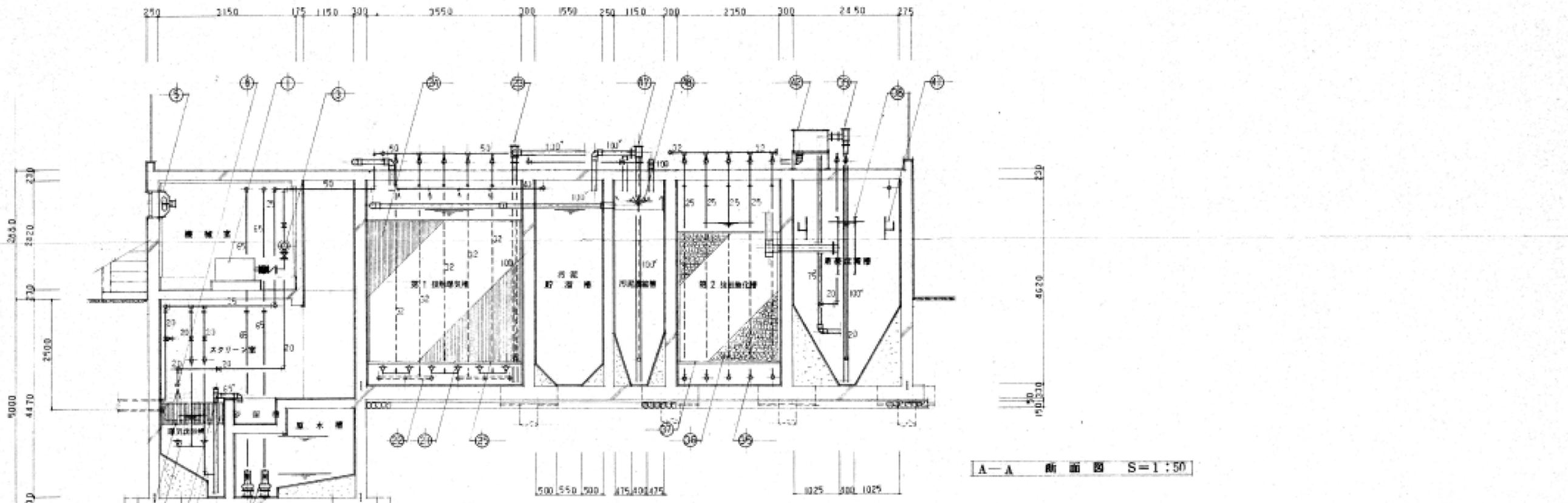
特記事項  
1. 図中機器及び配管は撤去の事。

平面図 S=1:50 (撤去)

平面図 S=1:50

DATE 行橋市民体育館建設工事

特 記 事 項 	田頭一級建築設計事務所 福岡県行橋市北原四丁目28-16 TEL 0930-25-3444	一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20466号 田頭 康典 一級建築士 大臣登録第126902号	工事名称 行橋市民体育館浄化槽更新工事 図面名称 既設浄化槽 平面図	縮尺 S=1/50	製図年月日 2021年 1月 所長 検図 作図
	M-15				



特記事項  
1. 図中機器及び配管は撤去の事。

特記事項	田頭一級建築設計事務所 福岡県行橋市北原四丁目28-16 TEL 0930-25-3444	一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-20466号 田頭 康典 一級建築士 大臣登録第126902号	工事名称	行橋市民体育館浄化槽更新工事	縮尺	2021年 1月		
			図面名称	既設浄化槽 断面図	S=1/50	所長	検図	作図